

日 本 国 特 許 庁  
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日            2 0 0 3 年   3 月 2 7 日  
Date of Application:

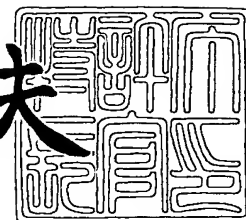
出 願 番 号            特 願 2 0 0 3 - 0 8 8 5 0 7  
Application Number:  
[ST. 10/C]:            [ J P 2 0 0 3 - 0 8 8 5 0 7 ]

出   願   人            セイコーエプソン株式会社  
Applicant(s):

2 0 0 4 年   2 月 2 0 日

特許庁長官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

今 井 康 夫



出証番号   出証特 2 0 0 4 - 3 0 1 2 1 1 3



【書類名】 特許願

【整理番号】 15P108

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 B41J 2/01

【発明者】

    【住所又は居所】 長野県諏訪市大和 3 丁目 3 番 5 号 セイコーエプソン株式会社内

    【氏名】 樋口 浩司

【発明者】

    【住所又は居所】 長野県諏訪市大和 3 丁目 3 番 5 号 セイコーエプソン株式会社内

    【氏名】 新川 修

【発明者】

    【住所又は居所】 長野県諏訪市大和 3 丁目 3 番 5 号 セイコーエプソン株式会社内

    【氏名】 坂上 裕介

【特許出願人】

    【識別番号】 000002369

    【氏名又は名称】 セイコーエプソン株式会社

【代理人】

    【識別番号】 100091292

    【弁理士】

    【氏名又は名称】 増田 達哉

    【電話番号】 3595-3251

【選任した代理人】

    【識別番号】 100091627

    【弁理士】

    【氏名又は名称】 朝比 一夫

    【電話番号】 3595-3251

## 【手数料の表示】

【予納台帳番号】 007593

【納付金額】 21,000円

## 【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 0015134

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 液滴吐出装置

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 駆動回路により駆動されるアクチュエータと、前記アクチュエータの駆動により変位する振動板とを有し、前記駆動回路によりアクチュエータを駆動し、キャビティ内の液体をノズルから液滴として吐出する複数の液滴吐出ヘッドを備える液滴吐出装置であって、

少なくとも電源投入の際、前記振動板の残留振動を検出し、該検出された前記振動板の残留振動の振動パターンに基づいて、前記液滴吐出ヘッドの吐出異常を検出するとともに、その吐出異常を解消させる回復処理を決定する吐出異常検出・回復処理決定手段と、

前記吐出異常検出・回復処理決定手段により決定された回復処理を実行する回復手段とを有することを特徴とする液滴吐出装置。

【請求項 2】 前記吐出異常検出・回復処理決定手段は、前記駆動回路により液滴を吐出しない程度に前記アクチュエータを駆動した際の前記振動板の残留振動の振動パターンに基づいて、前記液滴吐出ヘッドの吐出異常を検出するとともに、その吐出異常を解消させる回復処理を決定する請求項 1 に記載の液滴吐出装置。

【請求項 3】 前記吐出異常検出・回復処理決定手段は、前記振動板の残留振動の振動パターンに基づいて、前記液滴吐出ヘッドの吐出異常の原因を検出する機能を有する請求項 1 または 2 に記載の液滴吐出装置。

【請求項 4】 前記吐出異常検出・回復処理決定手段は、前記液滴吐出ヘッドの吐出異常が検出された場合、前記液滴吐出ヘッドに対し、その吐出異常の原因に応じて、前記吐出異常の原因を解消させる回復処理を決定する請求項 3 に記載の液滴吐出装置。

【請求項 5】 前記回復手段は、前記液滴吐出ヘッドのノズルが配列されるノズル面をワイパによりワイピング処理を行うワイピング手段と、前記アクチュエータを駆動して前記液滴吐出ヘッドのノズルから前記液滴を予備的に吐出するフラッシング処理を行うフラッシング手段と、前記液滴吐出ヘッドのノズル面を



覆うキャップに接続するポンプによりポンプ吸引処理を行うポンピング手段とを含む請求項 1 ないし 4 のいずれかに記載の液滴吐出装置。

【請求項 6】 前記吐出異常検出・回復処理決定手段は、前記液滴吐出ヘッドの吐出異常の原因が前記キャビティ内への気泡の混入と判定した場合には、その吐出異常を解消させる回復処理として、前記ポンプ吸引処理を選択する請求項 5 に記載の液滴吐出装置。

【請求項 7】 前記吐出異常検出・回復処理決定手段は、前記液滴吐出ヘッドの吐出異常の原因が前記ノズルの出口付近に紙粉が付着したものと判定した場合には、その吐出異常を解消させる回復処理として、少なくとも前記ワイピング処理を選択する請求項 5 または 6 に記載の液滴吐出装置。

【請求項 8】 前記吐出異常検出・回復処理決定手段は、前記液滴吐出ヘッドの吐出異常の原因が前記ノズル付近の液体が乾燥により増粘したものと判定した場合には、その吐出異常を解消させる回復処理として、前記フラッシング処理または前記ポンプ吸引処理を選択する請求項 5 ないし 7 のいずれかに記載の液滴吐出装置。

【請求項 9】 前記吐出異常検出・回復処理決定手段は、前記液滴吐出ヘッドの吐出異常の原因が前記ノズル付近の液体が乾燥により増粘したものと判定した場合には、その吐出異常を解消させる回復処理として、前記フラッシング処理を選択する請求項 5 ないし 7 のいずれかに記載の液滴吐出装置。

【請求項 10】 前記吐出異常検出・回復処理決定手段は、前記フラッシング手段によるフラッシング処理を所定回行っても前記吐出異常が解消されない場合、その吐出異常を解消させる回復処理として、前記ポンプ吸引処理を選択する請求項 9 に記載の液滴吐出装置。

【請求項 11】 前記ポンピング手段によるポンプ吸引処理を所定回行っても前記吐出異常が解消されない場合、その情報を報知する報知手段を有する請求項 5 ないし 10 のいずれかに記載の液滴吐出装置。

【請求項 12】 前記振動板の残留振動の振動パターンは、前記残留振動の周期を含む請求項 1 ないし 11 のいずれかに記載の液滴吐出装置。

【請求項 13】 前記吐出異常検出・回復処理決定手段は、前記振動板の残

留振動の周期が所定の範囲の周期よりも短いときには、前記キャビティ内に気泡が混入したものと判定し、前記振動板の残留振動の周期が所定の閾値よりも長いときには、前記ノズル付近の液体が乾燥により増粘したものと判定し、前記振動板の残留振動の周期が前記所定の範囲の周期よりも長く、前記所定の閾値よりも短いときには、前記ノズルの出口付近に紙粉が付着したものと判定する請求項 12 に記載の液滴吐出装置。

【請求項 14】 前記吐出異常検出・回復処理決定手段は、発振回路を備え、前記振動板の残留振動によって変化する静電容量成分に基づいて、該発振回路が発振する請求項 1 ないし 13 のいずれかに記載の液滴吐出装置。

【請求項 15】 前記吐出異常検出・回復処理決定手段は、発振回路を備え、前記振動板の残留振動によって変化する前記アクチュエータの静電容量成分に基づいて、該発振回路が発振する請求項 1 ないし 13 のいずれかに記載の液滴吐出装置。

【請求項 16】 前記発振回路は、前記アクチュエータの静電容量成分と、前記アクチュエータに接続される抵抗素子の抵抗成分とによる CR 発振回路を構成する請求項 15 に記載の液滴吐出装置。

【請求項 17】 前記吐出異常検出・回復処理決定手段は、前記発振回路の出力信号における発振周波数の変化に基づいて生成される所定の信号群により、前記振動板の残留振動の電圧波形を生成する F/V 変換回路を含む請求項 15 または 16 に記載の液滴吐出装置。

【請求項 18】 前記吐出異常検出・回復処理決定手段は、前記 F/V 変換回路によって生成された前記振動板の残留振動の電圧波形を所定の波形に整形する波形整形回路を含む請求項 17 に記載の液滴吐出装置。

【請求項 19】 前記波形整形回路は、前記 F/V 変換回路によって生成された前記振動板の残留振動の電圧波形から直流成分を除去する DC 成分除去手段と、この DC 成分除去手段によって直流成分を除去された電圧波形と所定の電圧値とを比較する比較器とを含み、該比較器は、該電圧比較に基づいて、矩形波を生成して出力する請求項 18 に記載の液滴吐出装置。

【請求項 20】 前記吐出異常検出・回復処理決定手段は、前記波形整形回

路によって生成された前記矩形波から前記振動板の残留振動の周期を計測する計測手段を含む請求項 19 に記載の液滴吐出装置。

【請求項 21】 前記計測手段は、カウンタを有し、該カウンタが基準信号のパルスをカウントすることによって、前記矩形波の立ち上がりエッジ間あるいは立ち上がりエッジと立ち下がりエッジの間の時間を計測する請求項 20 に記載の液滴吐出装置。

【請求項 22】 前記アクチュエータは、静電式アクチュエータである請求項 1 ないし 21 のいずれかに記載の液滴吐出装置。

【請求項 23】 前記アクチュエータは、圧電素子のピエゾ効果を利用した圧電アクチュエータである請求項 1 ないし 21 のいずれかに記載の液滴吐出装置。

【請求項 24】 前記アクチュエータは、通電により発熱する発熱体を備える膜沸騰式アクチュエータである請求項 1 ないし 14 のいずれかに記載の液滴吐出装置。

【請求項 25】 前記振動板は、前記キャビティ内の圧力の変化に追従して弾性的に変形する請求項 24 に記載の液滴吐出装置。

【請求項 26】 前記吐出異常検出・回復処理決定手段によって検出された前記吐出異常の原因を検出対象の液滴吐出ヘッドと関連付けて記憶する記憶手段を備える請求項 1 ないし 25 のいずれかに記載の液滴吐出装置。

【請求項 27】 前記液滴吐出装置は、インクジェットプリンタを含む請求項 1 ないし 26 のいずれかに記載の液滴吐出装置。

#### 【発明の詳細な説明】

##### 【0001】

#### 【発明の属する技術分野】

本発明は、液滴吐出装置に関する。

##### 【0002】

#### 【従来の技術】

液滴吐出装置の一つであるインクジェット記録装置においては、装置が印字を行わない状態で長時間放置されると、記録ヘッドの吐出孔を介したインクの溶媒

(例えば水溶性インクの場合の水分)の蒸発によりインク粘度が増加したり(以下「増粘インク」とも言う)、インク供給系での空気混入や元々インクの中にあった微細気泡の成長によってインク中に比較的大きな気泡を発生させたりすることがある。このようなインク粘度の増加や気泡の発生が記録ヘッドの吐出孔に連通したインク流路等に生じると、再度電源を投入し印刷を行っても、記録ヘッドにおける吐出が正常に行われなくなる。

#### 【0003】

このような原因による吐出不良に対して、インクジェット記録装置では、例えば、記録ヘッドの吐出孔面を被覆してインクの増粘を防止するキャッピング、このキャッピング状態で吐出孔からインクをポンプ等で吸引して増粘インクを排出させるポンプ吸引、あるいはインク吸収体等で構成される所定のインク受けにインクを吐出し増粘インクを排出するフラッシング等の回復処理が行われる。

#### 【0004】

従来のインクジェット記録装置では、次に電源を投入した際には、前述の回復処理を組み合わせた所定の回復動作を自動的に行うもの、あるいは操作者が必要に応じて前述の回復動作を記録装置に指示し実行させていた。

しかしながら、上述の回復動作を自動で行うものにおいては、例えば、頻繁に電源のオン、オフを繰り返すような装置の使われ方をする場合などには放置時間が比較的短くなるため、必ずしも電源投入毎に回復動作を行わなくてもよいことも多く、このような場合、不必要にインクを消費してしまう問題がある。

#### 【0005】

一方、操作者の判断に応じて回復動作を行なう場合、いったんインク受容体(例えば紙)にテストパターンを吐出し、操作者が目視で吐出不良の有無を確認することとなるが、インク受容体が無駄になる問題があり、また、操作者に吐出不良に関する知識が必要となり、取り扱いが面倒となるという問題があった。

これらの課題を鑑み、インクの無駄な消費をできるだけ少なくし、かつ吐出不良を防ぐ方法として、インクジェット記録装置の電源を切った後に、再び電源を投入した時点までの経過時間に応じて、記録ヘッドの回復条件(フラッシング、ポンプ吸引)を変えて回復動作をおこなうものが提案されている(例えば、特許

文献 1 など)。

#### 【0006】

しかしながら、インクは、低温乾燥時は増粘し易く、逆に、高温湿潤時は増粘し難く、経過時間にもなう回復処理の必要量は、環境によって大きく異なるが、前記特許文献 1 に開示されている方法では、このような環境による影響を検出する手段を有していないため、安全を見込んだ回復処理に設定せざるを得ず、必要以上にインクを吐出することもあり、不経済である。

また、回復処理により、インク吐出に関わるノズルが全て正常に回復したか否かは、結局紙等への出力結果を操作者が目視で判断せざるを得ず、必ずしもユーザフレンドリーとは言えなかった。更に、計時手段が必須のため、構成要素が増え、コストアップの要因にもなる。

#### 【0007】

##### 【特許文献 1】

特開平 6-122206 号公報

#### 【0008】

##### 【発明が解決しようとする課題】

本発明の目的は、電源投入の際の液滴吐出ヘッドの回復処理において、容易かつ確実に、適正な回復処理を行うことができる液滴吐出装置を提供することにある。

#### 【0009】

##### 【課題を解決するための手段】

このような目的は、下記の本発明により達成される。

本発明の液滴吐出装置は、駆動回路により駆動されるアクチュエータと、前記アクチュエータの駆動により変位する振動板とを有し、前記駆動回路によりアクチュエータを駆動し、キャビティ内の液体をノズルから液滴として吐出する複数の液滴吐出ヘッドを備える液滴吐出装置であって、

少なくとも電源投入の際、前記振動板の残留振動を検出し、該検出された前記振動板の残留振動の振動パターンに基づいて、前記液滴吐出ヘッドの吐出異常を検出するとともに、その吐出異常を解消させる回復処理を決定する吐出異常検出

・回復処理決定手段と、

前記吐出異常検出・回復処理決定手段により決定された回復処理を実行する回復手段とを有することを特徴とする。

#### 【0010】

本発明の液滴吐出装置では、前記吐出異常検出・回復処理決定手段は、前記駆動回路により液滴を吐出しえない程度に前記アクチュエータを駆動した際の前記振動板の残留振動の振動パターンに基づいて、前記液滴吐出ヘッドの吐出異常を検出するとともに、その吐出異常を解消させる回復処理を決定するのが好ましい。

本発明の液滴吐出装置では、前記吐出異常検出・回復処理決定手段は、前記振動板の残留振動の振動パターンに基づいて、前記液滴吐出ヘッドの吐出異常の原因を検出する機能を有するのが好ましい。

#### 【0011】

本発明の液滴吐出装置では、前記吐出異常検出・回復処理決定手段は、前記液滴吐出ヘッドの吐出異常が検出された場合、前記液滴吐出ヘッドに対し、その吐出異常の原因に応じて、前記吐出異常の原因を解消させる回復処理を決定するのが好ましい。

本発明の液滴吐出装置では、前記回復手段は、前記液滴吐出ヘッドのノズルが配列されるノズル面をワイパによりワイピング処理を行うワイピング手段と、前記アクチュエータを駆動して前記液滴吐出ヘッドのノズルから前記液滴を予備的に吐出するフラッシング処理を行うフラッシング手段と、前記液滴吐出ヘッドのノズル面を覆うキャップに接続するポンプによりポンプ吸引処理を行うポンピング手段とを含むのが好ましい。

#### 【0012】

本発明の液滴吐出装置では、前記吐出異常検出・回復処理決定手段は、前記液滴吐出ヘッドの吐出異常の原因が前記キャビティ内への気泡の混入と判定した場合には、その吐出異常を解消させる回復処理として、前記ポンプ吸引処理を選択するのが好ましい。

本発明の液滴吐出装置では、前記吐出異常検出・回復処理決定手段は、前記液滴吐出ヘッドの吐出異常の原因が前記ノズルの出口付近に紙粉が付着したものと

判定した場合には、その吐出異常を解消させる回復処理として、少なくとも前記ワイピング処理を選択するのが好ましい。

【0013】

本発明の液滴吐出装置では、前記吐出異常検出・回復処理決定手段は、前記液滴吐出ヘッドの吐出異常の原因が前記ノズル付近の液体が乾燥により増粘したものと判定した場合には、その吐出異常を解消させる回復処理として、前記フラッシング処理または前記ポンプ吸引処理を選択するのが好ましい。

本発明の液滴吐出装置では、前記吐出異常検出・回復処理決定手段は、前記液滴吐出ヘッドの吐出異常の原因が前記ノズル付近の液体が乾燥により増粘したものと判定した場合には、その吐出異常を解消させる回復処理として、前記フラッシング処理を選択するのが好ましい。

【0014】

本発明の液滴吐出装置では、前記吐出異常検出・回復処理決定手段は、前記フラッシング手段によるフラッシング処理を所定回行っても前記吐出異常が解消されない場合、その吐出異常を解消させる回復処理として、前記ポンプ吸引処理を選択するのが好ましい。

本発明の液滴吐出装置では、前記ポンピング手段によるポンプ吸引処理を所定回行っても前記吐出異常が解消されない場合、その情報を報知する報知手段を有するのが好ましい。

【0015】

本発明の液滴吐出装置では、前記振動板の残留振動の振動パターンは、前記残留振動の周期を含むのが好ましい。

本発明の液滴吐出装置では、前記吐出異常検出・回復処理決定手段は、前記振動板の残留振動の周期が所定の範囲の周期よりも短いときには、前記キャビティ内に気泡が混入したものと判定し、前記振動板の残留振動の周期が所定の閾値よりも長いときには、前記ノズル付近の液体が乾燥により増粘したものと判定し、前記振動板の残留振動の周期が前記所定の範囲の周期よりも長く、前記所定の閾値よりも短いときには、前記ノズルの出口付近に紙粉が付着したものと判定するのが好ましい。

## 【0016】

本発明の液滴吐出装置では、前記吐出異常検出・回復処理決定手段は、発振回路を備え、前記振動板の残留振動によって変化する静電容量成分に基づいて、該発振回路が発振するのが好ましい。

本発明の液滴吐出装置では、前記吐出異常検出・回復処理決定手段は、発振回路を備え、前記振動板の残留振動によって変化する前記アクチュエータの静電容量成分に基づいて、該発振回路が発振するのが好ましい。

## 【0017】

本発明の液滴吐出装置では、前記発振回路は、前記アクチュエータの静電容量成分と、前記アクチュエータに接続される抵抗素子の抵抗成分とによるCR発振回路を構成するのが好ましい。

本発明の液滴吐出装置では、前記吐出異常検出・回復処理決定手段は、前記発振回路の出力信号における発振周波数の変化に基づいて生成される所定の信号群により、前記振動板の残留振動の電圧波形を生成するF/V変換回路を含むのが好ましい。

## 【0018】

本発明の液滴吐出装置では、前記吐出異常検出・回復処理決定手段は、前記F/V変換回路によって生成された前記振動板の残留振動の電圧波形を所定の波形に整形する波形整形回路を含むのが好ましい。

本発明の液滴吐出装置では、前記波形整形回路は、前記F/V変換回路によって生成された前記振動板の残留振動の電圧波形から直流成分を除去するDC成分除去手段と、このDC成分除去手段によって直流成分を除去された電圧波形と所定の電圧値とを比較する比較器とを含み、該比較器は、該電圧比較に基づいて、矩形波を生成して出力するのが好ましい。

## 【0019】

本発明の液滴吐出装置では、前記吐出異常検出・回復処理決定手段は、前記波形整形回路によって生成された前記矩形波から前記振動板の残留振動の周期を計測する計測手段を含むのが好ましい。

本発明の液滴吐出装置では、前記計測手段は、カウンタを有し、該カウンタが



基準信号のパルスをカウントすることによって、前記矩形波の立ち上がりエッジ間あるいは立ち上がりエッジと立ち下がりエッジの間の時間を計測するのが好ましい。

#### 【0020】

本発明の液滴吐出装置では、前記アクチュエータは、静電式アクチュエータであるのが好ましい。

本発明の液滴吐出装置では、前記アクチュエータは、圧電素子のピエゾ効果を利用した圧電アクチュエータであるのが好ましい。

本発明の液滴吐出装置では、前記アクチュエータは、通電により発熱する発熱体を備える膜沸騰式アクチュエータであるのが好ましい。

#### 【0021】

本発明の液滴吐出装置では、前記振動板は、前記キャビティ内の圧力の変化に追従して弾性的に変形するのが好ましい。

本発明の液滴吐出装置では、前記吐出異常検出・回復処理決定手段によって検出された前記吐出異常の原因を検出対象の液滴吐出ヘッドと関連付けて記憶する記憶手段を備えるのが好ましい。

本発明の液滴吐出装置では、前記液滴吐出装置は、インクジェットプリンタを含むのが好ましい。

#### 【0022】

##### 【発明の実施の形態】

以下、図1～図45を参照して本発明の液滴吐出装置の好適な実施形態を詳細に説明する。なお、この実施形態は例示として挙げるものであり、これにより本発明の内容を限定的に解釈すべきではない。なお、以下、本実施形態では、本発明の液滴吐出装置の一例として、インク（液状材料）を吐出して記録用紙に画像をプリントするインクジェットプリンタを用いて説明する。

#### 【0023】

##### <第1実施形態>

図1は、本発明の第1実施形態における液滴吐出装置の一種であるインクジェットプリンタ1の構成を示す概略図である。なお、以下の説明では、図1中、上

側を「上部」、下側を「下部」という。

ここで、本発明の要部（特徴）は、電源投入（電源ON）の際の処理であるが、本発明の理解を容易にするため、まずは、インクジェットプリンタ1の構成や動作（作用）を一通り説明し、その後、電源投入の際の処理について説明する。

#### 【0024】

図1に示すインクジェットプリンタ1は、装置本体2を備えており、上部後方に記録用紙Pを設置するトレイ21と、下部前方に記録用紙Pを排出する排紙口22と、上部面に操作パネル7とが設けられている。

操作パネル7は、例えば、液晶ディスプレイ、有機ELディスプレイ、LEDランプ等で構成され、エラーメッセージ等を表示する表示部（表示手段）Mと、各種スイッチ等で構成される操作部（図示せず）とを備えている。この操作パネル7の表示部Mは、報知手段として機能する。

#### 【0025】

また、装置本体2の内部には、主に、往復動する印字手段（移動体）3を備える印刷装置（印刷手段）4と、記録用紙Pを印刷装置4に対し供給・排出する給紙装置（液滴受容物搬送手段）5と、印刷装置4及び給紙装置5を制御する制御部（制御手段）6とを有している。

制御部6の制御により、給紙装置5は、記録用紙Pを一枚ずつ間欠送りする。この記録用紙Pは、印字手段3の下部近傍を通過する。このとき、印字手段3が記録用紙Pの送り方向とはほぼ直交する方向に往復移動して、記録用紙Pへの印刷が行なわれる。すなわち、印字手段3の往復動と記録用紙Pの間欠送りとが、印刷における主走査及び副走査となって、インクジェット方式の印刷が行なわれる。

#### 【0026】

印刷装置4は、印字手段3と、印字手段3を主走査方向に移動（往復動）させる駆動源となるキャリッジモータ41と、キャリッジモータ41の回転を受けて、印字手段3を往復動させる往復動機構42とを備えている。

印字手段3は、複数のヘッドユニット35と、各ヘッドユニット35にインクを供給するインクカートリッジ（I/C）31と、各ヘッドユニット35および

インクカートリッジ 31 を搭載したキャリッジ 32 とを有している。

#### 【0027】

なお、インクカートリッジ 31 として、イエロー、シアン、マゼンタ、ブラック（黒）の 4 色のインクを充填したものをを用いることにより、フルカラー印刷が可能となる。この場合、印字手段 3 には、各色にそれぞれ対応したヘッドユニット 35（この構成については、後に詳述する。）が設けられることになる。ここで、図 1 では、4 色のインクに対応した 4 つのインクカートリッジ 31 を示しているが、ヘッドユニット 35 は、その他の色、例えば、ライトシアン、ライトマゼンタ、ダークイエローなどのインクカートリッジ 31 をさらに備えるように構成されてもよい。

#### 【0028】

往復動機構 42 は、その両端をフレーム（図示せず）に支持されたキャリッジガイド軸 422 と、キャリッジガイド軸 422 と平行に延在するタイミングベルト 421 とを有している。

キャリッジ 32 は、往復動機構 42 のキャリッジガイド軸 422 に往復動自在に支持されるとともに、タイミングベルト 421 の一部に固定されている。

#### 【0029】

キャリッジモータ 41 の作動により、プーリを介してタイミングベルト 421 を正逆走行させると、キャリッジガイド軸 422 に案内されて、印字手段 3 が往復動する。そして、この往復動の際に、印刷されるイメージデータ（印刷データ）に対応して、ヘッドユニット 35 の各インクジェットヘッド 100 から適宜インク滴が吐出され、記録用紙 P への印刷が行われる。

#### 【0030】

給紙装置 5 は、その駆動源となる給紙モータ 51 と、給紙モータ 51 の作動により回転する給紙ローラ 52 とを有している。

給紙ローラ 52 は、記録用紙 P の搬送経路（記録用紙 P）を挟んで上下に対向する従動ローラ 52a と駆動ローラ 52b とで構成され、駆動ローラ 52b は給紙モータ 51 に連結されている。これにより、給紙ローラ 52 は、トレイ 21 に設置した多数枚の記録用紙 P を、印刷装置 4 に向かって 1 枚ずつ送り込んだり印

刷装置 4 から 1 枚ずつ排出したりようになっている。なお、トレイ 21 に代えて、記録用紙 P を収容する給紙カセットを着脱自在に装着し得るような構成であってもよい。

#### 【0031】

制御部 6 は、例えば、パーソナルコンピュータ (PC) やデジタルカメラ (DC) 等のホストコンピュータ 8 から入力された印刷データに基づいて、印刷装置 4 や給紙装置 5 等を制御することにより記録用紙 P に印刷処理を行うものである。また、制御部 6 は、操作パネル 7 の表示部 M にエラーメッセージ等を表示させ、あるいは LED ランプ等を点灯／点滅させるとともに、操作部から入力された各種スイッチの押下信号に基づいて、対応する処理を各部に実行させるものである。

#### 【0032】

図 2 は、本発明のインクジェットプリンタの主要部を概略的に示すブロック図である。この図 2 において、本発明のインクジェットプリンタ 1 は、ホストコンピュータ 8 から入力された印刷データなどを受け取るインターフェース部 (IF: Interface) 9 と、制御部 6 と、キャリッジモータ 41 と、キャリッジモータ 41 を駆動制御するキャリッジモータドライバ 43 と、給紙モータ 51 と、給紙モータ 51 を駆動制御する給紙モータドライバ 53 と、ヘッドユニット 35 と、ヘッドユニット 35 を駆動制御するヘッドドライバ 33 と、吐出異常検出手段 10 と、回復手段 24 と、操作パネル 7 とを備える。前記制御部 6 と前記吐出異常検出手段 10 とで、吐出異常検出・回復処理決定手段が構成される。なお、吐出異常検出手段 10、回復手段 24 及びヘッドドライバ 33 については、詳細を後述する。

#### 【0033】

この図 2 において、制御部 6 は、印刷処理や吐出異常検出処理などの各種処理を実行する CPU (Central Processing Unit) 61 と、ホストコンピュータ 8 から IF 9 を介して入力される印刷データを図示しないデータ格納領域に格納する不揮発性半導体メモリの一種である EEPROM (Electrically Erasable Programmable Read-Only Memory) (記憶手段) 62 と、後述する吐出異常検出処

理などを実行する際に各種データを一時的に格納し、あるいは印刷処理などのアプリケーションプログラムを一時的に展開するRAM (Random Access Memory) 63と、各部を制御する制御プログラム等を格納する不揮発性半導体メモリの一種であるPROM64とを備えている。なお、制御部6の各構成要素は、図示しないバスを介して電氣的に接続されている。

#### 【0034】

上述のように、印字手段3は、各色のインクに対応した複数のヘッドユニット35を備える。また、各ヘッドユニット35は、複数のノズル110と、これらの各ノズル110にそれぞれ対応する静電アクチュエータ120とを備える。すなわち、ヘッドユニット35は、1組のノズル110および静電アクチュエータ120を有してなるインクジェットヘッド100 (液滴吐出ヘッド) を複数個備えた構成になっている。そして、ヘッドドライバ33は、各インクジェットヘッド100の静電アクチュエータ120を駆動して、インクの吐出タイミングを制御する駆動回路18と、切替手段23とから構成される (図16参照)。なお、静電アクチュエータ120の構成については後述する。

#### 【0035】

また、制御部6には、図示しないが、例えば、インクカートリッジ31のインク残量、ヘッドユニット35の位置、温度、湿度等の印刷環境等を検出可能な各種センサが、それぞれ電氣的に接続されている。

制御部6は、IF9を介して、ホストコンピュータ8から印刷データを入手すると、その印刷データをEEPROM62に格納する。そして、CPU61は、この印刷データに所定の処理を実行して、この処理データ及び各種センサからの入力データに基づいて、各ドライバ33、43、53に駆動信号を出力する。各ドライバ33、43、53を介してこれらの駆動信号が入力されると、ヘッドユニット35の複数の静電アクチュエータ120、印刷装置4のキャリッジモータ41及び給紙装置5がそれぞれ作動する。これにより、記録用紙Pに印刷処理が実行される。

#### 【0036】

次に、印字手段3内の各ヘッドユニット35の構造を説明する。図3は、図1

に示すヘッドユニット 35（インクジェットヘッド 100）の概略的な断面図であり、図 4 は、1 色のインクに対応するヘッドユニット 35 の概略的な構成を示す分解斜視図であり、図 5 は、図 3 および図 4 に示すヘッドユニット 35 を適用したヘッドユニットのノズル面の一例を示す平面図である。なお、図 3 および図 4 は、通常使用される状態とは上下逆に示されている。

#### 【0037】

図 3 に示すように、ヘッドユニット 35 は、インク取り入れ口 131、ダンパ室 130 およびインク供給チューブ 311 を介して、インクカートリッジ 31 に接続されている。ここで、ダンパ室 130 は、ゴムからなるダンパ 132 を備えている。このダンパ室 130 により、キャリッジ 32 が往復走行する際のインクの揺れおよびインク圧の変化を吸収することができ、これにより、ヘッドユニット 35 に所定量のインクを安定的に供給することができる。

#### 【0038】

また、ヘッドユニット 35 は、シリコン基板 140 を挟んで、上側に同じくシリコン製のノズルプレート 150 と、下側にシリコンと熱膨張率が近いホウ珪酸ガラス基板（ガラス基板）160 とがそれぞれ積層された 3 層構造をなしている。中央のシリコン基板 140 には、独立した複数のキャビティ（圧力室）141（図 4 では、7 つのキャビティを示す）と、1 つのリザーバ（共通インク室）143 と、このリザーバ 143 を各キャビティ 141 に連通させるインク供給口（オリフィス）142 としてそれぞれ機能する溝が形成されている。各溝は、例えば、シリコン基板 140 の表面からエッチング処理を施すことにより形成することができる。このノズルプレート 150 と、シリコン基板 140 と、ガラス基板 160 とがこの順序で接合され、各キャビティ 141、リザーバ 143、各インク供給口 142 が区画形成されている。

#### 【0039】

これらのキャビティ 141 は、それぞれ短冊状（直方体状）に形成されており、後述する振動板 121 の振動（変位）によりその容積が可変であり、この容積変化によりノズル 110 からインク（液状材料）を吐出するよう構成されている。ノズルプレート 150 には、各キャビティ 141 の先端側の部分に対応する位

置に、ノズル 110 が形成されており、これらが各キャビティ 141 に連通している。また、リザーバ 143 が位置しているガラス基板 160 の部分には、リザーバ 143 に連通するインク取入れ口 131 が形成されている。インクは、インクカートリッジ 31 からインク供給チューブ 311、ダンパ室 130 を経てインク取入れ口 131 を通り、リザーバ 143 に供給される。リザーバ 143 に供給されたインクは、各インク供給口 142 を通って、独立した各キャビティ 141 に供給される。なお、各キャビティ 141 は、ノズルプレート 150 と、側壁（隔壁） 144 と、底壁 121 とによって、区画形成されている。

#### 【0040】

独立した各キャビティ 141 は、その底壁 121 が薄肉に形成されており、底壁 121 は、その面外方向（厚さ方向）、すなわち、図 3 において上下方向に弾性変形（弾性変位）可能な振動板（ダイヤフラム）として機能するように構成されている。したがって、この底壁 121 の部分を、以後の説明の都合上、振動板 121 と称して説明することもある（すなわち、以下、「底壁」と「振動板」のいずれにも符号 121 を用いる）。

#### 【0041】

ガラス基板 160 のシリコン基板 140 側の表面には、シリコン基板 140 の各キャビティ 141 に対応した位置に、それぞれ、浅い凹部 161 が形成されている。したがって、各キャビティ 141 の底壁 121 は、凹部 161 が形成されたガラス基板 160 の対向壁 162 の表面に、所定の間隙を介して対峙している。すなわち、キャビティ 141 の底壁 121 と後述するセグメント電極 122 の間には、所定の厚さ（例えば、0.2 ミクロン程度）の空隙が存在する。なお、前記凹部 161 は、例えば、エッチングなどで形成することができる。

#### 【0042】

ここで、各キャビティ 141 の底壁（振動板） 121 は、ヘッドドライバ 33 から供給される駆動信号によってそれぞれ電荷を蓄えるための各キャビティ 141 側の共通電極 124 の一部を構成している。すなわち、各キャビティ 141 の振動板 121 は、それぞれ、後述する対応する静電アクチュエータ 120 の対向電極（コンデンサの対向電極）の一方を兼ねている。そして、ガラス基板 160

の凹部 161 の表面には、各キャビティ 141 の底壁 121 に対峙するように、それぞれ、共通電極 124 に対向する電極であるセグメント電極 122 が形成されている。また、図 3 に示すように、各キャビティ 141 の底壁 121 の表面は、シリコンの酸化膜 ( $\text{SiO}_2$ ) からなる絶縁層 123 により覆われている。このように、各キャビティ 141 の底壁 121、すなわち、振動板 121 と、それに対応する各セグメント電極 122 とは、キャビティ 141 の底壁 121 の図 3 中下側の表面に形成された絶縁層 123 と凹部 161 内の空隙とを介し、対向電極（コンデンサの対向電極）を形成（構成）している。したがって、振動板 121 と、セグメント電極 122 と、これらの間の絶縁層 123 及び空隙とにより、静電アクチュエータ 120 の主要部が構成される。

#### 【0043】

図 3 に示すように、これらの対向電極の間に駆動電圧を印加するための駆動回路 18 を含むヘッドドライバ 33 は、制御部 6 から入力される印字信号（印字データ）に応じて、これらの対向電極間の充放電を行う。ヘッドドライバ（電圧印加手段）33 の一方の出力端子は、個々のセグメント電極 122 に接続され、他方の出力端子は、シリコン基板 140 に形成された共通電極 124 の入力端子 124a に接続されている。なお、シリコン基板 140 には不純物が注入されており、それ自体が導電性をもつために、この共通電極 124 の入力端子 124a から底壁 121 の共通電極 124 に電圧を供給することができる。また、例えば、シリコン基板 140 の一方の面に金や銅などの導電性材料の薄膜を形成してもよい。これにより、低い電気抵抗で（効率良く）共通電極 124 に電圧（電荷）を供給することができる。この薄膜は、例えば、蒸着あるいはスパッタリング等によって形成すればよい。ここで、本実施形態では、例えば、シリコン基板 140 とガラス基板 160 とを陽極接合によって結合（接合）させるので、その陽極結合において電極として用いる導電膜をシリコン基板 140 の流路形成面側（図 3 に示すシリコン基板 140 の上部側）に形成している。そして、この導電膜をそのまま共通電極 124 の入力端子 124a として用いる。なお、本発明では、例えば、共通電極 124 の入力端子 124a を省略してもよく、また、シリコン基板 140 とガラス基板 160 との接合方法は、陽極接合に限定されない。



**【0044】**

図4に示すように、ヘッドユニット35は、複数のノズル110が形成されたノズルプレート150と、複数のキャビティ141、複数のインク供給口142、1つのリザーバ143が形成されたシリコン基板（インク室基板）140と、絶縁層123とを備え、これらがガラス基板160を含む基体170に収納されている。基体170は、例えば、各種樹脂材料、各種金属材料等で構成されており、この基体170にシリコン基板140が固定、支持されている。

**【0045】**

なお、ノズルプレート150に形成されたノズル110は、図4では簡潔に示すためにリザーバ143に対して略並行に直線的に配列されているが、ノズルの配列パターンはこの構成に限らず、通常は、例えば、図5に示すノズル配置パターンのように、段をずらして配置される。また、このノズル110間のピッチは、印刷精度（dpi）に応じて適宜設定され得るものである。なお、図5では、4色のインク（インクカートリッジ31）を適用した場合におけるノズル110の配置パターンを示している。

**【0046】**

図6は、図3のIII-III断面の駆動信号入力時の各状態を示す。ヘッドドライバ33から対向電極間に駆動電圧が印加されると、対向電極間にクーロン力が発生し、底壁（振動板）121は、初期状態（図6（a））に対して、セグメント電極122側へ撓み、キャビティ141の容積が拡大する（図6（b））。この状態において、ヘッドドライバ33の制御により、対向電極間の電荷を急激に放電させると、振動板121は、その弾性復元力によって図中上方に復元し、初期状態における振動板121の位置を越えて上部に移動し、キャビティ141の容積が急激に収縮する（図6（c））。このときキャビティ141内に発生する圧縮圧力により、キャビティ141を満たすインク（液状材料）の一部が、このキャビティ141に連通しているノズル110からインク滴として吐出される。

**【0047】**

各キャビティ141の振動板121は、この一連の動作（ヘッドドライバ33の駆動信号によるインク吐出動作）により、次の駆動信号（駆動電圧）が入力さ

れて再びインク滴を吐出するまでの間、減衰振動をしている。以下、この減衰振動を残留振動とも称する。振動板 121 の残留振動は、ノズル 110 やインク供給口 142 の形状、あるいはインク粘度等による音響抵抗  $r$  と、流路内のインク重量によるイナータンス  $m$  と、振動板 121 のコンプライアンス  $C_m$  とによって決定される固有振動周波数を有するものと想定される。

#### 【0048】

上記想定に基づく振動板 121 の残留振動の計算モデルについて説明する。図 7 は、振動板 121 の残留振動を想定した単振動の計算モデルを示す回路図である。このように、振動板 121 の残留振動の計算モデルは、音圧  $P$  と、上述のイナータンス  $m$ 、コンプライアンス  $C_m$  及び音響抵抗  $r$  とで表せる。そして、図 7 の回路に音圧  $P$  を与えた時のステップ応答を体積速度  $u$  について計算すると、次式が得られる。

#### 【0049】

##### 【数 1】

$$u = \frac{P}{\omega \cdot m} e^{-\alpha t} \cdot \sin \omega t \quad (1)$$

$$\omega = \sqrt{\frac{1}{m \cdot C_m} - \alpha^2} \quad (2)$$

$$\alpha = \frac{r}{2m} \quad (3)$$

この式から得られた計算結果と、別途行ったインク滴の吐出後の振動板 121 の残留振動の実験における実験結果とを比較する。図 8 は、振動板 121 の残留振動の実験値と計算値との関係を示すグラフである。この図 8 に示すグラフからも分かるように、実験値と計算値の 2 つの波形は、概ね一致している。

#### 【0050】

さて、ヘッドユニット 35 の各インクジェットヘッド 100 では、前述したような吐出動作を行ったにもかかわらずノズル 110 からインク滴が正常に吐出されない現象、すなわち液滴の吐出異常（ヘッド異常）が発生する場合がある。こ

の吐出異常が発生する原因としては、後述するように、(1) キャビティ 141 内への気泡の混入、(2) ノズル 110 付近でのインクの乾燥・増粘（固着）、(3) ノズル 110 出口付近への紙粉付着、等が挙げられる。

#### 【0051】

この吐出異常が発生すると、その結果としては、典型的にはノズル 110 から液滴が吐出されないこと、すなわち液滴の不吐出現象が現れ、その場合、記録用紙 P に印刷（描画）した画像における画素のドット抜けを生じる。また、吐出異常の場合には、ノズル 110 から液滴が吐出されたとしても、液滴の量が過少であったり、その液滴の飛行方向（弾道）がずれたりして適正に着弾しないので、やはり画素のドット抜けとなって現れる。このようなことから、以下の説明では、液滴の吐出異常のことを単に「ドット抜け」と言う場合もある。

#### 【0052】

また、インクジェットヘッド 100 の吐出異常（ヘッド異常）には、前述したような吐出動作を行ったにもかかわらずノズル 110 からインク滴が正常に吐出されない現象が発生した場合のみならず、インクジェットヘッド 100 が前述したような吐出動作を行ったときノズル 110 からインク滴が正常に吐出されない現象が発生し得る状態にある場合も含まれる。

#### 【0053】

以下においては、図 8 に示す比較結果に基づいて、インクジェットヘッド 100 のノズル 110 に発生する印刷処理時のドット抜け（吐出異常）現象（液滴不吐出現象）の原因別に、振動板 121 の残留振動の計算値と実験値がマッチ（概ね一致）するように、音響抵抗  $r$  及び／またはイナータンス  $m$  の値を調整する。

まず、ドット抜けの 1 つの原因であるキャビティ 141 内への気泡の混入について検討する。図 9 は、図 3 のキャビティ 141 内に気泡 B が混入した場合のノズル 110 付近の概念図である。この図 9 に示すように、発生した気泡 B は、キャビティ 141 の壁面に発生付着しているものと想定される（図 9 では、気泡 B の付着位置の一例として、気泡 B がノズル 110 付近に付着している場合を示す）。

#### 【0054】

このように、キャビティ 141 内に気泡 B が混入した場合には、キャビティ 141 内を満たすインクの総重量が減り、イナータンス  $m$  が低下するものと考えられる。また、気泡 B は、キャビティ 141 の壁面に付着しているので、その径の大きさだけノズル 110 の径が大きくなったような状態となり、音響抵抗  $r$  が低下するものと考えられる。

#### 【0055】

したがって、インクが正常に吐出された図 8 の場合に対して、音響抵抗  $r$ 、イナータンス  $m$  を共に小さく設定して、気泡混入時の残留振動の実験値とマッチングすることにより、図 10 のような結果（グラフ）が得られた。図 8 及び図 10 のグラフから分かるように、キャビティ 141 内に気泡が混入した場合には、正常吐出時に比べて周波数が高くなる特徴的な残留振動波形が得られる。なお、音響抵抗  $r$  の低下などにより、残留振動の振幅の減衰率も小さくなり、残留振動は、その振幅をゆっくりと下げていることも確認することができる。

#### 【0056】

次に、ドット抜けのもう 1 つの原因であるノズル 110 付近でのインクの乾燥（固着、増粘）について検討する。図 11 は、図 3 のノズル 110 付近のインクが乾燥により固着した場合のノズル 110 付近の概念図である。この図 11 に示すように、ノズル 110 付近のインクが乾燥して固着した場合、キャビティ 141 内のインクは、キャビティ 141 内に閉じこめられたような状況となる。このように、ノズル 110 付近のインクが乾燥、増粘した場合には、音響抵抗  $r$  が増加するものと考えられる。

#### 【0057】

したがって、インクが正常に吐出された図 8 の場合に対して、音響抵抗  $r$  を大きく設定して、ノズル 110 付近のインク乾燥固着（増粘）時の残留振動の実験値とマッチングすることにより、図 12 のような結果（グラフ）が得られた。なお、図 12 に示す実験値は、数日間図示しないキャップを装着しない状態でヘッドユニット 35 を放置し、ノズル 110 付近のインクが乾燥、増粘したことによりインクを吐出することができなくなった（インクが固着した）状態における振動板 121 の残留振動を測定したものである。図 8 及び図 12 のグラフから分か

るように、ノズル 110 付近のインクが乾燥により固着した場合には、正常吐出時に比べて周波数が極めて低くなるとともに、残留振動が過減衰となる特徴的な残留振動波形が得られる。これは、インク滴を吐出するために振動板 121 が図 3 中下方に引き寄せられることによって、キャビティ 141 内にリザーバ 143 からインクが流入した後に、振動板 121 が図 3 中上方に移動するときに、キャビティ 141 内のインクの逃げ道がないために、振動板 121 が急激に振動できなくなるため（過減衰となるため）である。

#### 【0058】

次に、ドット抜けのさらにもう 1 つの原因であるノズル 110 出口付近への紙粉付着について検討する。ここで、本発明において、「紙粉」とは、単に記録用紙などから発生した紙粉のみに限らず、例えば、紙送りローラ（給紙ローラ）などのゴムの切れ端や、空気中に浮遊するごみなどを含むノズル 110 付近に付着してインク滴（液滴）吐出の妨げとなるすべてのものをいう。

#### 【0059】

図 13 は、図 3 のノズル 110 出口付近に紙粉が付着した場合のノズル 110 付近の概念図である。この図 13 に示すように、ノズル 110 の出口付近に紙粉が付着した場合、キャビティ 141 内から紙粉を介してインクが染み出してしまうとともに、ノズル 110 からインクを吐出することができなくなる。このように、ノズル 110 の出口付近に紙粉が付着し、ノズル 110 からインクが染み出している場合には、振動板 121 からみてキャビティ 141 内及び染み出し分のインクが正常時よりも増えることにより、イナータンス  $m$  が増加するものと考えられる。また、ノズル 110 の出口付近に付着した紙粉の繊維によって音響抵抗  $r$  が増大するものと考えられる。

#### 【0060】

したがって、インクが正常に吐出された図 8 の場合に対して、イナータンス  $m$ 、音響抵抗  $r$  を共に大きく設定して、ノズル 110 の出口付近への紙粉付着時の残留振動の実験値とマッチングすることにより、図 14 のような結果（グラフ）が得られた。図 8 及び図 14 のグラフから分かるように、ノズル 110 の出口付近に紙粉が付着した場合には、正常吐出時に比べて周波数が低くなる特徴的な残

留振動波形が得られる（ここで、紙粉付着の場合、インクの乾燥の場合よりは、残留振動の周波数が高いことも、図12及び図14のグラフから分かる。）。なお、図15は、この紙粉付着前後におけるノズル110の状態を示す写真である。ノズル110の出口付近に紙粉が付着すると、紙粉に沿ってインクがにじみ出している状態を、図15（b）から見出すことができる。

#### 【0061】

ここで、ノズル110付近のインクが乾燥して増粘した場合と、ノズル110の出口付近に紙粉が付着した場合とでは、いずれも正常にインク滴が吐出された場合に比べて減衰振動の周波数が低くなっている。これら2つのドット抜け（インク不吐出：吐出異常）の原因を振動板121の残留振動の波形から特定するために、例えば、減衰振動の周波数や周期、位相において所定のしきい値を持って比較するか、あるいは、残留振動（減衰振動）の周期変化や振幅変化の減衰率から特定することができる。

#### 【0062】

このようにして、各インクジェットヘッド100におけるノズル110からのインク滴が吐出されたときの振動板121の残留振動の変化（振動パターン）、特に、その周波数（振動パターン）の変化によって、各インクジェットヘッド100の吐出異常（ヘッド異常）を検出することができる。また、その場合の残留振動の周波数を正常吐出時の残留振動の周波数と比較することにより、吐出異常（ヘッド異常）の原因を特定することもできる。

#### 【0063】

また、ヘッドドライバ33の駆動回路18によって、インク滴（液滴）を吐出しない程度の駆動信号（電圧信号）を入力した場合においても、振幅が小さくなるが、同様の振動板の残留振動波形が得られる。そのため、残留振動の振幅を示すグラフの縦軸方向を拡大することによって、それぞれの吐出異常の原因に対応する図10、図12及び図14のグラフと同様の計算値及び実験値が得られる。したがって、インク滴を吐出しない程度に静電アクチュエータ120を駆動して、そのときの振動板121の残留振動を検出することにより、インクジェットヘッド100の吐出異常を検出することもできる。以下、液滴を吐出せずに検出で

きるインクジェットヘッド100の異常であるが、このように検出した場合の異常も単に「吐出異常」と称する。

#### 【0064】

次に、吐出異常検出手段10について説明する。図16は、図2に示す吐出異常検出手段10の概略的なブロック図である。この図16に示すように、吐出異常検出手段10は、発振回路11と、F/V変換回路12と、波形整形回路15とから構成される残留振動検出手段16と、この残留振動検出手段16によって検出された残留振動波形データから周期や振幅などを計測する計測手段17と、この計測手段17によって計測された周期などに基づいてインクジェットヘッド100の吐出異常（ヘッド異常）を判定する判定手段20とを備えている。吐出異常検出手段10では、残留振動検出手段16は、静電アクチュエータ120の振動板121の残留振動に基づいて、発振回路11が発振し、その発振周波数からF/V変換回路12および波形整形回路15において振動波形を形成して、検出する。そして、計測手段17は、検出された振動波形に基づいて残留振動の周期などを計測し、判定手段20は、計測された残留振動の周期などに基づいて、印字手段3内の各ヘッドユニット35が備える各インクジェットヘッド100の吐出異常を検出、判定する。以下、吐出異常検出手段10の各構成要素について説明する。

#### 【0065】

まず、静電アクチュエータ120の振動板121の残留振動の周波数（振動数）を検出するために、発振回路11を用いる方法を説明する。図17は、図3の静電アクチュエータ120を平行平板コンデンサとした場合の概念図であり、図18は、図3の静電アクチュエータ120から構成されるコンデンサを含む発振回路11の回路図である。なお、図18に示す発振回路11は、シュミットトリガのヒステリシス特性を利用するCR発振回路であるが、本発明はこのようなCR発振回路に限定されず、アクチュエータ（振動板を含む）の静電容量成分（コンデンサC）を用いる発振回路であればどのような発振回路でもよい。発振回路11は、例えば、LC発振回路を利用した構成としてもよい。また、本実施形態では、シュミットトリガインバータを用いた例を示して説明しているが、例えば

、インバータを3段用いたCR発振回路を構成してもよい。

#### 【0066】

図3に示すインクジェットヘッド100では、上述のように、振動板121と非常にわずかな間隔（空隙）を隔てたセグメント電極122とが対向電極を形成する静電アクチュエータ120を構成している。この静電アクチュエータ120は、図17に示すような平行平板コンデンサと考えることができる。このコンデンサの静電容量をC、振動板121およびセグメント電極122のそれぞれの表面積をS、2つの電極121、122の距離（ギャップ長）をg、両電極に挟まれた空間（空隙）の誘電率を $\epsilon$ （真空の誘電率を $\epsilon_0$ 、空隙の比誘電率を $\epsilon_r$ とすると、 $\epsilon = \epsilon_0 \cdot \epsilon_r$ ）とすると、図17に示すコンデンサ（静電アクチュエータ120）の静電容量C（x）は、次式で表される。

#### 【0067】

【数2】

$$C(x) = \epsilon_0 \cdot \epsilon_r \cdot \frac{S}{g - x} \quad (F) \quad (4)$$

なお、式（4）のxは、図17に示すように、振動板121の残留振動によって生じる振動板121の基準位置からの変位量を示している。

#### 【0068】

この式（4）から分かるように、ギャップ長g（ギャップ長g－変位量x）が小さくなれば、静電容量C（x）は大きくなり、逆にギャップ長g（ギャップ長g－変位量x）が大きくなれば、静電容量C（x）は小さくなる。このように、静電容量C（x）は、（ギャップ長g－変位量x）（xが0の場合は、ギャップ長g）に反比例している。なお、図3に示す静電アクチュエータ120では、空隙は空気で満たされているので、比誘電率 $\epsilon_r = 1$ である。

#### 【0069】

また、一般に、液滴吐出装置（本実施形態では、インクジェットプリンタ1）の解像度が高まるにつれて、吐出されるインク滴（インクドット）が微小化され



るので、この静電アクチュエータ 120 は、高密度化、小型化される。それによって、インクジェットヘッド 100 の振動板 121 の表面積  $S$  が小さくなり、小さな静電アクチュエータ 120 が構成される。さらに、インク滴吐出による残留振動によって変化する静電アクチュエータ 120 のギャップ長  $g$  は、初期ギャップ  $g_0$  の 1 割程度となるため、式 (4) から分かるように、静電アクチュエータ 120 の静電容量の変化量は非常に小さな値となる。

#### 【0070】

この静電アクチュエータ 120 の静電容量の変化量（残留振動の振動パターンにより異なる）を検出するために、以下のような方法、すなわち、静電アクチュエータ 120 の静電容量に基づいた図 18 のような発振回路を構成し、発振された信号に基づいて残留振動の周波数（周期）を解析する方法を用いる。図 18 に示す発振回路 11 は、静電アクチュエータ 120 から構成されるコンデンサ（ $C$ ）と、シュミットトリガインバータ 111 と、抵抗素子（ $R$ ）112 とから構成される。

#### 【0071】

シュミットトリガインバータ 111 の出力信号が  $High$  レベルの場合、抵抗素子 112 を介してコンデンサ  $C$  を充電する。コンデンサ  $C$  の充電電圧（振動板 121 とセグメント電極 122 との間の電位差）が、シュミットトリガインバータ 111 の入力スレッショルド電圧  $V_{T+}$  に達すると、シュミットトリガインバータ 111 の出力信号が  $Low$  レベルに反転する。そして、シュミットトリガインバータ 111 の出力信号が  $Low$  レベルとなると、抵抗素子 112 を介してコンデンサ  $C$  に充電されていた電荷が放電される。この放電によりコンデンサ  $C$  の電圧がシュミットトリガインバータ 111 の入力スレッショルド電圧  $V_{T-}$  に達すると、シュミットトリガインバータ 111 の出力信号が再び  $High$  レベルに反転する。以降、この発振動作が繰り返される。

#### 【0072】

ここで、上述のそれぞれの現象（気泡混入、乾燥、紙粉付着、及び正常吐出）におけるコンデンサ  $C$  の静電容量の時間変化を検出するためには、この発振回路 11 による発振周波数は、残留振動の周波数が最も高い気泡混入時（図 10 参照

）の周波数を検出することができる発振周波数に設定される必要がある。そのため、発振回路 11 の発振周波数は、例えば、検出する残留振動の周波数の数倍から数十倍以上、すなわち、気泡混入時の周波数よりおよそ 1 桁以上高い周波数となるようにしなければならない。この場合、好ましくは、気泡混入時の残留振動の周波数が正常吐出の場合と比較して高い周波数を示すため、気泡混入時の残留振動周波数が検知可能な発振周波数に設定するとよい。そうしなければ、吐出異常の現象に対して正確な残留振動の周波数を検出することができない。そのため、本実施形態では、発振周波数に応じて、発振回路 11 の CR の時定数を設定している。このように、発振回路 11 の発振周波数を高く設定することにより、この発振周波数の微小変化に基づいて、より正確な残留振動波形を検出することができる。

#### 【0073】

なお、発振回路 11 から出力される発振信号の発振周波数の周期（パルス）毎に、測定用のカウントパルス（カウンタ）を用いてそのパルスをカウントし、初期ギャップ  $g_0$  におけるコンデンサ C の静電容量で発振させた場合の発振周波数のパルスのカウント量を測定したカウント量から減算することにより、残留振動波形について発振周波数毎のデジタル情報が得られる。これらのデジタル情報に基づいて、デジタル／アナログ（D/A）変換を行うことにより、概略的な残留振動波形が生成され得る。このような方法を用いてもよいが、測定用のカウントパルス（カウンタ）には、発振周波数の微小変化を測定することができる高い周波数（高解像度）のものが必要となる。このようなカウントパルス（カウンタ）は、コストをアップさせるため、吐出異常検出手段 10 では、図 19 に示す F/V 変換回路 12 を用いている。

#### 【0074】

図 19 は、図 16 に示す吐出異常検出手段 10 の F/V 変換回路 12 の回路図である。この図 19 に示すように、F/V 変換回路 12 は、3 つのスイッチ SW 1、SW 2、SW 3 と、2 つのコンデンサ C 1、C 2 と、抵抗素子 R 1 と、定電流  $I_s$  を出力する定電流源 13 と、バッファ 14 とから構成される。この F/V 変換回路 12 の動作を図 20 のタイミングチャート及び図 21 のグラフを用いて

説明する。

#### 【0075】

まず、図20のタイミングチャートに示す充電信号、ホールド信号及びクリア信号の生成方法について説明する。充電信号は、発振回路11の発振パルスの立ち上がりエッジから固定時間  $t_r$  を設定し、その固定時間  $t_r$  の間 High レベルとなるようにして生成される。ホールド信号は、充電信号の立ち上がりエッジに同期して立ち上がり、所定の固定時間だけ High レベルに保持され、Low レベルに立ち下がるようにして生成される。クリア信号は、ホールド信号の立ち下がりエッジに同期して立ち上がり、所定の固定時間だけ High レベルに保持され、Low レベルに立ち下がるようにして生成される。なお、後述するように、コンデンサC1からコンデンサC2への電荷の移動及びコンデンサC1の放電は瞬時に行われるので、ホールド信号及びクリア信号のパルスは、発振回路11の出力信号の次の立ち上がりエッジまでにそれぞれ1つのパルスが含まれればよく、上記のような立ち上がりエッジ、立ち下がりエッジに限定されない。

#### 【0076】

きれいな残留振動の波形（電圧波形）を得るために、図21を参照して、固定時間  $t_r$  及び  $t_1$  の設定方法を説明する。固定時間  $t_r$  は、静電アクチュエータ120が初期ギャップ長  $g_0$  のときにおける静電容量Cで発振した発振パルスの周期から調整され、充電時間  $t_1$  による充電電位がC1の充電範囲のおよそ1/2付近となるように設定される。また、ギャップ長  $g$  が最大 (Max) の位置における充電時間  $t_2$  から最小 (Min) の位置における充電時間  $t_3$  の間で、コンデンサC1の充電範囲を超えないように充電電位の傾きが設定される。すなわち、充電電位の傾きは、 $dV/dt = I_s/C1$  によって決定されるため、定電流源13の出力定電流  $I_s$  を適当な値に設定すればよい。この定電流源13の出力定電流  $I_s$  をその範囲内でできるだけ高く設定することによって、静電アクチュエータ120によって構成されるコンデンサの微小な静電容量の変化を高感度で検出することができ、静電アクチュエータ120の振動板121の微小な変化を検出することが可能となる。

#### 【0077】

次いで、図 22 を参照して、図 16 に示す波形整形回路 15 の構成を説明する。図 22 は、図 16 の波形整形回路 15 の回路構成を示す回路図である。この波形整形回路 15 は、残留振動波形を矩形波として判定手段 20 に出力するものである。この図 22 に示すように、波形整形回路 15 は、2 つのコンデンサ C 3 (DC 成分除去手段)、C 4 と、2 つの抵抗素子 R 2、R 3 と、2 つの直流電圧源 V r e f 1、V r e f 2 と、増幅器 (オペアンプ) 151 と、比較器 (コンパレータ) 152 とから構成される。なお、残留振動波形の波形整形処理において、検出される波高値をそのまま出力して、残留振動波形の振幅を計測するように構成してもよい。

#### 【0078】

F/V 変換回路 12 のバッファ 14 の出力には、静電アクチュエータ 120 の初期ギャップ  $g_0$  に基づく DC 成分 (直流成分) の静電容量成分が含まれている。この直流成分は各インクジェットヘッド 100 によりばらつきがあるため、コンデンサ C 3 は、この静電容量の直流成分を除去するものである。そして、コンデンサ C 3 は、バッファ 14 の出力信号における DC 成分を除去し、残留振動の AC 成分のみをオペアンプ 151 の反転入力端子に出力する。

#### 【0079】

オペアンプ 151 は、直流成分が除去された F/V 変換回路 12 のバッファ 14 の出力信号を反転増幅するとともに、その出力信号の高域を除去するためのローパスフィルタを構成している。なお、このオペアンプ 151 は、単電源回路を想定している。オペアンプ 151 は、2 つの抵抗素子 R 2、R 3 による反転増幅器を構成し、入力された残留振動 (交流成分) は、 $-R_3/R_2$  倍に振幅される。

#### 【0080】

また、オペアンプ 151 の単電源動作のために、その非反転入力端子に接続された直流電圧源 V r e f 1 によって設定された電位を中心に振動する、増幅された振動板 121 の残留振動波形が出力される。ここで、直流電圧源 V r e f 1 は、オペアンプ 151 が単電源で動作可能な電圧範囲の 1/2 程度に設定されている。さらに、このオペアンプ 151 は、2 つのコンデンサ C 3、C 4 により、カ

ットオフ周波数  $1 / (2\pi \times C4 \times R3)$  となるローパスフィルタを構成している。そして、直流成分を除去された後に増幅された振動板 121 の残留振動波形は、図 20 のタイミングチャートに示すように、次段の比較器（コンパレータ）152 でもう一つの直流電圧源  $V_{ref2}$  の電位と比較され、その比較結果が矩形波として波形整形回路 15 から出力される。なお、直流電圧源  $V_{ref2}$  は、もう一つの直流電圧源  $V_{ref1}$  を共用してもよい。

#### 【0081】

次に、図 20 に示すタイミングチャートを参照して、図 19 の F/V 変換回路 12 及び波形整形回路 15 の動作を説明する。上述のように生成された充電信号、クリア信号及びホールド信号に基づいて、図 19 に示す F/V 変換回路 12 は動作する。図 20 のタイミングチャートにおいて、静電アクチュエータ 120 の駆動信号がヘッドドライバ 33 を介してインクジェットヘッド 100 に入力されると、図 6 (b) に示すように、静電アクチュエータ 120 の振動板 121 がセグメント電極 122 側に引きつけられ、この駆動信号の立ち下がりエッジに同期して、図 6 中上方に向けて急激に収縮する（図 6 (c) 参照）。

#### 【0082】

この駆動信号の立ち下がりエッジに同期して、駆動回路 18 と吐出異常検出手段 10 とを切り替える駆動／検出切替信号が  $High$  レベルとなる。この駆動／検出切替信号は、対応するインクジェットヘッド 100 の駆動休止期間中、 $High$  レベルに保持され、次の駆動信号が入力される前に、 $Low$  レベルになる。この駆動／検出切替信号が  $High$  レベルの間、図 18 の発振回路 11 は、静電アクチュエータ 120 の振動板 121 の残留振動に対応して発振周波数を変えながら発振している。

#### 【0083】

上述のように、駆動信号の立ち下がりエッジ、すなわち、発振回路 11 の出力信号の立ち上がりエッジから、残留振動の波形がコンデンサ  $C1$  に充電可能な範囲を超えないように予め設定された固定時間  $t_r$  だけ経過するまで、充電信号は、 $High$  レベルに保持される。なお、充電信号が  $High$  レベルである間、スイッチ  $SW1$  はオフの状態である。

## 【0084】

固定時間  $t_r$  が経過し、充電信号が Low レベルになると、その充電信号の立ち下がりエッジに同期して、スイッチ SW1 がオンされる（図 19 参照）。そして、定電流源 13 とコンデンサ C1 とが接続され、コンデンサ C1 は、上述のように、傾き  $I_s / C1$  で充電される。充電信号が Low レベルである期間、すなわち、発振回路 11 の出力信号の次のパルスの立ち上がりエッジに同期して High レベルになるまでの間、コンデンサ C1 は充電される。

## 【0085】

充電信号が High レベルになると、スイッチ SW1 はオフ（オープン）となり、定電流源 13 とコンデンサ C1 は切り離される。このとき、コンデンサ C1 には、充電信号が Low レベルの期間  $t_1$  の間に充電された電位（すなわち、理想的には  $I_s \times t_1 / C1$  (V)）が保存されている。この状態で、ホールド信号が High レベルになると、スイッチ SW2 がオンされ（図 19 参照）、コンデンサ C1 とコンデンサ C2 が、抵抗素子 R1 を介して接続される。スイッチ SW2 の接続後、2つのコンデンサ C1、C2 の充電電位差によって互いに充放電が行われ、2つのコンデンサ C1、C2 の電位差が概ね等しくなるように、コンデンサ C1 からコンデンサ C2 に電荷が移動する。

## 【0086】

ここで、コンデンサ C1 の静電容量に対してコンデンサ C2 の静電容量は、約  $1/10$  以下程度に設定されている。そのため、2つのコンデンサ C1、C2 間の電位差によって生じる充放電で移動する（使用される）電荷量は、コンデンサ C1 に充電されている電荷の  $1/10$  以下となる。したがって、コンデンサ C1 からコンデンサ C2 へ電荷が移動した後においても、コンデンサ C1 の電位差は、それほど変化しない（それほど下がらない）。なお、図 19 の F/V 変換回路 12 では、コンデンサ C2 に充電されるとき F/V 変換回路 12 の配線のインダクタンス等により充電電位が急激に跳ね上がらないようにするために、抵抗素子 R1 とコンデンサ C2 により一次のローパスフィルタを構成している。

## 【0087】

コンデンサ C2 にコンデンサ C1 の充電電位と概ね等しい充電電位が保持され

た後、ホールド信号がLowレベルとなり、コンデンサC1はコンデンサC2から切り離される。さらに、クリア信号がHighレベルとなり、スイッチSW3がオンすることにより、コンデンサC1がグラウンドGNDに接続され、コンデンサC1に充電されていた電荷が0となるように放電動作が行なわれる。コンデンサC1の放電後、クリア信号はLowレベルとなり、スイッチSW3がオフすることにより、コンデンサC1の図19中上部の電極がグラウンドGNDから切り離され、次の充電信号が入力されるまで、すなわち、充電信号がLowレベルになるまで待機している。

#### 【0088】

コンデンサC2に保持されている電位は、充電信号の立ち上がりのタイミング毎、すなわち、コンデンサC2への充電完了のタイミング毎に更新され、バッファ14を介して振動板121の残留振動波形として図22の波形整形回路15に出力される。したがって、発振回路11の発振周波数が高くなるように静電アクチュエータ120の静電容量（この場合、残留振動による静電容量の変動幅も考慮しなければならない）と抵抗素子112の抵抗値を設定すれば、図20のタイミングチャートに示すコンデンサC2の電位（バッファ14の出力）の各ステップ（段差）がより詳細になるので、振動板121の残留振動による静電容量の時間的な変化をより詳細に検出することが可能となる。

#### 【0089】

以下同様に、充電信号がLowレベル→Highレベル→Lowレベル・・・と繰り返し、上記所定のタイミングでコンデンサC2に保持されている電位がバッファ14を介して波形整形回路15に出力される。波形整形回路15では、バッファ14から入力された電圧信号（図20のタイミングチャートにおいて、コンデンサC2の電位）の直流成分がコンデンサC3によって除去され、抵抗素子R2を介してオペアンプ151の反転入力端子に入力される。入力された残留振動の交流（AC）成分は、このオペアンプ151によって反転増幅され、コンパレータ152の一方の入力端子に出力される。コンパレータ152は、予め直流電圧源Vref2によって設定されている電位（基準電圧）と、残留振動波形（交流成分）の電位とを比較し、矩形波を出力する（図20のタイミングチャート

における比較回路の出力)。

#### 【0090】

次に、インクジェットヘッド100のインク滴吐出動作(駆動)と吐出異常検出動作(駆動休止)との切り替えタイミングについて説明する。図23は、駆動回路18と吐出異常検出手段10との切替手段23の概略を示すブロック図である。なお、この図23では、図16に示すヘッドドライバ33内の駆動回路18をインクジェットヘッド100の駆動回路として説明する。図20のタイミングチャートでも示したように、吐出異常検出処理は、インクジェットヘッド100の駆動信号と駆動信号の間、すなわち、駆動休止期間に実行されている。

#### 【0091】

図23において、静電アクチュエータ120を駆動するために、切替手段23は、最初は駆動回路18側に接続されている。上述のように、駆動回路18から駆動信号(電圧信号)が振動板121に入力されると、静電アクチュエータ120が駆動し、振動板121は、セグメント電極122側に引きつけられ、印加電圧が0になるとセグメント電極122から離れる方向に急激に変位して振動(残留振動)を開始する。このとき、インクジェットヘッド100のノズル110からインク滴が吐出される。

#### 【0092】

駆動信号のパルスが立ち下ると、その立ち下がりエッジに同期して駆動/検出切替信号(図20のタイミングチャート参照)が切替手段23に入力され、切替手段23は、駆動回路18から吐出異常検出手段(検出回路)10側に切り替えられ、静電アクチュエータ120(発振回路11のコンデンサとして利用)は吐出異常検出手段10と接続される。

#### 【0093】

そして、吐出異常検出手段10は、上述のような吐出異常(ドット抜け)の検出処理を実行し、波形整形回路15の比較器152から出力される振動板121の残留振動波形データ(矩形波データ)を計測手段17によって残留振動波形の周期や振幅などに数値化する。本実施形態では、計測手段17は、残留振動波形データから特定の振動周期を測定し、その計測結果(数値)を判定手段20に出



力する。

#### 【0094】

具体的には、計測手段17は、比較器152の出力信号の波形（矩形波）の最初の立ち上がりエッジから次の立ち上がりエッジまでの時間（残留振動の周期）を計測するために、図示しないカウンタを用いて基準信号（所定の周波数）のパルスをカウントし、そのカウント値から残留振動の周期（特定の振動周期）を計測する。なお、計測手段17は、最初の立ち上がりエッジから次の立ち下がりエッジまでの時間を計測し、その計測された時間の2倍の時間を残留振動の周期として判定手段20に出力してもよい。以下、このようにして得られた残留振動の周期を $T_w$ とする。

#### 【0095】

判定手段20は、計測手段17によって計測された残留振動波形の特定の振動周期など（計測結果）に基づいて、ノズルの吐出異常（ヘッド異常）の有無、吐出異常（ヘッド異常）の原因、比較偏差量などを判定し、その判定結果を制御部6に出力する。制御部6は、EEPROM（記憶手段）62の所定の格納領域にこの判定結果を保存する。そして、駆動回路18からの次の駆動信号が入力されるタイミングで、駆動／検出切替信号が切替手段23に再び入力され、駆動回路18と静電アクチュエータ120とを接続する。駆動回路18は、一旦駆動電圧を印加するとグラウンド（GND）レベルを維持するので、切替手段23によって上記のような切り替えを行っている（図20のタイミングチャート参照）。これにより、駆動回路18からの外乱などに影響されることなく、静電アクチュエータ120の振動板121の残留振動波形を正確に検出することができる。

#### 【0096】

なお、本発明では、残留振動波形データは、比較器152により矩形波化したものに限定されない。例えば、オペアンプ151から出力された残留振動振幅データは、比較器152により比較処理を行うことなく、A/D変換を行う計測手段17によって随時数値化され、その数値化されたデータに基づいて、判定手段20により吐出異常の有無などを判定し、この判定結果を記憶手段62に記憶するように構成してもよい。

## 【0097】

また、ノズル110のメニスカス（ノズル110内インクが大気と接する面）は、振動板121の残留振動に同期して振動するため、インクジェットヘッド100は、インク滴の吐出動作後、このメニスカスの残留振動が音響抵抗 $r$ によって概ね決まった時間で減衰するのを待ってから（所定の時間待機して）、次の吐出動作を行っている。本発明では、この待機時間を有効に利用して振動板121の残留振動を検出しているので、インクジェットヘッド100の駆動に影響しない吐出異常検出を行うことができる。すなわち、インクジェットプリンタ1（液滴吐出装置）のスループットを低下させることなく、インクジェットヘッド100のノズル110の吐出異常検出処理を実行することができる。

## 【0098】

上述のように、インクジェットヘッド100のキャビティ141内に気泡が混入した場合には、正常吐出時の振動板121の残留振動波形に比べて、周波数が高くなるので、その周期は逆に正常吐出時の残留振動の周期よりも短くなる。また、ノズル110付近のインクが乾燥により増粘、固着した場合には、残留振動が過減衰となり、正常吐出時の残留振動波形に比べて、周波数が相当低くなるので、その周期は正常吐出時の残留振動の周期よりもかなり長くなる。また、ノズル110の出口付近に紙粉が付着した場合には、残留振動の周波数は、正常吐出時の残留振動の周波数よりも低く、しかし、インクの乾燥時の残留振動の周波数よりも高くなるので、その周期は、正常吐出時の残留振動の周期よりも長く、インク乾燥時の残留振動の周期よりも短くなる。

## 【0099】

したがって、正常吐出時の残留振動の周期として、所定の範囲 $T_r$ を設け、また、ノズル110出口に紙粉が付着した場合における残留振動の周期と、ノズル110の出口付近でインクが乾燥した場合における残留振動の周期とを区別するために、所定のしきい値（所定の閾値） $T_1$ を設定することにより、このようなインクジェットヘッド100の吐出異常の原因を決定することができる。判定手段20は、上記吐出異常検出処理によって検出された残留振動波形の周期 $T_w$ が所定の範囲の周期であるか否か、また、所定のしきい値よりも長いかな否かを判定

し、それによって、吐出異常（ヘッド異常）の原因を判定する。

#### 【0100】

次に、本発明の液滴吐出装置の動作を、上述のインクジェットプリンタ1の構成に基づいて説明する。まず、1つのインクジェットヘッド100のノズル110に対する吐出異常検出処理（駆動／検出切替処理を含む）について説明する。図24は、吐出異常検出・判定処理を示すフローチャートである。印刷される印字データ（フラッシング動作における吐出データでもよい）がホストコンピュータ8からインターフェース（IF）9を介して制御部6に入力されると、所定のタイミングでこの吐出異常検出処理が実行される。なお、説明の都合上、この図24に示すフローチャートでは、1つのインクジェットヘッド100、すなわち、1つのノズル110の吐出動作に対応する吐出異常検出処理を示す。

#### 【0101】

まず、印字データ（吐出データ）に対応する駆動信号がヘッドドライバ33の駆動回路18から入力され、それにより、図20のタイミングチャートに示すような駆動信号のタイミングに基づいて、静電アクチュエータ120の両電極間に駆動信号（電圧信号）が印加される（ステップS101）。そして、制御部6は、駆動／検出切替信号に基づいて、吐出したインクジェットヘッド100が駆動休止期間であるか否かを判断する（ステップS102）。ここで、駆動／検出切替信号は、駆動信号の立ち下がりエッジに同期してHighレベルとなり（図20参照）、制御部6から切替手段23に入力される。

#### 【0102】

駆動／検出切替信号が切替手段23に入力されると、切替手段23によって、静電アクチュエータ120、すなわち、発振回路11を構成するコンデンサは、駆動回路18から切り離され、吐出異常検出手段10（検出回路）側、すなわち、残留振動検出手段16の発振回路11に接続される（ステップS103）。そして、後述する残留振動検出処理を実行し（ステップS104）、計測手段17は、この残留振動検出処理において検出された残留振動波形データから所定の数値を計測する（ステップS105）。ここでは、上述のように、計測手段17は、残留振動波形データからその残留振動の周期を計測する。

**【0103】**

次いで、判定手段20によって、計測手段の計測結果に基づいて、後述する吐出異常判定処理が実行され（ステップS106）、その判定結果を制御部6のEEPROM（記憶手段）62の所定の格納領域に保存する。そして、ステップS108においてインクジェットヘッド100が駆動期間であるか否かが判断される。すなわち、駆動休止期間が終了して、次の駆動信号が入力されたか否かが判断され、次の駆動信号が入力されるまで、このステップS108で待機している。

**【0104】**

次の駆動信号のパルスが入力されるタイミングで、駆動信号の立ち上がりエッジに同期して駆動／検出切替信号がLowレベルになると（ステップS108で「yes」）、切替手段23は、静電アクチュエータ120との接続を、吐出異常検出手段（検出回路）10から駆動回路18に切り替えて（ステップS109）、この吐出異常検出処理を終了する。

**【0105】**

なお、図24に示すフローチャートでは、計測手段17が残留振動検出処理（残留振動検出手段16）によって検出された残留振動波形から周期を計測する場合について示したが、本発明はこのような場合に限定されず、例えば、計測手段17は、残留振動検出処理において検出された残留振動波形データから、残留振動波形の位相差や振幅などの計測を行ってもよい。

**【0106】**

次に、図24に示すフローチャートのステップS104における残留振動検出処理（サブルーチン）について説明する。図25は、残留振動検出処理を示すフローチャートである。上述のように、切替手段23によって、静電アクチュエータ120と発振回路11とを接続すると（図24のステップS103）、発振回路11は、CR発振回路を構成し、静電アクチュエータ120の静電容量の変化（静電アクチュエータ120の振動板121の残留振動）に基づいて、発振する（ステップS201）。

**【0107】**

上述のタイミングチャートなどに示すように、発振回路 11 の出力信号（パルス信号）に基づいて、F/V 変換回路 12 において、充電信号、ホールド信号及びクリア信号が生成され、これらの信号に基づいて F/V 変換回路 12 によって発振回路 11 の出力信号の周波数から電圧に変換する F/V 変換処理が行われ（ステップ S202）、F/V 変換回路 12 から振動板 121 の残留振動波形データが出力される。F/V 変換回路 12 から出力された残留振動波形データは、波形整形回路 15 のコンデンサ C3 により、DC 成分（直流成分）が除去され（ステップ S203）、オペアンプ 151 により、DC 成分が除去された残留振動波形（AC 成分）が増幅される（ステップ S204）。

#### 【0108】

増幅後の残留振動波形データは、所定の処理により波形整形され、パルス化される（ステップ S205）。すなわち、本実施形態では、比較器 152 において、直流電圧源 Vref2 によって設定された電圧値（所定の電圧値）とオペアンプ 151 の出力電圧とが比較される。比較器 152 は、この比較結果に基づいて、2 値化された波形（矩形波）を出力する。この比較器 152 の出力信号は、残留振動検出手段 16 の出力信号であり、吐出異常判定処理を行うために、計測手段 17 に出力され、この残留振動検出処理が終了する。

#### 【0109】

次に、図 24 に示すフローチャートのステップ S106 における吐出異常判定処理（サブルーチン）について説明する。図 26 は、制御部 6 及び判定手段 20 によって実行される吐出異常判定処理を示すフローチャートである。判定手段 20 は、上述の計測手段 17 によって計測された周期などの計測データ（計測結果）に基づいて、該当するインクジェットヘッド 100 からインク滴が正常に吐出したか否か、正常に吐出していない場合、すなわち、吐出異常の場合にはその原因が何かを判定する。

#### 【0110】

まず、制御部 6 は、EEPROM 62 に保存されている残留振動の周期の所定の範囲  $T_r$  及び残留振動の周期の所定のしきい値  $T_1$  を判定手段 20 に出力する。残留振動の周期の所定の範囲  $T_r$  は、正常吐出時の残留振動周期に対して、正

常と判定できる許容範囲を持たせたものである。これらのデータは、判定手段 20 の図示しないメモリに格納され、以下の処理が実行される。

#### 【0111】

図 24 のステップ S105 において計測手段 17 によって計測された計測結果が判定手段 20 に入力される（ステップ S301）。ここで、本実施形態では、計測結果は、振動板 121 の残留振動の周期  $T_w$  である。

ステップ S302 において、判定手段 20 は、残留振動の周期  $T_w$  が存在するか否か、すなわち、吐出異常検出手段 10 によって残留振動波形データが得られなかったか否かを判定する。残留振動の周期  $T_w$  が存在しないと判定された場合には、判定手段 20 は、そのインクジェットヘッド 100 のノズル 110 は吐出異常検出処理においてインク滴を吐出していない未吐出ノズルであると判定する（ステップ S306）。また、残留振動波形データが存在すると判定された場合には、続いて、ステップ S303 において、判定手段 20 は、その周期  $T_w$  が正常吐出時の周期と認められる所定の範囲  $T_r$  内にあるか否かを判定する。

#### 【0112】

残留振動の周期  $T_w$  が所定の範囲  $T_r$  内にあると判定された場合には、対応するインクジェットヘッド 100 からインク滴が正常に吐出されたことを意味し、判定手段 20 は、そのインクジェットヘッド 100 のノズル 110 は正常にインク滴と吐出した（正常吐出）と判定する（ステップ S307）。また、残留振動の周期  $T_w$  が所定の範囲  $T_r$  内にはないと判定された場合には、続いて、ステップ S304 において、判定手段 20 は、残留振動の周期  $T_w$  が所定の範囲  $T_r$  よりも短いかなかを判定する。

#### 【0113】

残留振動の周期  $T_w$  が所定の範囲  $T_r$  よりも短いと判定された場合には、残留振動の周波数が高いことを意味し、上述のように、インクジェットヘッド 100 のキャビティ 141 内に気泡が混入しているものと考えられ、判定手段 20 は、そのインクジェットヘッド 100 のキャビティ 141 に気泡が混入しているもの（気泡混入）と判定する（ステップ S308）。

#### 【0114】

また、残留振動の周期  $T_w$  が所定の範囲  $T_r$  よりも長いと判定された場合には、続いて、判定手段 20 は、残留振動の周期  $T_w$  が所定のしきい値  $T_1$  よりも長いかな否かを判定する（ステップ S 305）。残留振動の周期  $T_w$  が所定のしきい値  $T_1$  よりも長いと判定された場合には、残留振動が過減衰であると考えられ、判定手段 20 は、そのインクジェットヘッド 100 のノズル 110 付近のインクが乾燥により増粘しているもの（乾燥）と判定する（ステップ S 309）。

#### 【0115】

そして、ステップ S 305 において、残留振動の周期  $T_w$  が所定のしきい値  $T_1$  よりも短いと判定された場合には、この残留振動の周期  $T_w$  は、 $T_r < T_w < T_1$  を満たす範囲の値であり、上述のように、乾燥よりも周波数が高いノズル 110 の出口付近への紙粉付着であると考えられ、判定手段 20 は、そのインクジェットヘッド 100 のノズル 110 出口付近に紙粉が付着しているもの（紙粉付着）と判定する（ステップ S 310）。

#### 【0116】

このように、判定手段 20 によって、対象となるインクジェットヘッド 100 の正常吐出あるいは吐出異常の原因などが判定されると（ステップ S 306～S 310）、その判定結果は、制御部 6 に出力され、この吐出異常判定処理を終了する。

各インクジェットヘッド 100 に対応する判定結果は、後述する図 24 のステップ S 107 において、処理対象となるインクジェットヘッド 100 と関連付けられて、制御部 6 の EEPROM（記憶手段）62 の所定の格納領域に記憶される。

#### 【0117】

次に、複数のインクジェットヘッド（液滴吐出ヘッド）100、すなわち、複数のノズル 110 を備えるインクジェットプリンタ 1 を想定し、そのインクジェットプリンタ 1 における吐出選択手段（ノズルセクタ）182 と、各インクジェットヘッド 100 の吐出異常検出・判定のタイミングについて説明する。

なお、以下では、説明を分かりやすくするため、印字手段 3 が備える複数のヘッドユニット 35 のうちの 1 つのヘッドユニット 35 について説明し、また、こ

のヘッドユニット 35 は、5 つのインクジェットヘッド 100 a ~ 100 e を備える（すなわち、5 つのノズル 110 を備える）ものとするが、本発明では、印字手段 3 が備えるヘッドユニット 35 の数量や、各ヘッドユニット 35 が備えるインクジェットヘッド 100（ノズル 110）の数量は、それぞれ、いくつであってもよい。

#### 【0118】

図 27 ~ 図 30 は、吐出選択手段 182 を備えるインクジェットプリンタ 1 における吐出異常検出・判定タイミングのいくつかの例を示すブロック図である。以下、各図の構成例を順次説明する。

図 27 は、複数（5 つ）のインクジェットヘッド 100 a ~ 100 e の吐出異常検出のタイミングの一例（吐出異常検出手段 10 が 1 つの場合）である。この図 27 に示すように、複数のインクジェットヘッド 100 a ~ 100 e を有するインクジェットプリンタ 1 は、駆動波形を生成する駆動波形生成手段 181 と、いずれのノズル 110 からインク滴を吐出するかを選択することができる吐出選択手段 182 と、この吐出選択手段 182 によって選択され、駆動波形生成手段 181 によって駆動される複数のインクジェットヘッド 100 a ~ 100 e とを備えている。なお、図 27 の構成では、上記以外の構成は図 2、図 16 および図 23 に示したものと同様であるため、その説明を省略する。

#### 【0119】

なお、本実施形態では、駆動波形生成手段 181 および吐出選択手段 182 は、ヘッドドライバ 33 の駆動回路 18 に含まれるものとして説明するが（図 27 では、切替手段 23 を介して 2 つのブロックとして示しているが、一般的には、いずれもヘッドドライバ 33 内に構成される）、本発明はこの構成に限定されず、例えば、駆動波形生成手段 181 は、ヘッドドライバ 33 とは独立した構成としてもよい。

#### 【0120】

この図 27 に示すように、吐出選択手段 182 は、シフトレジスタ 182 a と、ラッチ回路 182 b と、ドライバ 182 c とを備えている。シフトレジスタ 182 a には、図 2 に示すホストコンピュータ 8 から出力され、制御部 6 において



所定の処理をされた印字データ（吐出データ）と、クロック信号（CLK）が順次入力される。この印字データは、クロック信号（CLK）の入力パルスに応じて（クロック信号の入力の度に）シフトレジスタ182aの初段から順次後段側にシフトして入力され、各インクジェットヘッド100a～100eに対応する印字データとしてラッチ回路182bに出力される。なお、後述する吐出異常検出処理では、印字データではなくフラッシング（予備吐出）時の吐出データが入力されるが、この吐出データとは、すべてのインクジェットヘッド100a～100eに対する印字データを意味している。

#### 【0121】

ラッチ回路182bは、ヘッドユニット35のノズル110の数、すなわち、インクジェットヘッド100の数に対応する印字データがシフトレジスタ182aに格納された後、入力されるラッチ信号によってシフトレジスタ182aの各出力信号をラッチする。ここで、CLEAR信号が入力された場合には、ラッチ状態が解除され、ラッチされていたシフトレジスタ182aの出力信号は0（ラッチの出力停止）となり、印字動作は停止される。CLEAR信号が入力されていない場合には、ラッチされたシフトレジスタ182aの印字データがドライバ182cに出力される。シフトレジスタ182aから出力される印字データがラッチ回路182bによってラッチされた後、次の印字データをシフトレジスタ182aに入力し、印字タイミングに合わせてラッチ回路182bのラッチ信号を順次更新している。

#### 【0122】

ドライバ182cは、駆動波形生成手段181と各インクジェットヘッド100の静電アクチュエータ120とを接続するものであり、ラッチ回路182bから出力されるラッチ信号で指定（特定）された各静電アクチュエータ120（インクジェットヘッド100a～100eのいずれかあるいはすべての静電アクチュエータ120）に駆動波形生成手段181の出力信号（駆動信号）を入力し、それによって、その駆動信号（電圧信号）が静電アクチュエータ120の両電極間に印加される。

#### 【0123】

この図 27 に示すインクジェットプリンタ 1 は、複数のインクジェットヘッド 100 a ~ 100 e を駆動する 1 つの駆動波形生成手段 181 と、各インクジェットヘッド 100 a ~ 100 e のいずれかのインクジェットヘッド 100 に対して吐出異常（インク滴不吐出）を検出する吐出異常検出手段 10 と、この吐出異常検出手段 10 によって得られた吐出異常の原因などの判定結果を保存（格納）する記憶手段 62 と、駆動波形生成手段 181 と吐出異常検出手段 10 とを切り替える 1 つの切替手段 23 とを備えている。したがって、このインクジェットプリンタ 1 は、駆動波形生成手段 181 から入力される駆動信号に基づいて、ドライバ 182 c によって選択されたインクジェットヘッド 100 a ~ 100 e のうちの 1 つまたは複数を駆動し、駆動／検出切替信号が吐出駆動動作後に切替手段 23 に入力されることによって、切替手段 23 が駆動波形生成手段 181 から吐出異常検出手段 10 にインクジェットヘッド 100 の静電アクチュエータ 120 との接続を切り替えた後、振動板 121 の残留振動波形に基づいて、吐出異常検出手段 10 によって、そのインクジェットヘッド 100 のノズル 110 における吐出異常（インク滴不吐出）を検出し、吐出異常の場合にはその原因を判定するものである。

#### 【0124】

そして、このインクジェットプリンタ 1 は、1 つのインクジェットヘッド 100 のノズル 110 について吐出異常を検出・判定すると、次に駆動波形生成手段 181 から入力される駆動信号に基づいて、次に指定されたインクジェットヘッド 100 のノズル 110 について吐出異常を検出・判定し、以下同様に、駆動波形生成手段 181 の出力信号によって駆動されるインクジェットヘッド 100 のノズル 110 についての吐出異常を順次検出・判定する。そして、上述のように、残留振動検出手段 16 が振動板 121 の残留振動波形を検出すると、計測手段 17 がその波形データに基づいて残留振動波形の周期などを計測し、判定手段 20 が、計測手段 17 の計測結果に基づいて、正常吐出か吐出異常か、および、吐出異常（ヘッド異常）の場合には吐出異常の原因を判定して、記憶手段 62 にその判定結果を出力する。

#### 【0125】

このように、この図 27 に示すインクジェットプリンタ 1 では、複数のインクジェットヘッド 100 a ~ 100 e の各ノズル 110 についてインク滴吐出駆動動作の際に順次吐出異常を検出・判定する構成としているので、吐出異常検出手段 10 と切替手段 23 とを 1 つずつ備えるだけでよく、吐出異常を検出・判定可能なインクジェットプリンタ 1 の回路構成をスケールダウンできるとともに、その製造コストの増加を防止することができる。

#### 【0126】

図 28 は、複数のインクジェットヘッド 100 の吐出異常検出のタイミングの一例（吐出異常検出手段 10 の数がインクジェットヘッド 100 の数と同じ場合）である。この図 28 に示すインクジェットプリンタ 1 は、1 つの吐出選択手段 182 と、5 つの吐出異常検出手段 10 a ~ 10 e と、5 つの切替手段 23 a ~ 23 e と、5 つのインクジェットヘッド 100 a ~ 100 e に共通の 1 つの駆動波形生成手段 181 と、1 つの記憶手段 62 とを備えている。なお、各構成要素は、図 27 の説明において既に上述しているので、その説明を省略し、これらの接続について説明する。

#### 【0127】

図 27 に示す場合と同様に、吐出選択手段 182 は、ホストコンピュータ 8 から入力される印字データ（吐出データ）とクロック信号 CLK に基づいて、各インクジェットヘッド 100 a ~ 100 e に対応する印字データをラッチ回路 182 b にラッチし、駆動波形生成手段 181 からドライバ 182 c に入力される駆動信号（電圧信号）に応じて、印字データに対応するインクジェットヘッド 100 a ~ 100 e の静電アクチュエータ 120 を駆動させる。駆動／検出切替信号は、すべてのインクジェットヘッド 100 a ~ 100 e に対応する切替手段 23 a ~ 23 e にそれぞれ入力され、切替手段 23 a ~ 23 e は、対応する印字データ（吐出データ）の有無にかかわらず、駆動／検出切替信号に基づいて、インクジェットヘッド 100 の静電アクチュエータ 120 に駆動信号を入力後、駆動波形生成手段 181 から吐出異常検出手段 10 a ~ 10 e にインクジェットヘッド 100 との接続を切り替える。

#### 【0128】

すべての吐出異常検出手段10a～10eにより、それぞれのインクジェットヘッド100a～100eの吐出異常を検出・判定した後、その検出処理で得られたすべてのインクジェットヘッド100a～100eの判定結果が、記憶手段62に出力され、記憶手段62は、各インクジェットヘッド100a～100eの吐出異常の有無および吐出異常の原因を所定の保存領域に格納する。

#### 【0129】

このように、この図28に示すインクジェットプリンタ1では、複数のインクジェットヘッド100a～100eの各ノズル110に対応して複数の吐出異常検出手段10a～10eを設け、それらに対応する複数の切替手段23a～23eによって切替動作を行って、吐出異常検出およびその原因判定を行っているの、一度にすべてのノズル110について短時間に吐出異常検出およびその原因判定を行うことができる。

#### 【0130】

図29は、複数のインクジェットヘッド100の吐出異常検出のタイミングの一例（吐出異常検出手段10の数がインクジェットヘッド100の数と同じであり、印字データがあるときに吐出異常検出を行う場合）である。この図29に示すインクジェットプリンタ1は、図28に示すインクジェットプリンタ1の構成に、切替制御手段19を追加（付加）したものである。本実施形態では、この切替制御手段19は、複数のAND回路（論理積回路）ANDa～ANDeから構成され、各インクジェットヘッド100a～100eに入力される印字データと、駆動／検出切替信号とが入力されると、対応する切替手段23a～23eにHighレベルの出力信号を出力するものである。

#### 【0131】

各切替手段23a～23eは、切替制御手段19のそれぞれ対応するAND回路ANDa～ANDeの出力信号に基づいて、駆動波形生成手段181からそれぞれ対応する吐出異常検出手段10a～10eへ、対応するインクジェットヘッド100a～100eの静電アクチュエータ120との接続を切り替える。具体的には、対応するAND回路ANDa～ANDeの出力信号がHighレベルであるとき、すなわち、駆動／検出切替信号がHighレベルの状態に対応するイ

ンクジェットヘッド100a～100eに入力される印字データがラッチ回路182bからドライバ182cに出力されている場合には、そのAND回路に対応する切替手段23a～23eは、対応するインクジェットヘッド100a～100eへの接続を、駆動波形生成手段181から吐出異常検出手段10a～10eに切り替える。

#### 【0132】

印字データが入力されたインクジェットヘッド100に対応する吐出異常検出手段10a～10eにより、各インクジェットヘッド100の吐出異常の有無および吐出異常の場合にはその原因を検出した後、その吐出異常検出手段10は、その検出処理で得られた判定結果を記憶手段62に出力する。記憶手段62は、このように入力された（得られた）1または複数の判定結果を所定の保存領域に格納する。

#### 【0133】

このように、この図29に示すインクジェットプリンタ1では、複数のインクジェットヘッド100a～100eの各ノズル110に対応して複数の吐出異常検出手段10a～10eを設け、それぞれのインクジェットヘッド100a～100eに対応する印字データがホストコンピュータ8から制御部6を介して吐出選択手段182に入力されたときに、切替制御手段19によって指定された切替手段23a～23eのみが所定の切替動作を行って、インクジェットヘッド100の吐出異常検出およびその原因判定を行っているので、吐出駆動動作をしていないインクジェットヘッド100についてはこの検出・判定処理を行わない。したがって、このインクジェットプリンタ1によって、無駄な検出および判定処理を回避することができる。

#### 【0134】

図30は、複数のインクジェットヘッド100の吐出異常検出のタイミングの一例（吐出異常検出手段10の数がインクジェットヘッド100の数と同じであり、各インクジェットヘッド100を巡回して吐出異常検出を行う場合）である。この図30に示すインクジェットプリンタ1は、図29に示すインクジェットプリンタ1の構成において吐出異常検出手段10を1つとし、駆動／検出切替信

号を走査する（検出・判定処理を実行するインクジェットヘッド100を1つずつ特定する）切替選択手段19aを追加したものである。

#### 【0135】

この切替選択手段19aは、図29に示す切替制御手段19に、制御部6から入力される走査信号（選択信号）に基づいて、複数のインクジェットヘッド100a～100eに対応するAND回路ANDa～ANDeへの駆動／検出切替信号の入力を走査する（選択して切り替える）セクタ191を追加したものである。この切替選択手段19aの走査（選択）順は、シフトレジスタ182aに入力される印字データの順、すなわち、複数のインクジェットヘッド100の吐出順であってもよいが、単純に複数のインクジェットヘッド100a～100eの順であってもよい。

#### 【0136】

走査順がシフトレジスタ182aに入力される印字データの順である場合、吐出選択手段182のシフトレジスタ182aに印字データが入力されると、その印字データはラッチ回路182bにラッチされ、ラッチ信号の入力によりドライバ182cに出力される。印字データのシフトレジスタ182aへの入力、あるいはラッチ信号のラッチ回路182bへの入力に同期して、印字データに対応するインクジェットヘッド100を特定するための走査信号が切替選択手段19aのセクタ191に入力され、対応するAND回路に駆動／検出切替信号が出力される。

#### 【0137】

その対応するAND回路は、ラッチ回路182bから入力された印字データと、セクタ191から入力された駆動／検出切替信号と加算演算することにより、Highレベルの出力信号に対応する切替手段23に出力する。そして、切替選択手段19aからHighレベルの出力信号が入力された切替手段23は、対応するインクジェットヘッド100の静電アクチュエータ120への接続を、駆動波形生成手段181から吐出異常検出手段10に切り替える。

#### 【0138】

吐出異常検出手段10は、印字データが入力されたインクジェットヘッド10

0の吐出異常を検出し、吐出異常がある場合にはその原因を判定した後、その判定結果を記憶手段62に出力する。そして、記憶手段62は、このように入力された（得られた）判定結果を所定の保存領域に格納する。

また、走査順が単純なインクジェットヘッド100a～100eの順である場合、吐出選択手段182のシフトレジスタ182aに印字データが入力されると、その印字データはラッチ回路182bにラッチされ、ラッチ信号の入力によりドライバ182cに出力される。印字データのシフトレジスタ182aへの入力、あるいはラッチ信号のラッチ回路182bへの入力に同期して、印字データに対応するインクジェットヘッド100を特定するための走査（選択）信号が切替選択手段19aのセレクタ191に入力され、対応するAND回路に駆動／検出切替信号が出力される。

#### 【0139】

ここで、切替選択手段19aのセレクタ191に入力された走査信号により定められたインクジェットヘッド100に対する印字データがシフトレジスタ182aに入力されたときには、それに対応するAND回路の出力信号がHighレベルとなり、切替手段23は、対応するインクジェットヘッド100への接続を、駆動波形生成手段181から吐出異常検出手段10に切り替える。しかしながら、上記印字データがシフトレジスタ182aに入力されないときには、AND回路の出力信号はLowレベルであり、対応する切替手段23は、所定の切替動作を実行しない。

#### 【0140】

切替手段23によって切替動作が行われた場合には、上記と同様に、吐出異常検出手段10は、印字データが入力されたインクジェットヘッド100の吐出異常を検出し、吐出異常がある場合にはその原因を判定した後、その判定結果を記憶手段62に出力する。そして、記憶手段62は、このように入力された（得られた）判定結果を所定の保存領域に格納する。

#### 【0141】

なお、切替選択手段19aで特定されたインクジェットヘッド100に対する印字データがないときには、上述のように、対応する切替手段23が切替動作を

実行しないので、吐出異常検出手段10による吐出異常検出処理を実行する必要はないが、そのような処理が実行されてもよい。切替動作が行われずに吐出異常検出処理が実行された場合、吐出異常検出手段10の判定手段20は、図26のフローチャートに示すように、対応するインクジェットヘッド100のノズル110を未吐出ノズルであると判定し（ステップS306）、その判定結果を記憶手段62の所定の保存領域に格納する。

#### 【0142】

このように、この図30に示すインクジェットプリンタ1では、図28または図29に示すインクジェットプリンタ1とは異なり、複数のインクジェットヘッド100a～100eの各ノズル110に対して1つの吐出異常検出手段10のみを設け、それぞれのインクジェットヘッド100a～100eに対応する印字データがホストコンピュータ8から制御部6を介して吐出選択手段182に入力され、それと同時に走査（選択）信号により特定されて、その印字データに応じて吐出駆動動作をするインクジェットヘッド100に対応する切替手段23のみが切替動作を行って、対応するインクジェットヘッド100の吐出異常検出およびその原因判定を行っているので、より効率的にヘッドユニット35の各インクジェットヘッド100の吐出異常検出およびその原因判定を行うことができる。

#### 【0143】

また、図28または図29に示すインクジェットプリンタ1とは異なり、図30に示すインクジェットプリンタ1は、吐出異常検出手段10を1つのみ備えていればよいので、図28および図29に示すインクジェットプリンタ1に比べ、インクジェットプリンタ1の回路構成をスケールダウンすることができるとともに、その製造コストの増加を防止することができる。

#### 【0144】

次に、図27～図30に示すプリンタ1の動作、すなわち、複数のインクジェットヘッド100を備えるインクジェットプリンタ1における吐出異常検出処理（主に、検出タイミング）について説明する。吐出異常検出・判定処理（多ノズルにおける処理）は、各インクジェットヘッド100の静電アクチュエータ120がインク滴吐出動作を行ったときの振動板121の残留振動を検出し、その残



留振動の周期に基づいて、該当するインクジェットヘッド100に対し吐出異常（ドット抜け、インク滴不吐出）が生じているか否か、ドット抜け（インク滴不吐出）が生じた場合には、その原因が何であるかを判定している。このように、本発明では、インクジェットヘッド100によるインク滴（液滴）の吐出動作が行われれば、これらの検出・判定処理を実行できるが、インクジェットヘッド100がインク滴を吐出するのは、実際に記録用紙Pに印刷（プリント）している場合だけでなく、フラッシング動作（予備吐出あるいは予備的吐出）をしている場合もある。以下、この2つの場合について、吐出異常検出・判定処理（多ノズル）を説明する。

#### 【0145】

ここで、フラッシング（予備吐出）処理とは、図1では図示していないキャップの装着時や、記録用紙P（メディア）にインク滴（液滴）がかからない場所において、ヘッドユニット35のすべてのあるいは対象となるノズル110からインク滴を吐出するヘッドクリーニング動作である。このフラッシング処理（フラッシング動作）は、例えば、ノズル110内のインク粘度を適正範囲の値に保持するために、定期的にキャビティ141内のインクを排出する際に実施したり、あるいは、インク増粘時の回復動作としても実施したりされる。さらに、フラッシング処理は、インクカートリッジ31を印字手段3に装着した後に、インクをキャビティ141に初期充填する場合にも実施される。

#### 【0146】

また、ノズルプレート（ノズル面）150をクリーニングするためにワイピング処理（ヘッドユニット35のヘッド面に付着している付着物（紙粉やごみなど）を、図1では図示していないワイパで拭き取る処置）を行う場合があるが、このときノズル110内が負圧になって、他の色のインク（他の種類の液滴）を引込んでしまう可能性がある。そのため、ワイピング処理後に、ヘッドユニット35のすべてのノズル110から一定量のインク滴を吐出させるためにもフラッシング処理が実施される。さらに、フラッシング処理は、ノズル110のメニスカスの状態を正常に保持して良好な印字を確保するためにも適時に実施され得る。

#### 【0147】

まず、図31～図33に示すフローチャートを参照して、フラッシング処理時における吐出異常検出・判定処理について説明する。なお、これらのフローチャートは、図27～図30のブロック図を参照しながら説明する（以下、印字動作時においても同様）。図31は、図27に示すインクジェットプリンタ1のフラッシング動作時における吐出異常検出のタイミングを示すフローチャートである。

#### 【0148】

所定のタイミングにおいて、インクジェットプリンタ1のフラッシング処理が実行されるとき、この図31に示す吐出異常検出・判定処理が実行される。制御部6は、吐出選択手段182のシフトレジスタ182aに1ノズル分の吐出データを入力し（ステップS401）、ラッチ回路182bにラッチ信号が入力されて（ステップS402）、この吐出データがラッチされる。そのとき、切替手段23は、その吐出データの対象であるインクジェットヘッド100の静電アクチュエータ120と駆動波形生成手段181とを接続する（ステップS403）。

#### 【0149】

そして、吐出異常検出手段10によって、インク吐出動作を行ったインクジェットヘッド100に対して、図24のフローチャートに示す吐出異常検出・判定処理が実行される（ステップS404）。ステップS405において、制御部6は、吐出選択手段182に出力した吐出データに基づいて、図27に示すインクジェットプリンタ1のすべてのインクジェットヘッド100a～100eのノズル110について吐出異常検出・判定処理が終了したか否かを判断する。そして、すべてのノズル110についてこれらの処理が終わっていないと判断されるときには、制御部6は、シフトレジスタ182aに次のインクジェットヘッド100のノズル110に対応する吐出データを入力し（ステップS406）、ステップS402に移行して同様の処理を繰り返す。

#### 【0150】

また、ステップS405において、すべてのノズル110について上述の吐出異常検出および判定処理が終わったと判断される場合には、制御部6は、ラッチ回路182bにCLEAR信号を入力し、ラッチ回路182bのラッチ状態を解

除して、図 27 に示すインクジェットプリンタ 1 における吐出異常検出・判定処理を終了する。

#### 【0151】

上述のように、この図 27 に示すプリンタ 1 における吐出異常検出・判定処理では、1 つの吐出異常検出手段 10 と 1 つの切替手段 23 とから検出回路が構成されているので、吐出異常検出処理および判定処理は、インクジェットヘッド 100 の数だけ繰り返されるが、吐出異常検出手段 10 を構成する回路はそれほど大きくならないという効果を有する。

#### 【0152】

次いで、図 32 は、図 28 および図 29 に示すインクジェットプリンタ 1 のフラッシング動作時における吐出異常検出のタイミングを示すフローチャートである。図 28 に示すインクジェットプリンタ 1 と図 29 に示すインクジェットプリンタ 1 とは回路構成が若干異なるが、吐出異常検出手段 10 および切替手段 23 の数が、インクジェットヘッド 100 の数に対応する（同じである）点で一致している。そのため、フラッシング動作時における吐出異常検出・判定処理は、同様のステップから構成される。

#### 【0153】

所定のタイミングにおいて、インクジェットプリンタ 1 のフラッシング処理が実行されるとき、制御部 6 は、吐出選択手段 182 のシフトレジスタ 182a に全ノズル分の吐出データを入力し（ステップ S501）、ラッチ回路 182b にラッチ信号が入力されて（ステップ S502）、この吐出データがラッチされる。そのとき、切替手段 23a～23e は、すべてのインクジェットヘッド 100a～100e と駆動波形生成手段 181 とをそれぞれ接続する（ステップ S503）。

#### 【0154】

そして、それぞれのインクジェットヘッド 100a～100e に対応する吐出異常検出手段 10a～10e によって、インク吐出動作を行ったすべてのインクジェットヘッド 100 に対して、図 24 のフローチャートに示す吐出異常検出・判定処理が並列的に実行される（ステップ S504）。この場合、すべてのイン

クジェットヘッド100a～100eに対応する判定結果が、処理対象となるインクジェットヘッド100と関連付けられて、記憶手段62の所定の格納領域に保存される(図24のステップS107)。

#### 【0155】

そして、吐出選択手段182のラッチ回路182bにラッチされている吐出データをクリアするために、制御部6は、CLEAR信号をラッチ回路182bに入力して(ステップS505)、ラッチ回路182bのラッチ状態を解除して、図28および図29に示すインクジェットプリンタ1における吐出異常検出処理および判定処理を終了する。

#### 【0156】

上述のように、この図28および図29に示すプリンタ1における処理では、インクジェットヘッド100a～100eに対応する複数(この実施形態では5つ)の吐出異常検出手段10と複数の切替手段23とから検出および判定回路が構成されているので、吐出異常検出・判定処理は、一度にすべてのノズル110について短時間に実行され得るという効果を有する。

#### 【0157】

次いで、図33は、図30に示すインクジェットプリンタ1のフラッシング動作時における吐出異常検出のタイミングを示すフローチャートである。以下同様に、図30に示すインクジェットプリンタ1の回路構成を用いて、フラッシング動作時における吐出異常検出処理および原因判定処理について説明する。

#### 【0158】

所定のタイミングにおいて、インクジェットプリンタ1のフラッシング処理が実行されるとき、まず、制御部6は、走査信号を切替選択手段19aのセレクタ191に出力し、この切替選択手段19aにより、最初の切替手段23aおよびインクジェットヘッド100aを設定(特定)する(ステップS601)。そして、吐出選択手段182のシフトレジスタ182aに全ノズル分の吐出データを入力し(ステップS602)、ラッチ回路182bにラッチ信号が入力されて(ステップS603)、この吐出データがラッチされる。そのとき、切替手段23aは、インクジェットヘッド100aの静電アクチュエータ120と駆動波形生

成手段181とを接続している（ステップS604）。

#### 【0159】

そして、インク吐出動作を行ったインクジェットヘッド100aに対して、図24のフローチャートに示す吐出異常検出・判定処理が実行される（ステップS605）。この場合、図24のステップS103において、セクタ191の出力信号である駆動／検出切替信号と、吐出データとがAND回路ANDaに入力され、AND回路ANDaの出力信号がHighレベルとなることにより、切替手段23aは、インクジェットヘッド100aの静電アクチュエータ120と吐出異常検出手段10とを接続する。そして、図24のステップS106において実行される吐出異常判定処理の判定結果が、処理対象となるインクジェットヘッド100（ここでは、100a）と関連付けられて、記憶手段62の所定の格納領域に保存される（図24のステップS107）。

#### 【0160】

ステップS606において、制御部6は、吐出異常検出・判定処理がすべてのノズルに対して終了したか否かを判断する。そして、まだすべてのノズルについて吐出異常検出・判定処理が終了していないと判断された場合には、制御部6は、走査信号を切替選択手段19aのセクタ191に出力し、この切替選択手段19aにより、次の切替手段23bおよびインクジェットヘッド100bを設定（特定）し（ステップS607）、ステップS603に移行して、同様の処理を繰り返す。以下、すべてのインクジェットヘッド100について吐出異常検出・判定処理が終了するまでこのループを繰り返す。

#### 【0161】

また、ステップS606において、すべてのノズル110について吐出異常検出処理および判定処理が終了したと判断される場合には、吐出選択手段182のラッチ回路182bにラッチされている吐出データをクリアするために、制御部6は、CLEAR信号をラッチ回路182bに入力して（ステップS609）、ラッチ回路182bのラッチ状態を解除して、図30に示すインクジェットプリンタ1における吐出異常検出処理および判定処理を終了する。

#### 【0162】

上述のように、図30に示すインクジェットプリンタ1における処理では、複数の切替手段23と1つの吐出異常検出手段10から検出回路が構成され、切替選択手段19aのセクタ191の走査信号により特定され、吐出データに応じて吐出駆動をするインクジェットヘッド100に対応する切替手段23のみが切替動作を行って、対応するインクジェットヘッド100の吐出異常検出および原因判定を行っているので、より効率的に各インクジェットヘッド100吐出異常検出および原因判定を行うことができる。

#### 【0163】

なお、このフローチャートのステップS602では、シフトレジスタ182aにすべてのノズル110に対応する吐出データを入力しているが、図31に示すフローチャートのように、切替選択手段19aによるインクジェットヘッド100の走査順に合わせて、シフトレジスタ182aに入力する吐出データを対応する1つのインクジェットヘッド100に入力し、1ノズル110ずつ吐出異常検出・判定処理を行ってもよい。

#### 【0164】

次に、図34および図35に示すフローチャートを参照して、印字動作時におけるインクジェットプリンタ1の吐出異常検出・判定処理について説明する。図27に示すインクジェットプリンタ1においては、主に、フラッシング動作時における吐出異常検出処理および判定処理に適しているので、印字動作時のフローチャートおよびその動作説明を省略するが、この図27に示すインクジェットプリンタ1においても印字動作時に吐出異常検出・判定処理が行われてもよい。

#### 【0165】

図34は、図28および図29に示すインクジェットプリンタ1の印字動作時における吐出異常検出のタイミングを示すフローチャートである。ホストコンピュータ8からの印刷（印字）指示により、このフローチャートの処理が実行（開始）される。制御部6を介してホストコンピュータ8から印字データが吐出選択手段182のシフトレジスタ182aに入力されると（ステップS701）、ラッチ回路182bにラッチ信号が入力されて（ステップS702）、その印字データがラッチされる。このとき、切替手段23a～23eは、すべてのインクジ

ェットヘッド100a～100eと駆動波形生成手段181とを接続している（ステップS703）。

#### 【0166】

そして、インク吐出動作を行ったインクジェットヘッド100に対応する吐出異常検出手段10は、図24のフローチャートに示す吐出異常検出・判定処理を実行する（ステップS704）。この場合、各インクジェットヘッド100に対応するそれぞれの判定結果が、処理対象となるインクジェットヘッド100と関連付けられて、記憶手段62の所定の格納領域に保存される。

#### 【0167】

ここで、図28に示すインクジェットプリンタ1の場合には、切替手段23a～23eは、制御部6から出力される駆動／検出切替信号に基づいて、インクジェットヘッド100a～100eを吐出異常検出手段10a～10eに接続する（図24のステップS103）。そのため、印字データの存在しないインクジェットヘッド100では、静電アクチュエータ120が駆動していないので、吐出異常検出手段10の残留振動検出手段16は、振動板121の残留振動波形を検出ししない。一方、図29に示すインクジェットプリンタ1の場合には、切替手段23a～23eは、制御部6から出力される駆動／検出切替信号と、ラッチ回路182bから出力される印字データとが入力されるAND回路の出力信号に基づいて、印字データの存在するインクジェットヘッド100を吐出異常検出手段10に接続する（図24のステップS103）。

#### 【0168】

ステップS705において、制御部6は、インクジェットプリンタ1の印字動作が終了したか否かを判断する。そして、印字動作が終わっていないと判断されるときには、制御部6は、ステップS701に移行して、次の印字データをシフトレジスタ182aに入力し、同様の処理を繰り返す。また、印字動作が終了したと判断されるときには、吐出選択手段182のラッチ回路182bにラッチされている吐出データをクリアするために、制御部6は、CLEAR信号をラッチ回路182bに入力して（ステップS706）、ラッチ回路182bのラッチ状態を解除して、図28および図29に示すインクジェットプリンタ1における吐

出異常検出処理および判定処理を終了する。

#### 【0169】

上述のように、図28および図29に示すインクジェットプリンタ1は、複数の切替手段23a～23eと、複数の吐出異常検出手段10a～10eとを備え、一度にすべてのインクジェットヘッド100に対して吐出異常検出・判定処理を行っているので、これらの処理を短時間に行うことができる。また、図29に示すインクジェットプリンタ1は、切替制御手段19、すなわち、駆動／検出切替信号と印字データとを加算演算するAND回路ANDa～ANDeをさらに備え、印字動作を行うインクジェットヘッド100のみに対して切替手段23による切替動作を行っているので、無駄な検出を行うことなく、吐出異常検出処理および判定処理を行うことができる。

#### 【0170】

次いで、図35は、図30に示すインクジェットプリンタ1の印字動作時における吐出異常検出のタイミングを示すフローチャートである。ホストコンピュータ8からの印刷指示により、図30に示すインクジェットプリンタ1においてこのフローチャートの処理が実行される。まず、切替選択手段19aは、最初の切替手段23aおよびインクジェットヘッド100aを予め設定（特定）しておく（ステップS801）。

#### 【0171】

制御部6を介してホストコンピュータ8から印字データが吐出選択手段182のシフトレジスタ182aに入力されると（ステップS802）、ラッチ回路182bにラッチ信号が入力されて（ステップS803）、その印字データがラッチされる。ここで、切替手段23a～23eは、この段階では、すべてのインクジェットヘッド100a～100eと駆動波形生成手段181（吐出選択手段182のドライバ182c）とを接続している（ステップS804）。

#### 【0172】

そして、制御部6は、インクジェットヘッド100aに印字データがある場合には、切替選択手段19aによって吐出動作後静電アクチュエータ120が吐出異常検出手段10に接続され（図24のステップS103）、図24（図25）



のフローチャートに示す吐出異常検出・判定処理を実行する（ステップS805）。そして、図24のステップS106において実行される吐出異常判定処理の判定結果が、処理対象となるインクジェットヘッド100（ここでは、100a）と関連付けられて、記憶手段62の所定の格納領域に保存される（図24のステップS107）。

#### 【0173】

ステップS806において、制御部6は、すべてのノズル110（すべてのインクジェットヘッド100）について上述の吐出異常検出・判定処理を終了したか否かを判断する。そして、すべてのノズル110について上記処理が終了したと判断される場合には、制御部6は、走査信号に基づいて、また最初のノズル110に対応する切替手段23aを設定し（ステップS808）、すべてのノズル110について上記処理が終了していないと判断される場合には、次のノズル110に対応する切替手段23bを設定する（ステップS807）。

#### 【0174】

ステップS809において、制御部6は、ホストコンピュータ8から指示された所定の印字動作が終了したか否かを判断する。そして、まだ印字動作が終了していないと判断された場合には、次の印字データがシフトレジスタ182aに入力され（ステップS802）、同様の処理を繰り返す。印字動作が終了したと判断された場合には、吐出選択手段182のラッチ回路182bにラッチされている吐出データをクリアするために、制御部6は、CLEAR信号をラッチ回路182bに入力して（ステップS810）、ラッチ回路182bのラッチ状態を解除して、図30に示すインクジェットプリンタ1における吐出異常検出・判定処理を終了する。

#### 【0175】

以上のように、本発明の液滴吐出装置（インクジェットプリンタ1）は、振動板121と、振動板121を変位させる静電アクチュエータ120と、内部に液体が充填され、振動板121の変位により、該内部の圧力が変化（増減）されるキャビティ141と、キャビティ141に連通し、キャビティ141内の圧力の変化（増減）により液体を液滴として吐出するノズル110とを有するインクジ

ェットヘッド（液滴吐出ヘッド）100を複数個備え、さらに、これらの静電アクチュエータ120を駆動する駆動波形生成手段181と、複数のノズル110のうちいずれのノズル110から液滴を吐出するかを選択する吐出選択手段182と、振動板121の残留振動を検出し、この検出された振動板121の残留振動に基づいて、液滴の吐出の異常を検出する1つまたは複数の吐出異常検出手段10と、静電アクチュエータ120の駆動による液滴の吐出動作後、駆動／検出切替信号や印字データ、あるいは走査信号に基づいて、静電アクチュエータ120を駆動波形生成手段181から吐出異常検出手段10に切り替える1つまたは複数の切替手段23とを備え、一度（並列的）にあるいは順次に複数のノズル110の吐出異常を検出することとした。

#### 【0176】

したがって、本発明の液滴吐出装置および液滴吐出ヘッドの吐出異常検出・判定方法によって、吐出異常検出およびその原因判定を短時間に行うことができるとともに、吐出異常検出手段10を含む検出回路の回路構成をスケールダウンすることができ、液滴吐出装置の製造コストの増加を防止することができる。また、静電アクチュエータ120の駆動後、吐出異常検出手段10に切り替えて吐出異常検出および原因判定を行っているので、アクチュエータの駆動に影響を与えることがなく、それによって、本発明の液滴吐出装置のスループットを低下または悪化させることがない。また、所定の構成要素を備えている既存の液滴吐出装置（インクジェットプリンタ）に、吐出異常検出手段10を装備することも可能である。

#### 【0177】

また、本発明の液滴吐出装置は、上記構成と異なり、複数の切替手段23と、切替制御手段19と、1つあるいはノズル110の数量と対応する複数の吐出異常検出手段10とを備え、駆動／検出切替信号および吐出データ（印字データ）、あるいは、走査信号、駆動／検出切替信号および吐出データ（印字データ）に基づいて、対応する静電アクチュエータ120を駆動波形生成手段181または吐出選択手段182から吐出異常検出手段10に切り替えて、吐出異常検出および原因判定を行うこととした。

## 【0178】

したがって、本発明の液滴吐出装置によって、吐出データ（印字データ）が入力されていない、すなわち、吐出駆動動作をしていない静電アクチュエータ120に対応する切替手段は切替動作を行わないので、無駄な検出・判定処理を回避することができる。また、切替選択手段19aを利用する場合には、液滴吐出装置は、1つの吐出異常検出手段10のみを備えていればよいので、液滴吐出装置の回路構成をスケールダウンすることができるとともに、液滴吐出装置の製造コストの増加を防止することができる。

## 【0179】

次に、本発明の液滴吐出装置におけるインクジェットヘッド100（ヘッドユニット35）に対し、吐出異常（ヘッド異常）の原因を解消させる回復処理を実行する構成（回復手段24）について説明する。図36は、図1に示すインクジェットプリンタ1の上部から見た概略的な構造（一部省略）を示す図である。この図36に示すインクジェットプリンタ1は、図1の斜視図で示した構成以外に、インク滴不吐出（ヘッド異常）の回復処理を実行するためのワイパ300とキャップ310とを備える。

## 【0180】

回復手段24が実行する回復処理としては、各インクジェットヘッド100のノズル110から液滴を予備的に吐出するフラッシング処理と、後述するワイパ300（図37参照）によるワイピング処理と、後述するチューブポンプ320によるポンピング処理（ポンプ吸引処理）が含まれる。すなわち、回復手段24は、チューブポンプ320およびそれを駆動するパルスモータと、ワイパ300およびワイパ300の上下動駆動機構と、キャップ310の上下動駆動機構（図示せず）とを備え、フラッシング処理においてはヘッドドライバ33およびヘッドユニット35などが、また、ワイピング処理においてはキャリッジモータ41などが回復手段24の一部として機能する。フラッシング処理については上述しているので、以降、ワイピング処理およびポンピング処理について説明する。

## 【0181】

ここで、ワイピング処理とは、ヘッドユニット35のノズルプレート150（

ノズル面)に付着した紙粉などの異物をワイパ300により拭き取る処理のことをいう。また、ポンピング処理(ポンプ吸引処理)とは、後述するチューブポンプ320を駆動して、ヘッドユニット35の各ノズル110から、キャビティ141内のインクを吸引して排出する処理をいう。このように、ワイピング処理は、上述のようなインクジェットヘッド100の液滴の吐出異常の原因の1つである紙粉付着の状態における回復処理として適切な処理である。また、ポンプ吸引処理は、前述のフラッシング処理では取り除けないキャビティ141内の気泡を除去し、あるいは、ノズル110付近のインクが乾燥によりまたはキャビティ141内のインクが経年劣化により増粘した場合に、増粘したインクを除去する回復処理として適切な処理である。なお、それほど増粘が進んでおらず粘度がそれほど大きくない場合には、上述のフラッシング処理による回復処理も行われ得る。この場合、排出するインク量が少ないので、スループットやランニングコストを低下させずに適切な回復処理を行うことができる。

#### 【0182】

複数のヘッドユニット35を有する印字手段3は、キャリッジ32に搭載され、2本のキャリッジガイド軸422にガイドされてキャリッジモータ41により、図中その上端に備えられた連結部34を介してタイミングベルト421に連結して移動する。キャリッジ32に搭載された印字手段3は、キャリッジモータ41の駆動により移動するタイミングベルト421を介して(タイミングベルト421に連動して)主走査方向に移動可能である。なお、キャリッジモータ41は、タイミングベルト421を連続的に回転させるためのプーリの役割を果たし、他端側にも同様にプーリ44が備えられている。

#### 【0183】

また、キャップ310は、ヘッドユニット35のノズルプレート150(図5参照)のキャッピングを行うためのものである。キャップ310には、その底部側面に孔が形成され、後述するように、チューブポンプ320の構成要素である可撓性のチューブ321が接続されている。なお、チューブポンプ320については、図39において後述する。

#### 【0184】

記録（印字）動作時には、所定のインクジェットヘッド100（液滴吐出ヘッド）の静電アクチュエータ120を駆動しながら、ヘッドユニット35（印字手段3）を主走査方向、すなわち、図36中左右に移動し、また、記録用紙Pを副走査方向、すなわち、図36中下方に移動することにより、インクジェットプリンタ（液滴吐出装置）1は、ホストコンピュータ8から入力された印刷データ（印字データ）に基づいて所定の画像などを記録用紙Pに印刷（記録）する。

#### 【0185】

図37は、図36に示すワイパ300とヘッドユニット35との位置関係を示す図である。この図37において、ヘッドユニット35とワイパ300は、図36に示すインクジェットプリンタ1の図中下側から上側を見た場合の側面図の一部として示される。ワイパ300は、図37（a）に示すように、ヘッドユニット35のノズル面、すなわち、ヘッドユニット35のノズルプレート150と当接可能なように、上下移動可能に配置される。

#### 【0186】

ここで、ワイパ300を利用する回復処理であるワイピング処理について説明する。ワイピング処理を行う際、図37（a）に示すように、ノズル面（ノズルプレート150）よりもワイパ300の先端が上側に位置するように図示しない駆動装置によってワイパ300は上方に移動される。この場合において、キャリッジモータ41を駆動して図中左方向（矢印の方向）にヘッドユニット35を移動させると、ワイピング部材301がノズルプレート150（ノズル面）に当接することになる。

#### 【0187】

なお、ワイピング部材301は可撓性のゴム部材等から構成されるので、図37（b）に示すように、ワイピング部材301のノズルプレート150と当接する先端部分は撓み、その先端部によってノズルプレート150（ノズル面）の表面をクリーニング（拭き掃除）する。これにより、ノズルプレート150（ノズル面）に付着した紙粉などの異物（例えば、紙粉、空気中に浮遊するごみ、ゴムの切れ端など）を除去することができる。また、このような異物の付着状態に応じて（異物が多く付着している場合には）、ヘッドユニット35にワイパ300

の上方を往復移動させることによって、ワイピング処理を複数回実施することもできる。

#### 【0188】

図38は、ポンプ吸引処理時における、ヘッドユニット35と、キャップ310およびポンプ320との関係を示す図である。チューブ321は、ポンピング処理（ポンプ吸引処理）におけるインク排出路を形成するものであり、その一端は、上述のように、キャップ310の底部に接続され、他端は、チューブポンプ320を介して排インクカートリッジ340に接続されている。

#### 【0189】

キャップ310の内部底面には、インク吸収体330が配置されている。このインク吸収体330は、ポンプ吸引処理やフラッシング処理においてインクジェットヘッド100のノズル110から吐出されるインクを吸収して、一時貯蔵する。なお、インク吸収体330によって、キャップ310内へのフラッシング動作時に、吐出された液滴が跳ね返ってノズルプレート150を汚すことを防止することができる。

#### 【0190】

図39は、図38に示すチューブポンプ320の構成を示す概略図である。この図39（B）に示すように、チューブポンプ320は、回転式ポンプであり、回転体322と、その回転体322の円周部に配置された4つのローラ323と、ガイド部材350とを備えている。なお、ローラ323は、回転体322により支持されており、ガイド部材350のガイド351に沿って円弧状に載置された可撓性のチューブ321を加圧するものである。

#### 【0191】

このチューブポンプ320は、軸322aを中心にして回転体322を図39に示す矢印X方向に回転させることにより、チューブ321に当接している1つまたは2つのローラ323が、Y方向に回転しながら、ガイド部材350の円弧状のガイド351に載置されたチューブ321を順次加圧する。これにより、チューブ321が変形し、このチューブ321内に発生した負圧により、各インクジェットヘッド100のキャビティ141内のインク（液状材料）がキャップ3

1 0 を介して吸引され、気泡が混入し、あるいは乾燥により増粘した不要なインクがノズル 1 1 0 を介して、インク吸収体 3 3 0 に排出され、このインク吸収体 3 3 0 に吸収された排インクがチューブポンプ 3 2 0 を介して排インクカートリッジ 3 4 0（図 3 8 参照）に排出される。

#### 【0 1 9 2】

なお、このチューブポンプ 3 2 0 は、図示しないパルスモータなどのモータにより駆動される。パルスモータは、制御部 6 により制御される。チューブポンプ 3 2 0 の回転制御に対する駆動情報、例えば、回転速度、回転数が記述されたルックアップテーブル、シーケンス制御が記述された制御プログラムなどは、制御部 6 の P R O M 6 4 などに格納されており、これらの駆動情報に基づいて、制御部 6 の C P U 6 1 によってチューブポンプ 3 2 0 の制御が行われている。

#### 【0 1 9 3】

次に、回復手段 2 4 の動作（吐出異常回復処理）を説明する。図 4 0 は、本発明のインクジェットプリンタ 1（液滴吐出装置）における吐出異常回復処理を示すフローチャートである。上述の吐出異常検出・判定処理（図 2 4 のフローチャート参照）において吐出異常のノズル 1 1 0 が検出され、その原因が判定されると、印刷動作（印字動作）などを行っていない所定のタイミングで、ヘッドユニット 3 5 が所定の待機領域（例えば、図 3 6 においてヘッドユニット 3 5 のノズルプレート 1 5 0 をキャップ 3 1 0 で覆う位置、あるいは、ワイパ 3 0 0 によるワイピング処理を実施可能な位置）まで移動されて、吐出異常回復処理が実行される。

#### 【0 1 9 4】

まず、制御部 6 は、図 2 4 のステップ S 1 0 7 において制御部 6 の E E P R O M 6 2 に保存された各ノズル 1 1 0 に対応する判定結果を読み出す（ステップ S 9 0 1）。ステップ S 9 0 2 において、制御部 6 は、この読み出した判定結果に吐出異常のノズル 1 1 0 があるか否かを判定する。そして、吐出異常のノズル 1 1 0 がないと判定された場合、すなわち、すべてのノズル 1 1 0 から正常に液滴が吐出された場合には、そのまま、この吐出異常回復処理を終了する。

#### 【0 1 9 5】

一方、いずれかのノズル 1 1 0 が吐出異常であったと判定された場合には、ステップ S 9 0 3 において、制御部 6 は、その吐出異常と判定されたノズル 1 1 0 が紙粉付着であるか否かを判定する。そして、そのノズル 1 1 0 の出口付近に紙粉が付着していないと判定された場合には、ステップ S 9 0 5 に移行し、紙粉が付着していると判定された場合には、上述のワイパ 3 0 0 によるノズルプレート 1 5 0 へのワイピング処理を実行する（ステップ S 9 0 4）。

#### 【0 1 9 6】

ステップ S 9 0 5 において、続いて、制御部 6 は、上記吐出異常と判定されたノズル 1 1 0 が気泡混入であるか否かを判定する。そして、気泡混入であると判定された場合には、制御部 6 は、すべてのノズル 1 1 0 に対してチューブポンプ 3 2 0 によるポンプ吸引処理を実行し（ステップ S 9 0 6）、この吐出異常回復処理を終了する。

#### 【0 1 9 7】

一方、気泡混入でないと判定された場合には、制御部 6 は、上記計測手段 1 7 によって計測された振動板 1 2 1 の残留振動の周期の長短に基づいて、チューブポンプ 3 2 0 によるポンプ吸引処理または吐出異常と判定されたノズル 1 1 0 のみもしくはすべてのノズル 1 1 0 に対するフラッシング処理を実行し（ステップ S 9 0 7）、この吐出異常回復処理を終了する。

#### 【0 1 9 8】

次に、本発明のインクジェットプリンタ（液滴吐出装置）1 の要部（特徴）である電源投入（電源 ON）の際の動作（作用）、すなわち、電源投入時の処理について説明する。

このインクジェットプリンタ 1 では、電源が投入されると、振動板 1 2 1 の残留振動を検出し、検出された振動板 1 2 1 の残留振動の周期（振動パターン）に基づいて、液滴吐出ヘッド 1 0 0 の吐出異常（ヘッド異常）の有無や、その吐出異常の原因を検出し、その吐出異常を解消させる回復処理を選択（決定）する。そして、その選択された回復処理を実行する。

#### 【0 1 9 9】

この振動板 1 2 1 の残留振動の検出は、空打ち、すなわち、インク滴（液滴）



を吐出しない程度に静電アクチュエータ 120 を駆動（空駆動）して行う。これにより、インクを消費することなく、振動板 121 の残留振動の検出を行うことができる。すなわち、実際にインク滴を吐出して振動板 121 の残留振動の検出を行う場合に比べ、この電源投入時の処理（吐出異常回復処理も含む）におけるインク消費量を低減することができる。また、インク滴が吐出されないので、液滴吐出ヘッド 100 が何れの位置に位置していても、前記検出を行うことができる。

このインク滴を吐出しない程度に静電アクチュエータ 120 を駆動して振動板 121 の残留振動の検出を行うこと以外の基本的な構成は、前述した通りである。

#### 【0200】

なお、本発明では、この電源投入時の処理において、例えば、フラッシング等のように、インク滴を吐出する動作（インク吐出動作）を行って、振動板 121 の残留振動を検出してもよい。

また、本発明では、この電源投入時の処理の後（例えば、印字中など）における振動板 121 の残留振動の検出を、インク滴を吐出しない程度に静電アクチュエータ 120 を駆動して行ってもよい。

#### 【0201】

以下、フローチャートに基づいて、具体例を説明する。

図 4 1 は、本発明のインクジェットプリンタ 1（液滴吐出装置）における電源投入時の処理を示すフローチャート、図 4 2 は、吐出異常（ヘッド異常）判定処理（図 4 1 に示すフローチャートのステップ S T 1 0 2 におけるサブルーチンのサブルーチン）を示すフローチャート、図 4 3 は、吐出異常回復処理（図 4 1 に示すフローチャートのステップ S T 1 0 6 におけるサブルーチン）を示すフローチャートである。

#### 【0202】

電源が投入されると（電源が ON すると）、図 4 1 に示す処理が実行され、まず、カウンタをリセット、すなわち、カウンタのカウント値  $N_f = 0$ 、 $N_p = 0$  とする（ステップ S T 1 0 1）。なお、カウンタのカウント値  $N_f$  は、この電源

投入時の処理においてフラッシング処理を行った回数であり、また、 $N_p$ は、この電源投入時の処理においてポンプ吸引処理を行った回数である。

### 【0203】

次いで、吐出異常検出・判定処理を行う（ステップST102）。この吐出異常検出・判定処理は、基本的には、図24に示す、前述した吐出異常検出・判定処理と同様であるが、振動板121の残留振動の検出をインク滴を吐出しない程度に静電アクチュエータ120を駆動して行う。

この吐出異常検出・判定処理は、例えば、すべてのインクジェットヘッド100（ノズル110）に対して行われてもよく、また、複数のインクジェットヘッド100毎にグループ分けし、各グループ毎に代表のインクジェットヘッド100を設定し、各代表のインクジェットヘッド100に対して行われてもよい。

### 【0204】

なお、図24に示す吐出異常検出・判定処理の説明は既になされているので、ここでは、前記ステップST102の吐出異常検出・判定処理のうち、吐出異常（ヘッド異常）判定処理（図24のステップS106の吐出異常判定処理に相当）のみを図42に基づいて説明する。

図42に示すように、まず、計測結果、すなわち、振動板121の残留振動の周期 $T_w$ が判定手段20に入力される（ステップST201）。

### 【0205】

次いで、ステップST202において、残留振動の周期 $T_w$ が存在するか否か、すなわち、吐出異常検出手段10によって残留振動波形データが得られなかったか否かを判定する。残留振動の周期 $T_w$ が存在しないと判定された場合には、そのインクジェットヘッド100は、吐出異常検出処理において、振動板121の残留振動の検出を行っていない未検査ヘッド（未検査ノズル）であり、再検査および回復処理が必要と判定する（ステップST206）。

### 【0206】

また、残留振動波形データが存在すると判定された場合には、続いて、ステップST203において、その周期 $T_w$ が正常吐出時の周期と認められる所定の範囲 $T_r$ 内にあるか否かを判定する。

残留振動の周期 $T_w$ が所定の範囲 $T_r$ 内にあると判定された場合には、対応するインクジェットヘッド100は、そのノズル110からインク滴が正常に吐出され得る状態にあることを意味し、そのインクジェットヘッド100は、正常（正常吐出）と判定する（ステップST207）。また、残留振動の周期 $T_w$ が所定の範囲 $T_r$ 内にないと判定された場合には、続いて、ステップST204において、残留振動の周期 $T_w$ が所定の範囲 $T_r$ よりも短いかな否かを判定する。

#### 【0207】

残留振動の周期 $T_w$ が所定の範囲 $T_r$ よりも短いと判定された場合には、残留振動の周波数が高いことを意味し、上述のように、インクジェットヘッド100のキャビティ141内に気泡が混入しているものと考えられ、そのインクジェットヘッド100のキャビティ141に気泡が混入し（気泡混入）、回復処理が必要と判定する（ステップST208）。

#### 【0208】

また、残留振動の周期 $T_w$ が所定の範囲 $T_r$ よりも長いと判定された場合には、続いて、残留振動の周期 $T_w$ が所定のしきい値 $T_1$ よりも長いかな否かを判定する（ステップST205）。残留振動の周期 $T_w$ が所定のしきい値 $T_1$ よりも長いと判定された場合には、残留振動が過減衰であると考えられ、そのインクジェットヘッド100のノズル110付近のインクが乾燥により増粘し（乾燥）、回復処理が必要と判定する（ステップST209）。

#### 【0209】

そして、ステップST205において、残留振動の周期 $T_w$ が所定のしきい値 $T_1$ よりも短いと判定された場合には、この残留振動の周期 $T_w$ は、 $T_r < T_w < T_1$ を満たす範囲の値であり、上述のように、乾燥よりも周波数が高いノズル110の出口付近への紙粉付着であると考えられ、そのインクジェットヘッド100のノズル110出口付近に紙粉が付着し（紙粉付着）、回復処理が必要と判定する（ステップST210）。

このように、判定手段20によって、対象となるインクジェットヘッド100が正常な状態にあるかな否かと、吐出異常（ヘッド異常）の状態にある場合にはその吐出異常の原因などが判定されると（ステップST206～ST210）、そ

の判定結果は、制御部 6 に出力され、この吐出異常判定処理を終了する。

#### 【0210】

各インクジェットヘッド 100 に対応する判定結果は、処理対象となるインクジェットヘッド 100 と関連付けられて、制御部 6 の E E P R O M (記憶手段) 62 の所定の格納領域に記憶される。

図 41 に示すように、このステップ S T 102 の吐出異常検出・判定処理が終了すると、前記 E E P R O M 62 に記憶されている判定結果に基づいて、吐出異常回復処理が必要か否かを判断し (ステップ S T 103)、吐出異常回復処理が必要でない場合、すなわち、インクジェットヘッド 100 が正常である場合には、印字が可能な印字スタンバイ状態となり (ステップ S T 104)、この処理を終了する。

#### 【0211】

一方、吐出異常回復処理が必要である場合には、ポンプ吸引処理の回数を示すカウンタのカウント値  $N_p$  が予め設定されている値  $\alpha$  ( $\alpha$  は自然数) 以下 ( $N_p \leq \alpha$ ) であるか否かを判断し、 $N_p$  が  $\alpha$  以下の場合は、吐出異常回復処理を実行する (ステップ S T 106)。

この吐出異常回復処理では、図 43 に示すように、まず、前記 E E P R O M 62 に保存された各ノズル 110 または代表のノズル 110 に対応する判定結果を読み出す (ステップ S T 301)。

次いで、ステップ S T 302 において、この読み出した判定結果が、再検査無 (検査済みノズル) であるか否かを判定する。そして、再検査無ではないと判定された場合 (ステップ S T 302 で「NO」)、すなわち、再検査が必要 (未検査ノズル) と判定された場合は、そのまま、この吐出異常回復処理を終了する。

#### 【0212】

一方、再検査無ではないと判定された場合 (ステップ S T 302 で「YES」)、すなわち、検査済みであり、吐出異常と判定された場合には、ステップ S T 303 において、その吐出異常と判定されたノズル 110 が紙粉付着であるか否かを判定する。そして、そのノズル 110 の出口付近に紙粉が付着していないと判定された場合には、ステップ S T 305 に移行し、紙粉が付着していると判定

された場合には、上述のワイパ300によるノズルプレート150へのワイピング処理を実行する（ステップST304）。

#### 【0213】

ステップST305において、続いて、上記吐出異常と判定されたノズル110が気泡混入であるか否かを判定する。そして、気泡混入であると判定された場合には、チューブポンプ320によるポンプ吸引処理を実行し、カウンタのカウント値 $N_p$ を1つインクリメントし（ $N_p = N_p + 1$ ）（ステップST306）、この吐出異常回復処理を終了する。

#### 【0214】

一方、気泡混入でない（乾燥）と判定された場合には、フラッシング処理の回数を示すカウンタのカウント値 $N_f$ が予め設定されている値 $\beta$ （ $\beta$ は自然数）以下（ $N_f \leq \beta$ ）であるか否かを判断し（ステップST307）、 $N_f$ が $\beta$ 以下の場合には、フラッシング処理を実行し、カウンタのカウント値 $N_f$ を1つインクリメントし（ $N_f = N_f + 1$ ）（ステップST308）、この吐出異常回復処理を終了する。

#### 【0215】

このフラッシング処理により吐出異常を解消させることができれば、ポンプ吸引処理を行う場合に比べ、インクの消費量を減少させることができる。

また、 $N_f$ が $\beta$ より大きい場合は、チューブポンプ320によるポンプ吸引処理を実行し、カウンタのカウント値 $N_p$ を1つインクリメントし（ $N_p = N_p + 1$ ）（ステップST309）、この吐出異常回復処理を終了する。

#### 【0216】

このように、 $N_f$ が $\beta$ より大きいとき、すなわち、フラッシング処理を $\beta$ 回行っても吐出異常が解消されない場合、その吐出異常を解消させる回復処理としてポンプ吸引処理が選択（ポンプ吸引処理に変更）され、実行される。

図41に示すように、このステップST106の吐出異常回復処理が終了すると、ステップST102に戻り、再度、ステップST102以降が実行される。

#### 【0217】

すなわち、まず、ステップST102において、吐出異常検出・判定処理を実

行し、吐出異常回復処理が必要か否かを判断し（ステップ S T 1 0 3）、吐出異常回復処理が必要でない場合、すなわち、前記吐出異常回復処理により吐出異常が解消し、インクジェットヘッド 1 0 0 が正常になった場合、または、再検査が必要（未検査ノズル）であり、その再検査の結果、インクジェットヘッド 1 0 0 が正常と判定された場合は、印字が可能な印字スタンバイ状態となり（ステップ S T 1 0 4）、この処理を終了する。

#### 【0218】

一方、吐出異常回復処理が必要である場合には、ポンプ吸引処理の回数を示すカウンタのカウント値  $N_p$  が  $\alpha$  以下 ( $N_p \leq \alpha$ ) であるか否かを判断し、 $N_p$  が  $\alpha$  以下の場合は、前述した吐出異常回復処理を実行し（ステップ S T 1 0 6）、 $N_p$  が  $\alpha$  より大きい場合は、操作パネル 7 の表示部 M に、エラーメッセージを表示し、停止し（ステップ S T 1 0 7）、この処理を終了する。

すなわち、ポンプ吸引処理を  $\alpha$  回行っても吐出異常が解消されない場合、その吐出異常の解消は、困難であるとし、吐出異常回復処理を行わない。そして、表示部 M に、例えば、吐出異常が解消されない旨や、修理を促すようなエラーメッセージを表示する。

#### 【0219】

なお、前記フラッシング処理においては、例えば、下記（１）および（２）の２つの方法が考えられる。

（１）各代表のインクジェットヘッド 1 0 0 を検査し、そのうちの 1 つにでもフラッシング処理が必要なインクジェットヘッド 1 0 0 がある場合、すべてのインクジェットヘッド 1 0 0 に対しフラッシング処理を行う。

（２）すべてのインクジェットヘッド 1 0 0 を検査し、フラッシング処理が必要なインクジェットヘッド 1 0 0 に対してのみフラッシング処理を行う。

#### 【0220】

以上述べたように、このインクジェットプリンタ 1 によれば、電源投入の際の処理において、振動板 1 2 1 の残留振動の周期（振動パターン）に基づいて、吐出異常（ヘッド異常）の有無や、吐出異常の原因を検出（判定）するので、その吐出異常の有無や、吐出異常の原因を確実に検出することができ、吐出異常の原

因に応じた適切（最適）な回復処理を行うことができる。これにより、インクジェットプリンタ 1 を印字可能な正常な状態にすることができるとともに、必要以上のインク消費を防止することができる（排インク量を減少させることができる）。

#### 【0221】

また、振動板 121 の残留振動の周期（振動パターン）に基づいて吐出異常の有無や、吐出異常の原因を検出するので、その検出用に、タイマー等の他の装置を別途設ける必要がない。このため、構造が簡易であり、部品点数が減少し、小型化に有利であり、また、コストを低減することができる。

また、このインクジェットプリンタ 1 では、前記電源投入の際の処理が終了した後（例えば、印字中など）においても、吐出異常の原因を判別することができ、その吐出異常の原因に対応する適切な回復処理（フラッシング処理、ポンプ吸引処理及びワイピング処理のいずれか又は 2 つ）を実行することができるので、従来の液滴吐出装置におけるシーケンシャルな回復処理とは異なり、回復処理を行った際に発生する無駄な排インクを減らすことができ、それによって、インクジェットプリンタ 1 全体のスループットの低下又は悪化を防止することができる。

#### 【0222】

また、従来の吐出異常を検出可能な液滴吐出装置に比べ、他の部品（例えば、光学式のドット抜け検出装置など）を必要としないので、インクジェットヘッド 100（ヘッドユニット 35）、ひいては、インクジェットプリンタ 1 全体のサイズを大きくすることなく吐出異常を検出することができるとともに、吐出異常（ドット抜け）検出を行うことができるインクジェットプリンタ 1 の製造コストを低く抑えることができる。

#### 【0223】

また、インク滴吐出動作後の振動板 121 の残留振動を用いて吐出異常を検出しているので、印字動作の途中でも吐出異常を検出することができる。

なお、本発明では、報知手段は、前記表示部（表示手段）に限らず、この他、報知手段として、例えば、ランプ等の発光部、ブザーや音声等を発する装置等を

用いてもよい。

#### 【0224】

##### <第2実施形態>

次に、本発明におけるインクジェットヘッドの他の構成例について説明する。図44～図47は、それぞれ、インクジェットヘッド（ヘッドユニット）の他の構成例の概略を示す断面図である。以下、これらの図に基づいて説明するが、前述した実施形態と相違する点を中心に説明し、同様の事項についてはその説明を省略する。

#### 【0225】

図44に示すインクジェットヘッド100Aは、圧電素子200の駆動により振動板212が振動し、キャビティ208内のインク（液体）がノズル203から吐出するものである。ノズル（孔）203が形成されたステンレス鋼製のノズルプレート202には、ステンレス鋼製の金属プレート204が接着フィルム205を介して接合されており、さらにその上に同様のステンレス鋼製の金属プレート204が接着フィルム205を介して接合されている。そして、その上には、連通口形成プレート206およびキャビティプレート207が順次接合されている。

#### 【0226】

ノズルプレート202、金属プレート204、接着フィルム205、連通口形成プレート206およびキャビティプレート207は、それぞれ所定の形状（凹部が形成されるような形状）に成形され、これらを重ねることにより、キャビティ208およびリザーバ209が形成される。キャビティ208とリザーバ209とは、インク供給口210を介して連通している。また、リザーバ209は、インク取り入れ口211に連通している。

#### 【0227】

キャビティプレート207の上面開口部には、振動板212が設置され、この振動板212には、下部電極213を介して圧電素子（ピエゾ素子）200が接合されている。また、圧電素子200の下部電極213と反対側には、上部電極214が接合されている。ヘッドドライバ215は、駆動電圧波形を生成する駆



動回路を備え、上部電極 214 と下部電極 213 との間に駆動電圧波形を印加（供給）することにより、圧電素子 200 が振動し、それに接合された振動板 212 が振動する。この振動板 212 の振動によりキャビティ 208 の容積（キャビティ内の圧力）が変化し、キャビティ 208 内に充填されたインク（液体）がノズル 203 より液滴として吐出する。

液滴の吐出によりキャビティ 208 内で減少した液量は、リザーバ 209 からインクが供給されて補給される。また、リザーバ 209 へは、インク取り入れ口 211 からインクが供給される。

#### 【0228】

図 45 に示すインクジェットヘッド 100B も前記と同様に、圧電素子 200 の駆動によりキャビティ 221 内のインク（液体）がノズルから吐出するものである。このインクジェットヘッド 100B は、一对の対向する基板 220 を有し、両基板 220 間に、複数の圧電素子 200 が所定間隔をおいて間欠的に設置されている。

#### 【0229】

隣接する圧電素子 200 同士の間には、キャビティ 221 が形成されている。キャビティ 221 の図 45 中前方にはプレート（図示せず）、後方にはノズルプレート 222 が設置され、ノズルプレート 222 の各キャビティ 221 に対応する位置には、ノズル（孔） 223 が形成されている。

各圧電素子 200 の一方の面および他方の面には、それぞれ、一对の電極 224 が設置されている。すなわち、1つの圧電素子 200 に対し、4つの電極 224 が接合されている。これらの電極 224 のうち所定の電極間に所定の駆動電圧波形を印加することにより、圧電素子 200 がシェアモード変形して振動し（図 45 において矢印で示す）、この振動によりキャビティ 221 の容積（キャビティ内の圧力）が変化し、キャビティ 221 内に充填されたインク（液体）がノズル 223 より液滴として吐出する。すなわち、インクジェットヘッド 100B では、圧電素子 200 自体が振動板として機能する。

#### 【0230】

図 46 に示すインクジェットヘッド 100C も前記と同様に、圧電素子 200

の駆動によりキャビティ 233 内のインク（液体）がノズル 231 から吐出するものである。このインクジェットヘッド 100C は、ノズル 231 が形成されたノズルプレート 230 と、スペーサ 232 と、圧電素子 200 とを備えている。圧電素子 200 は、ノズルプレート 230 に対しスペーサ 232 を介して所定距離離間して設置されており、ノズルプレート 230 と圧電素子 200 とスペーサ 232 とで囲まれる空間にキャビティ 233 が形成されている。

#### 【0231】

圧電素子 200 の図 46 中上面には、複数の電極が接合されている。すなわち、圧電素子 200 のほぼ中央部には、第 1 電極 234 が接合され、その両側部には、それぞれ第 2 の電極 235 が接合されている。第 1 電極 234 と第 2 電極 235 との間に所定の駆動電圧波形を印加することにより、圧電素子 200 がシェアモード変形して振動し（図 46 において矢印で示す）、この振動によりキャビティ 233 の容積（キャビティ内の圧力）が変化し、キャビティ 233 内に充填されたインク（液体）がノズル 231 より液滴として吐出する。すなわち、インクジェットヘッド 100C では、圧電素子 200 自体が振動板として機能する。

#### 【0232】

図 47 に示すインクジェットヘッド 100D も前記と同様に、圧電素子 200 の駆動によりキャビティ 245 内のインク（液体）がノズル 241 から吐出するものである。このインクジェットヘッド 100D は、ノズル 241 が形成されたノズルプレート 240 と、キャビティプレート 242 と、振動板 243 と、複数の圧電素子 200 を積層してなる積層圧電素子 201 とを備えている。

#### 【0233】

キャビティプレート 242 は、所定の形状（凹部が形成されるような形状）に成形され、これにより、キャビティ 245 およびリザーバ 246 が形成される。キャビティ 245 とリザーバ 246 とは、インク供給口 247 を介して連通している。また、リザーバ 246 は、インク供給チューブ 311 を介してインクカートリッジ 31 と連通している。

#### 【0234】

積層圧電素子 201 の図 47 中下端は、中間層 244 を介して振動板 243 と

接合されている。積層圧電素子 201 には、複数の外部電極 248 および内部電極 249 が接合されている。すなわち、積層圧電素子 201 の外表面には、外部電極 248 が接合され、積層圧電素子 201 を構成する各圧電素子 200 同士の間（または各圧電素子の内部）には、内部電極 249 が設置されている。この場合、外部電極 248 と内部電極 249 の一部が、交互に、圧電素子 200 の厚さ方向に重なるように配置される。

#### 【0235】

そして、外部電極 248 と内部電極 249 との間にヘッドドライバ 33 より駆動電圧波形を印加することにより、積層圧電素子 201 が図 48 中の矢印で示すように変形して（図 47 中上下方向に伸縮して）振動し、この振動により振動板 243 が振動する。この振動板 243 の振動によりキャビティ 245 の容積（キャビティ内の圧力）が変化し、キャビティ 245 内に充填されたインク（液体）がノズル 241 より液滴として吐出する。

#### 【0236】

液滴の吐出によりキャビティ 245 内で減少した液量は、リザーバ 246 からインクが供給されて補給される。また、リザーバ 246 へは、インクカートリッジ 31 からインク供給チューブ 311 を介してインクが供給される。

#### 【0237】

以上のような圧電素子を備えるインクジェットヘッド 100A～100Dにおいても、前述した静電容量方式のインクジェットヘッド 100 と同様にして、振動板または振動板として機能する圧電素子の残留振動に基づき、液滴吐出の異常を検出しあるいはその異常の原因を特定することができる。なお、インクジェットヘッド 100B および 100C においては、キャビティに面した位置にセンサとしての振動板（残留振動検出用の振動板）を設け、この振動板の残留振動を検出するような構成とすることもできる。

#### 【0238】

##### <第3実施形態>

次に、本発明におけるインクジェットヘッドの他の構成例について説明する。図 48 は、ヘッドユニット 100H の構成を示す斜視図、図 49 は、図 48 に示

すヘッドユニット 100H の 1 色のインク（1 つのキャビティ）に対応する概略的な断面図である。以下、これらの図に基づいて説明するが、前述した第 1 実施形態と相違する点を中心に説明し、同様の事項についてはその説明を省略する。

### 【0239】

これらの図に示すヘッドユニット 100H は、いわゆる膜沸騰インクジェット方式（サーマルジェット方式）によるもので、支持板 410 と、基板 420 と、外壁 430 および隔壁 431 と、天板 440 とが、図 48 および図 49 中下側からこの順に接合された構成のものである。

基板 420 と天板 440 とは、外壁 430 および等間隔で平行に配置された複数（図示の例では 6 枚）の隔壁 431 を介して所定の間隔をおいて設置されている。そして、基板 420 と天板 440 との間には、隔壁 431 によって区画された複数（図示の例では 5 個）のキャビティ（圧力室：インク室）432 が形成されている。各キャビティ 432 は、短冊状（直方体状）をなしている。

また、図 48 および図 49 に示すように、各キャビティ 432 の図 49 中左側端部（図 48 中上端）は、ノズルプレート（前板）433 により覆われている。このノズルプレート 433 には、各キャビティ 432 に連通するノズル（孔）434 が形成されており、このノズル 434 からインク（液状材料）が吐出する。

### 【0240】

図 48 では、ノズルプレート 433 に対しノズル 434 が直線的に、すなわち列状に配置されているが、ノズルの配置パターンはこれに限定されないことは言うまでもない。列状に配置されたこのノズル 434 のピッチは、印刷精度（dpi）等に応じて適宜設定することができる。

なお、ノズルプレート 433 を設けず、各キャビティ 432 の図 48 中上端（図 49 中左端）が開放しており、この開放した開口がノズルとなるような構成のものでもよい。

### 【0241】

また、天板 440 には、インク取り入れ口 441 が形成され、該インク取り入れ口には、インク供給チューブ 311 を介して、インクカートリッジ 31 に接続されている。なお、図示されていないが、インク取り入れ口 441 とインクカー

トリッジ 31 との間に、ダンパ室（ゴムからなるダンパを備え、その変形により室内の容積が変化する）を設けることもできる。これにより、キャリッジ 32 が往復走行する際のインクの揺れやインク圧の変化をダンパ室が吸収し、ヘッドユニット 100H に所定量のインクを安定的に供給することができる。

#### 【0242】

支持板 410、外壁 430、隔壁 431、天板 440 およびノズルプレート 433 は、それぞれ、例えばステンレス鋼等の各種金属材料や各種樹脂材料、各種セラミックス等で構成されている。また、基板 420 は、例えば、シリコン等で構成されている。

基板 420 の各キャビティ 432 に対応する箇所には、それぞれ、発熱体 450 が設置（埋設）されている。各発熱体 450 は、ヘッドドライバ（通電手段）452 により、それぞれ別個に通電され、発熱する。ヘッドドライバ 452 は、制御部 6 から入力される印字信号（印字データ）に応じ、発熱体 450 の駆動信号として例えばパルス状の信号を出力する。

#### 【0243】

また、発熱体 450 のキャビティ 432 側の面は、保護膜（耐キャビテーション膜）451 で覆われてる。この保護膜 451 は、発熱体 450 がキャビティ 432 内のインクと直接接触するのを防止するために設けられたものである。この保護膜 451 を設けることにより、発熱体 450 がインクと接触することによる変質、劣化等を防止することができる。

#### 【0244】

基板 420 の各発熱体 450 の近傍であって、各キャビティ 432 に対応する箇所には、それぞれ、凹部 460 が形成されている。この凹部 460 は、例えばエッチング、打ち抜き等の方法により形成することができる。

凹部 460 のキャビティ 432 側を遮蔽するように振動板 461 が設置されている。この振動板 461 は、キャビティ 432 内の圧力（液圧）の変化に追従して図 49 中の上下方向に弾性変形（弾性変位）する。

振動板 461 の構成材料や厚さは、特に限定されず、適宜設定される。

#### 【0245】

一方、凹部 460 の他方の側は、支持板 410 により覆われており、該支持板 410 の図 49 中上面の各振動板 461 に対応する箇所には、それぞれ、セグメント電極 462 が設置されている。

振動板 461 とセグメント電極 462 とは、所定の間隙距離をおいてほぼ平行に配置されている。振動板 461 とセグメント電極 462 との間の間隙距離（ギャップ長  $g$ ）は、特に限定されず、適宜設定される。わずかな間隔距離を隔てて振動板 461 とセグメント電極 462 とを配置することにより、平行平板コンデンサを形成することができる。そして、前述したように、振動板 461 がキャビティ 432 内の圧力に追従して図 49 中の上下方向に弾性変形すると、それに応じて振動板 461 とセグメント電極 462 との間隙距離が変化し、前記平行平板コンデンサの静電容量  $C$  が変化する。この静電容量  $C$  の変化は、振動板 461 とセグメント電極 462 とにそれぞれ導通する共通電極 470 と外部セグメント電極 471 との電圧差の変化として現れるので、前述したように、これを検出することにより、振動板 461 の残留振動（減衰振動）を知ることができる。

#### 【0246】

基板 420 のキャビティ 432 外には、共通電極 470 が形成されている。また、支持板 410 のキャビティ 432 外には、外部セグメント電極 471 が形成されている。

セグメント電極 462、共通電極 470 および外部セグメント電極 471 の構成材料としては、例えば、ステンレス鋼、アルミニウム、金、銅、またはこれらを含む合金等が挙げられる。また、セグメント電極 462、共通電極 470 および外部セグメント電極 471 は、それぞれ、例えば金属箔の接合、メッキ、蒸着、スパッタリング等の方法により形成することができる。

#### 【0247】

各振動板 461 と共通電極 470 とは、導体 475 により電氣的に接続され、各セグメント電極 462 と各外部セグメント電極 471 とは、導体 476 により電氣的に接続されている。

導体 475、476 としては、それぞれ、①金属線等の導線を配設したもの、②基板 420 または支持板 410 の表面に例えば金、銅等の導電性材料よりなる

薄膜を形成したもの、あるいは、③基板 4 2 0 等の導体形成部位にイオンドーピング等を施して導電性を付与したもの等が挙げられる。

#### 【 0 2 4 8 】

以上のようなヘッドユニット 1 0 0 H は、図 4 9 中の上下方向に複数重ねて（他段に）配置することができる。図 5 0 では、4 色のインク（インクカートリッジ 3 1）を適用した場合におけるノズル 4 3 4 の配置の例を示すが、この場合、複数のヘッドユニット 1 0 0 H を例えば主走査方向に重ねて配置し、それらの前面に 1 枚のノズルプレート 4 3 3 を接合した構成とすることができる。

ノズルプレート 4 3 3 上におけるノズル 4 3 4 の配置パターンは、特に限定されないが、図 5 0 に示すように、隣り合うノズル列において、ノズル 4 3 4 が半ピッチずれたように配置することができる。

#### 【 0 2 4 9 】

次に、ヘッドユニット 1 0 0 H の作用（作動原理）について説明する。

ヘッドドライバ 3 3 から駆動信号（パルス信号）が出力されて発熱体 4 5 0 に通電されると、発熱体 4 5 0 は、瞬時に 3 0 0 ℃ 以上の温度に発熱する。これにより、保護膜 4 5 1 上に膜沸騰による気泡（後述する不吐出の原因となるキャビティ内に混入、発生する気泡とは異なる） 4 8 0 が発生し、該気泡 4 8 0 は瞬時に膨張する。これにより、キャビティ 4 3 2 内に満たされたインク（液状材料）の液圧が増大し、インクの一部がノズル 4 3 4 から液滴として吐出される。

#### 【 0 2 5 0 】

インクの液滴が吐出された直後、気泡 4 8 0 は急激に収縮し、元の状態に戻る。このときのキャビティ 4 3 2 内の圧力変化により振動板 4 6 1 が弾性変形して、次の駆動信号が入力され再びインク滴が吐出されるまでの間、減衰振動（残留振動）を生じる。

振動板 4 6 1 が減衰振動を生じると、それに応じて、振動板 4 6 1 と、これと対向するセグメント電極 4 6 2 との間の静電容量が変化する。この静電容量の変化は、共通電極 4 7 0 と外部セグメント電極 4 7 1 との電圧差の変化として現れるが、これを読み取ることにより、インク滴の不吐出またはその原因を検出、特定することができる。すなわち、ノズル 4 3 4 からインク滴が正常に吐出された

ときの共通電極 470 と外部セグメント電極 471 との電圧差の変化（静電容量の変化）の様子（パターン）と比較することにより、インク滴が正常に吐出されたか否かを判定することができ、また、インク滴の不吐出の原因毎の様子（パターン）とそれぞれ比較し、特定することにより、インク滴の不吐出の原因を判定することができる。

インク滴の吐出によりキャビティ 432 内で減少した液量は、インク取り入れ口 441 から新たなインクがキャビティ 432 内に供給されて補給される。このインクは、インクカートリッジ 31 からインク供給チューブ 311 内を通して供給される。

#### 【0251】

以上、本発明の液滴吐出装置を図示の各実施形態に基づいて説明したが、本発明は、これに限定されるものではなく、液滴吐出ヘッドあるいは液滴吐出装置を構成する各部は、同様の機能を発揮し得る任意の構成のものと置換することができる。また、本発明の液滴吐出装置に、他の任意の構成物が付加されていてもよい。

#### 【0252】

なお、本発明の液滴吐出装置の液滴吐出ヘッド（上述の実施形態では、インクジェットヘッド 100）から吐出する吐出対象液（液滴）としては、特に限定されず、例えば以下のような各種の材料を含む液体（サスペンション、エマルション等の分散液を含む）とすることができる。すなわち、カラーフィルタのフィルタ材料を含むインク、有機 EL（Electro Luminescence）装置における EL 発光層を形成するための発光材料、電子放出装置における電極上に蛍光体を形成するための蛍光材料、PDP（Plasma Display Panel）装置における蛍光体を形成するための蛍光材料、電気泳動表示装置における泳動体を形成する泳動体材料、基板 W の表面にバンクを形成するためのバンク材料、各種コーティング材料、電極を形成するための液状電極材料、2 枚の基板間に微小なセルギャップを構成するためのスペーサを構成する粒子材料、金属配線を形成するための液状金属材料、マイクロレンズを形成するためのレンズ材料、レジスト材料、光拡散体を形成するための光拡散材料などである。



また、本発明は、振動板を有する複数の液滴吐出ヘッドを備える、あらゆる方式（形態）の液滴吐出装置に適用することができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】 本発明の液滴吐出装置の一種であるインクジェットプリンタの構成を示す概略図である。

【図 2】 本発明のインクジェットプリンタの主要部を概略的に示すブロック図である。

【図 3】 図 1 に示すヘッドユニット（インクジェットヘッド）の概略的な断面図である。

【図 4】 図 3 のヘッドユニットの構成を示す分解斜視図である。

【図 5】 4 色インクを用いるヘッドユニットのノズルプレートのノズル配置パターンの一例である。

【図 6】 図 3 の III-III 断面の駆動信号入力時の各状態を示す状態図である。

【図 7】 図 3 の振動板の残留振動を想定した単振動の計算モデルを示す回路図である。

【図 8】 図 3 の振動板の残留振動の実験値と計算値との関係を示すグラフである。

【図 9】 図 3 のキャビティ内に気泡が混入した場合のノズル付近の概念図である。

【図 10】 キャビティへの気泡混入によりインク滴が吐出しなくなった状態における残留振動の計算値及び実験値を示すグラフである。

【図 11】 図 3 のノズル付近のインクが乾燥により固着した場合のノズル付近の概念図である。

【図 12】 ノズル付近のインクの乾燥増粘状態における残留振動の計算値及び実験値を示すグラフである。

【図 13】 図 3 のノズル出口付近に紙粉が付着した場合のノズル付近の概念図である。

【図 14】 ノズル出口に紙粉が付着した状態における残留振動の計算値及

び実験値を示すグラフである。

【図 1 5】 ノズル付近に紙粉が付着した前後におけるノズルの状態を示す写真である。

【図 1 6】 図 3 に示す吐出異常検出手段の概略的なブロック図である。

【図 1 7】 図 3 の静電アクチュエータを平行平板コンデンサとした場合の概念図である。

【図 1 8】 図 3 の静電アクチュエータから構成されるコンデンサを含む発振回路の回路図である。

【図 1 9】 図 1 6 に示す吐出異常検出手段の F/V 変換回路の回路図である。

【図 2 0】 発振回路から出力する発振周波数に基づく各部の出力信号などのタイミングを示すタイミングチャートである。

【図 2 1】 固定時間  $t_r$  及び  $t_l$  の設定方法を説明するための図である。

【図 2 2】 図 1 6 の波形整形回路の回路構成を示す回路図である。

【図 2 3】 駆動回路と検出回路との切替手段の概略を示すブロック図である。

【図 2 4】 吐出異常検出・判定処理を示すフローチャートである。

【図 2 5】 残留振動検出処理を示すフローチャートである。

【図 2 6】 吐出異常判定処理を示すフローチャートである。

【図 2 7】 複数のインクジェットヘッドの吐出異常検出のタイミングの一例（吐出異常検出手段が 1 つの場合）である。

【図 2 8】 複数のインクジェットヘッドの吐出異常検出のタイミングの一例（吐出異常検出手段の数がインクジェットヘッドの数と同じ場合）である。

【図 2 9】 複数のインクジェットヘッドの吐出異常検出のタイミングの一例（吐出異常検出手段の数がインクジェットヘッドの数と同じであり、印字データがあるときに吐出異常検出を行う場合）である。

【図 3 0】 複数のインクジェットヘッドの吐出異常検出のタイミングの一例（吐出異常検出手段の数がインクジェットヘッドの数と同じであり、各インクジェットヘッドを巡回して吐出異常検出を行う場合）である。

【図 3 1】 図 2 7 に示すインクジェットプリンタのフラッシング動作時における吐出異常検出のタイミングを示すフローチャートである。

【図 3 2】 図 2 8 及び図 2 9 に示すインクジェットプリンタのフラッシング動作時における吐出異常検出のタイミングを示すフローチャートである。

【図 3 3】 図 3 0 に示すインクジェットプリンタのフラッシング動作時における吐出異常検出のタイミングを示すフローチャートである。

【図 3 4】 図 2 8 及び図 2 9 に示すインクジェットプリンタの印字動作時における吐出異常検出のタイミングを示すフローチャートである。

【図 3 5】 図 3 0 に示すインクジェットプリンタの印字動作時における吐出異常検出のタイミングを示すフローチャートである。

【図 3 6】 図 1 に示すインクジェットプリンタの上部から見た概略的な構造（一部省略）を示す図である。

【図 3 7】 図 3 6 に示すワイパとヘッドユニットとの位置関係を示す図である。

【図 3 8】 ポンプ吸引処理時における、ヘッドユニットと、キャップ及びポンプとの関係を示す図である。

【図 3 9】 図 3 8 に示すチューブポンプの構成を示す概略図である。

【図 4 0】 本発明のインクジェットプリンタにおける吐出異常回復処理を示すフローチャートである。

【図 4 1】 本発明のインクジェットプリンタにおける電源投入時の処理を示すフローチャートである。

【図 4 2】 本発明のインクジェットプリンタにおける吐出異常判定処理を示すフローチャートである。

【図 4 3】 本発明のインクジェットプリンタにおける吐出異常回復処理を示すフローチャートである。

【図 4 4】 本発明におけるインクジェットヘッドの他の構成例の概略を示す断面図である。

【図 4 5】 本発明におけるインクジェットヘッドの他の構成例の概略を示す断面図である。

【図 4 6】 本発明におけるインクジェットヘッドの他の構成例の概略を示す断面図である。

【図 4 7】 本発明におけるインクジェットヘッドの他の構成例の概略を示す断面図である。

【図 4 8】 本発明におけるヘッドユニットの他の構成例を示す斜視図である。

【図 4 9】 図 4 8 に示すヘッドユニットの概略的な断面図である。

【図 5 0】 4 色インクを用いるヘッドユニットのノズルプレートにおけるノズルの配置パターンの一例を示す平面図である。

#### 【符号の説明】

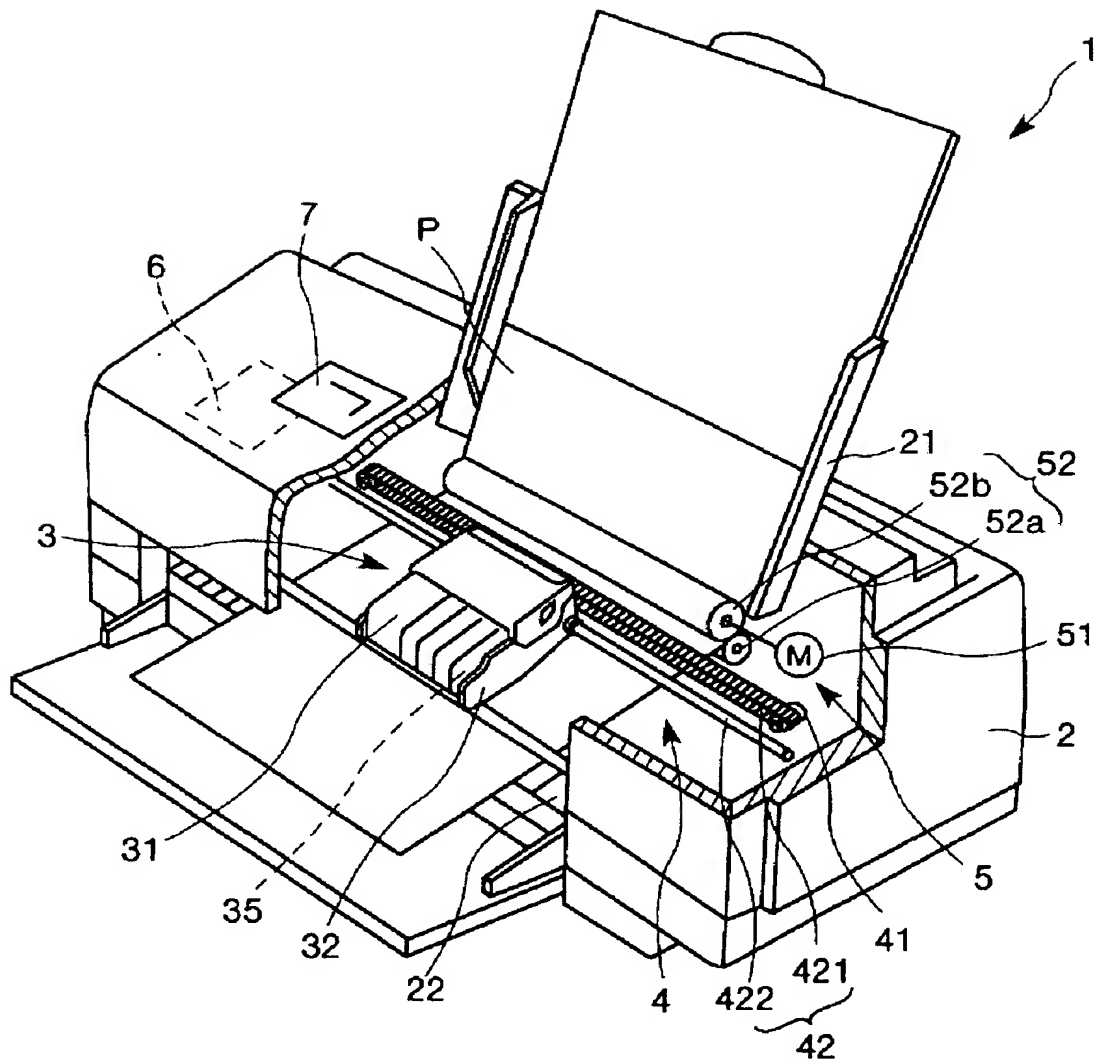
1……インクジェットプリンタ 2……装置本体 21……トレイ 22……排紙口 3……印字手段 31……インクカートリッジ 311……インク供給チューブ 32……キャリッジ 33……ヘッドドライバ 34……連結部 35……ヘッドユニット 4……印刷装置 41……キャリッジモータ 42……往復動機構 421……タイミングベルト 422……キャリッジガイド軸 43……キャリッジモータドライバ 44……プーリ 5……給紙装置 51……給紙モータ 52……給紙ローラ 52a……従動ローラ 52b……駆動ローラ 53……給紙モータドライバ 6……制御部 61……CPU 62……EEPROM (記憶手段) 63……RAM 64……PROM 7……操作パネル 8……ホストコンピュータ 9……IF 10、10a～10e……吐出異常検出手段 11……発振回路 111……シュミットトリガインバータ 112……抵抗素子 12……F/V変換回路 13……定電流源 14……バッファ 15……波形整形回路 151……増幅器 (オペアンプ) 152……比較器 (コンパレータ) 16……残留振動検出手段 17……計測手段 18……駆動回路 181……駆動波形生成手段 182……吐出選択手段 182a……シフトレジスタ 182b……ラッチ回路 182c……ドライバ 19……切替制御手段 19a……切替選択手段 191……セクタ 20……判定手段 23、23a～23e……切替手段 24……回復手段 100、100A～100D、100a～100e……インクジェットヘッド、100H……ヘッ

ドユニット 110……ノズル 120……静電アクチュエータ 121……振  
動板(底壁) 122……セグメント電極 123……絶縁層 124……共通  
電極 124a……入力端子 130……ダンパ室 131……インク取入れ口  
132……ダンパ 140……シリコン基板 141……キャビティ 142  
……インク供給口 143……リザーバ 144……側壁 150……ノズルプ  
レート 160……ガラス基板 161……凹部 162……対向壁 170…  
…基体 200……圧電素子 201……積層圧電素子 202、222、23  
0、240……ノズルプレート 203、223、231、241……ノズル  
204……金属プレート 205……接着フィルム 206……連通口形成プレ  
ート 207、242……キャビティプレート 208、221、233、24  
5……キャビティ 209、246……リザーバ 210、247……インク供  
給口 211……インク取り入れ口 212、243……振動板 213……下  
部電極 214……上部電極 215……ヘッドドライバ 220……基板 2  
24……電極 232……スペーサ 234……第1電極 235……第2電極  
244……中間層 248……外部電極 249……内部電極 300……ワ  
イパ 301……ワイピング部材 310……キャップ 320……チューブポ  
ンプ(回転式ポンプ) 321……(可撓性)チューブ 322……回転体 3  
22a……軸 323……ローラ 330……インク吸収体 340……排イン  
クカートリッジ 350……ガイド部材 351……ガイド 410……支持板  
420……基板 430……外壁 431……隔壁 432……キャビティ  
433……ノズルプレート(前板) 434……ノズル 440……天板 44  
1……インク取入れ口 450……発熱体 451……保護膜(キャビテーシ  
ョン膜) 452……ヘッドドライバ 460……凹部 461……振動板 4  
62……セグメント電極 470……共通電極 471……外部セグメント電極  
475……導体 476……導体 480……気泡 P……記録用紙 S10  
1~S109、S201~S205、S301~S310、S401~S407  
、S501~S505、S601~S608、S701~S706、S801~  
S810、S901~S907、ST101~ST107、ST201~ST2  
10、ST301~ST309……ステップ、M……表示部

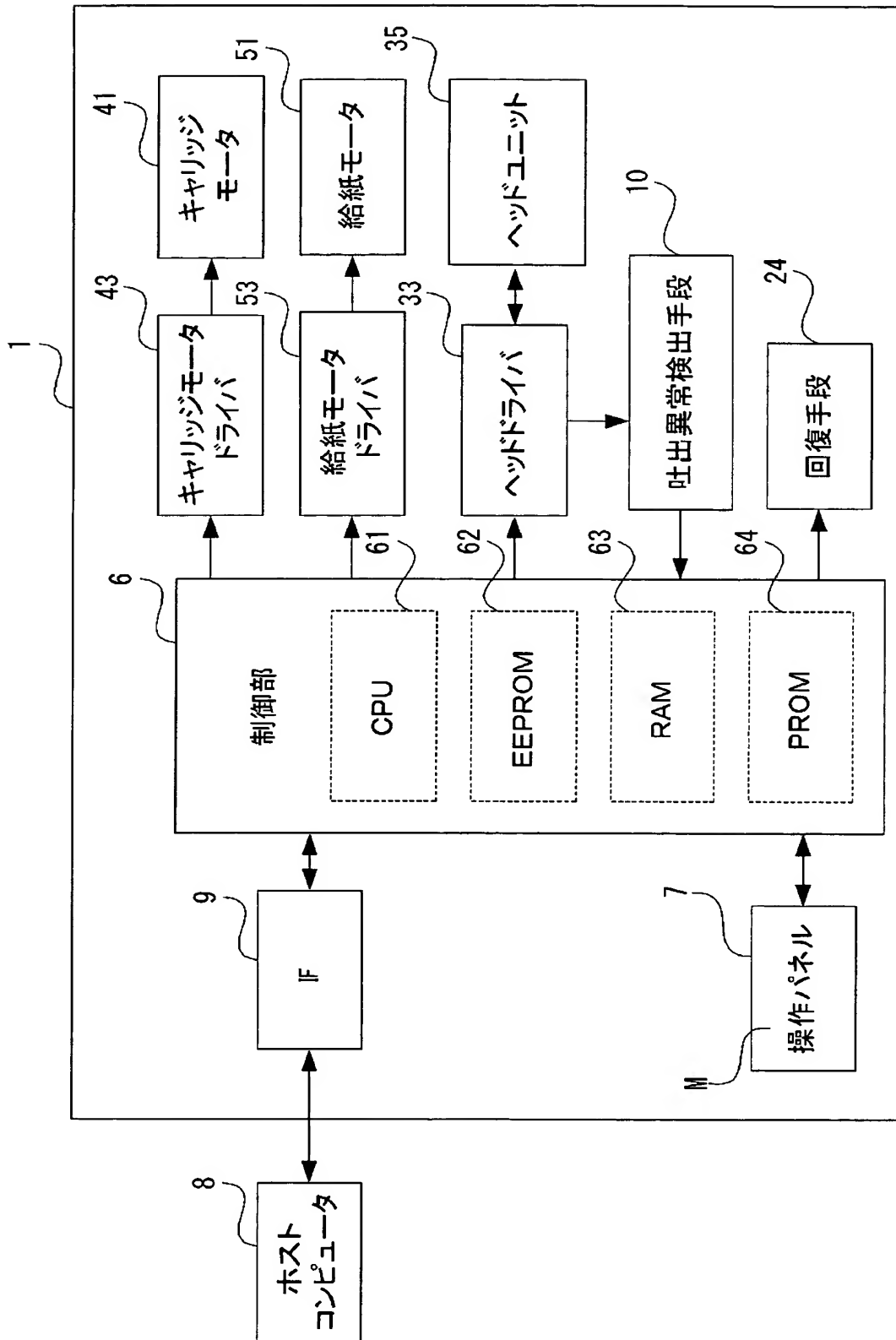
【書類名】

図面

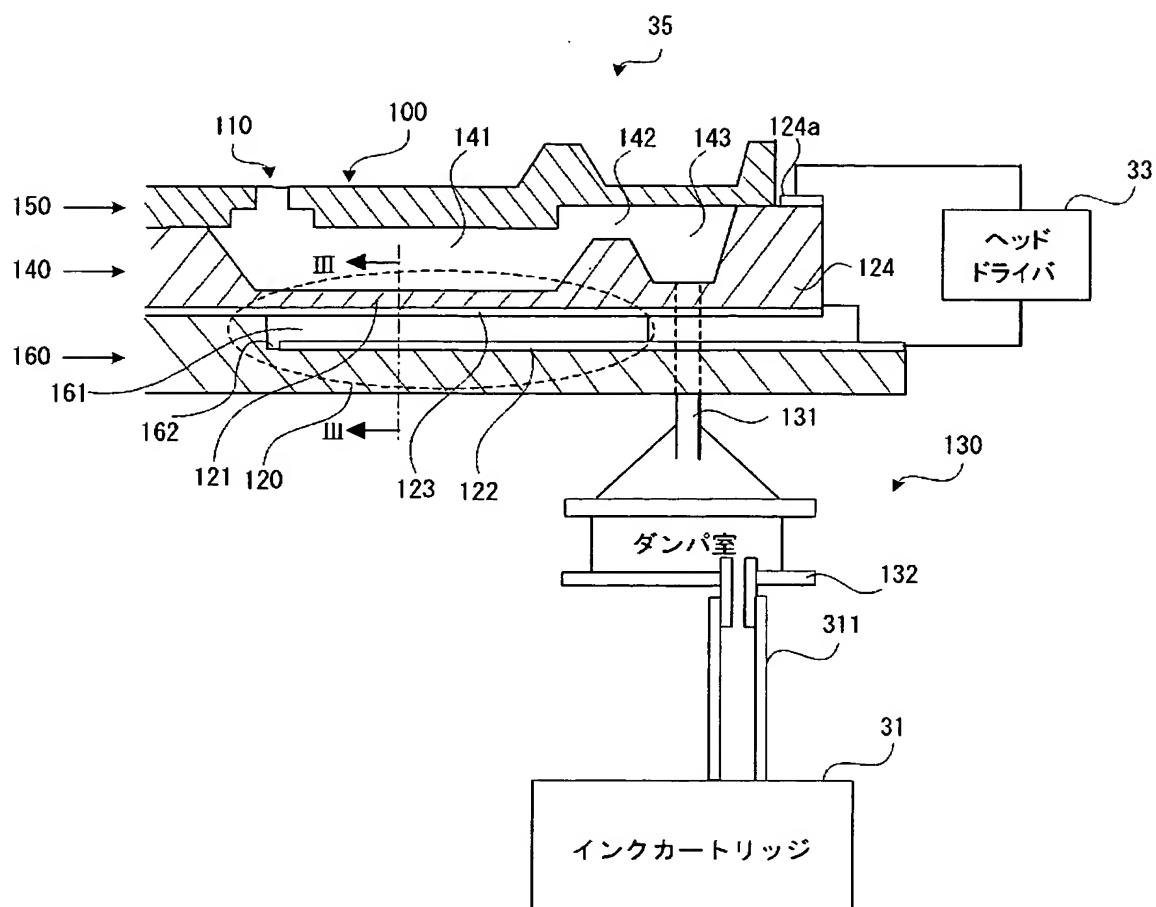
【図 1】



【図 2】

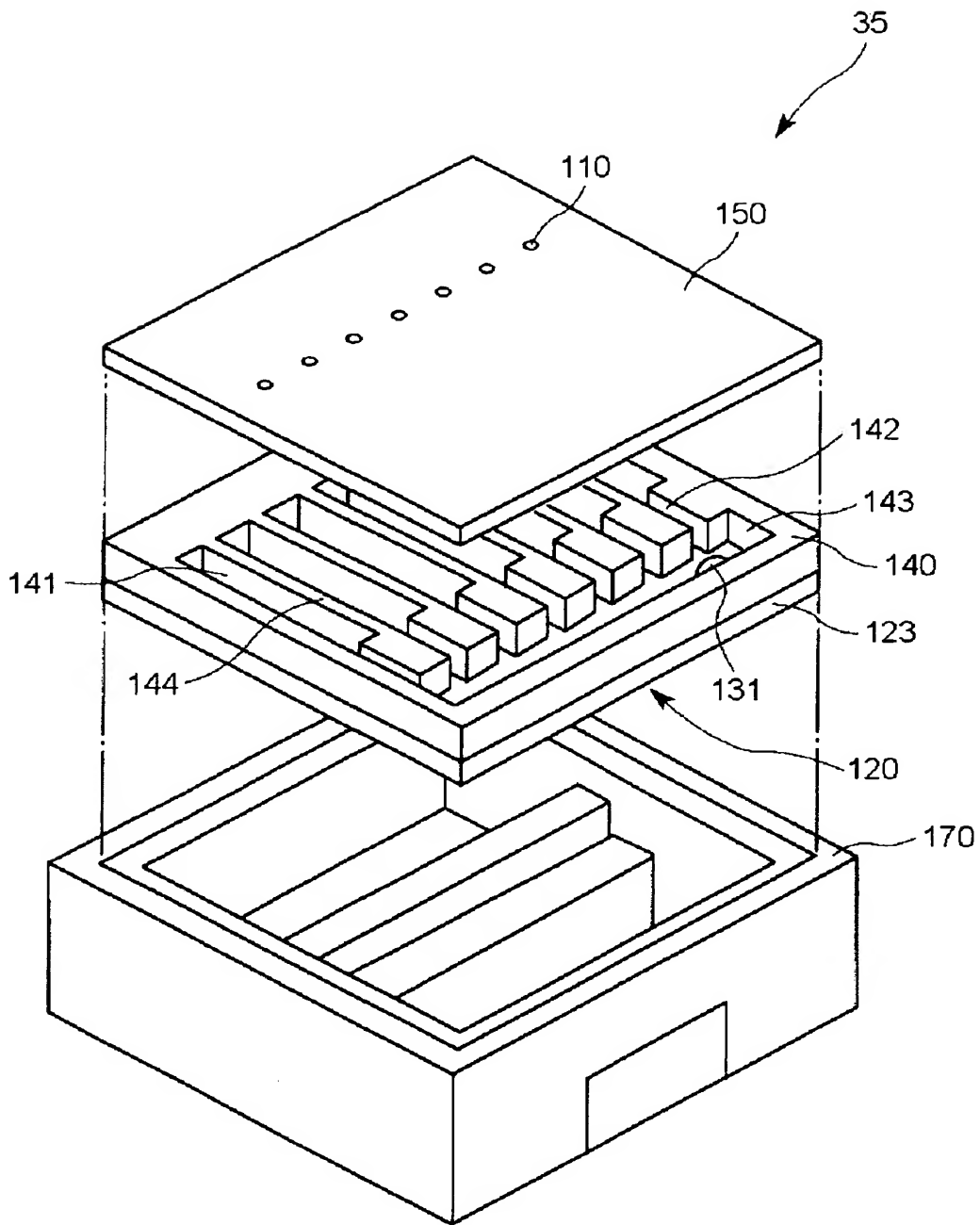


【図 3】



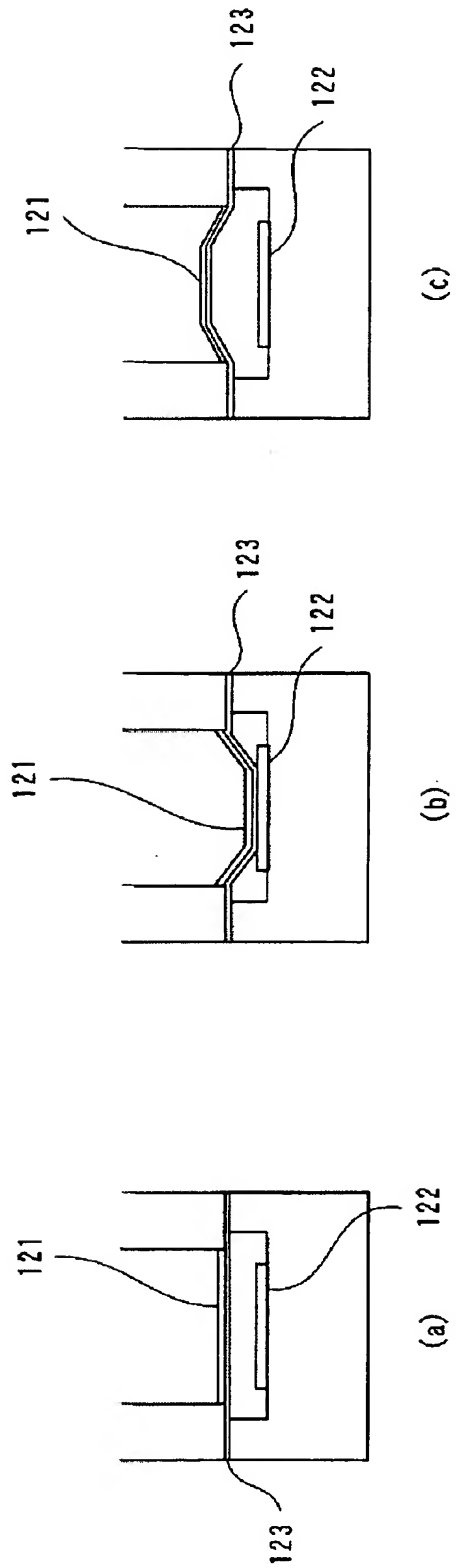


【図 4】

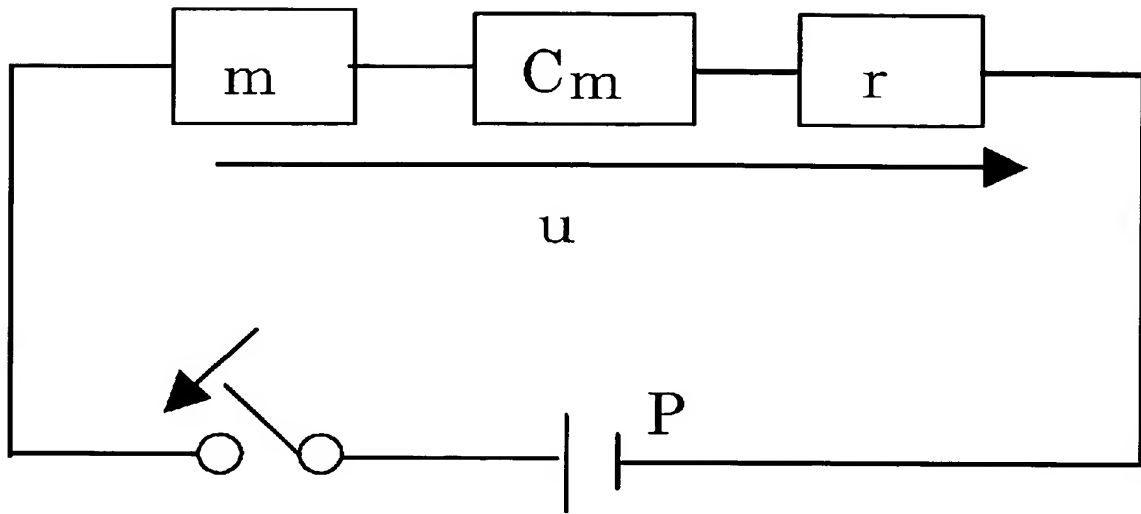




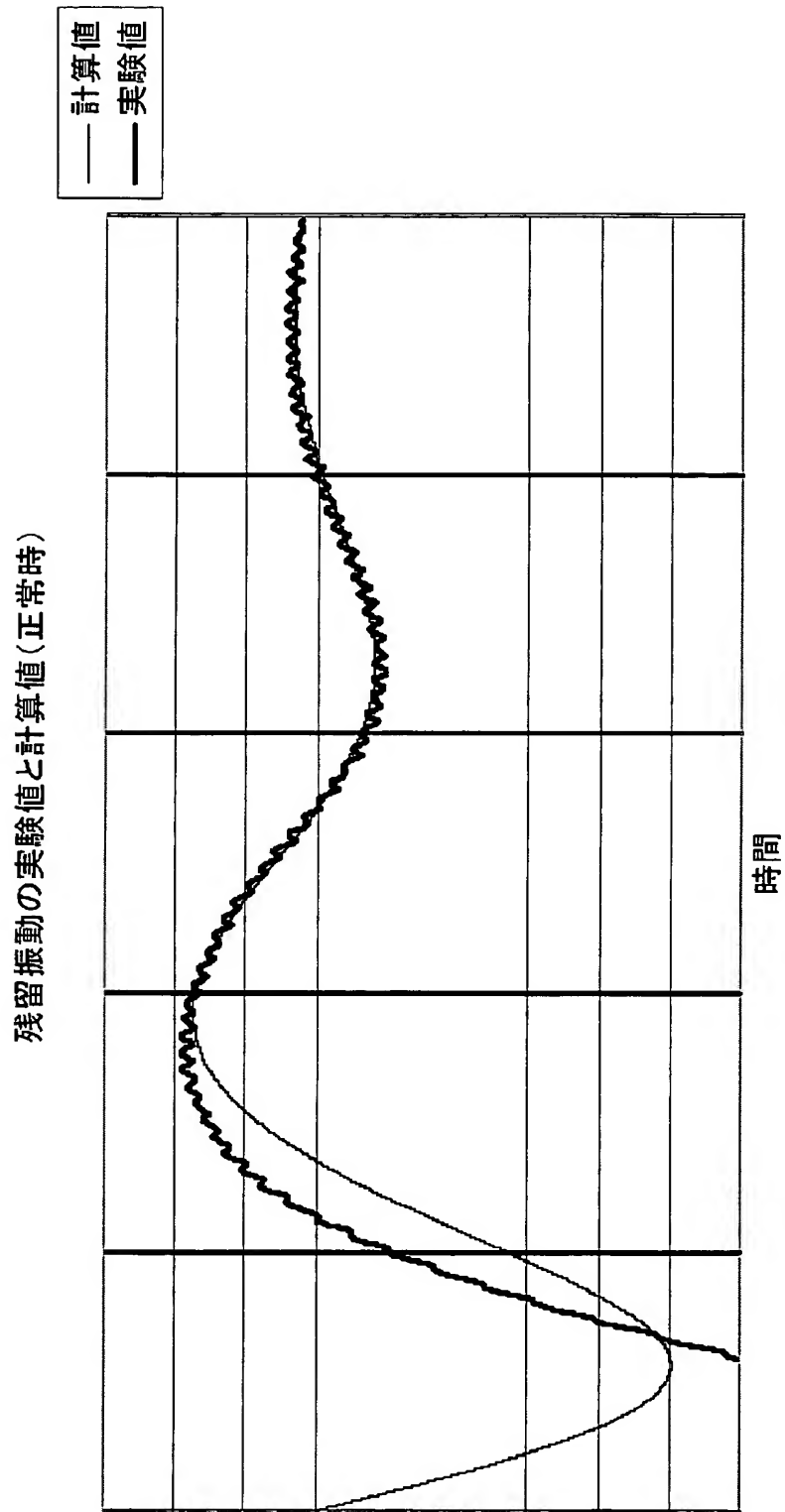
【図 6】



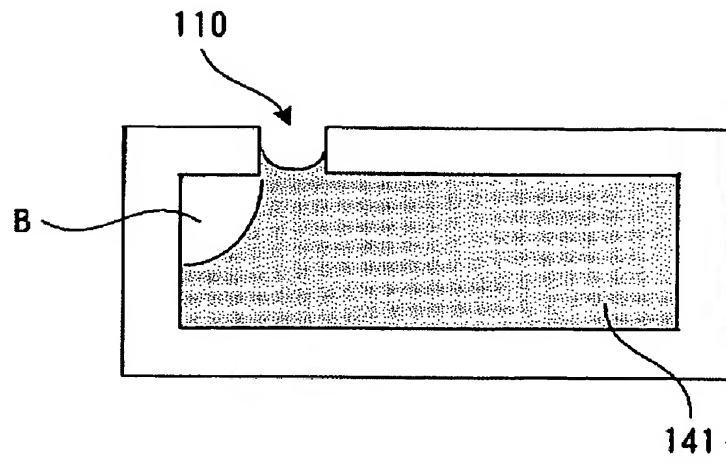
【図 7】



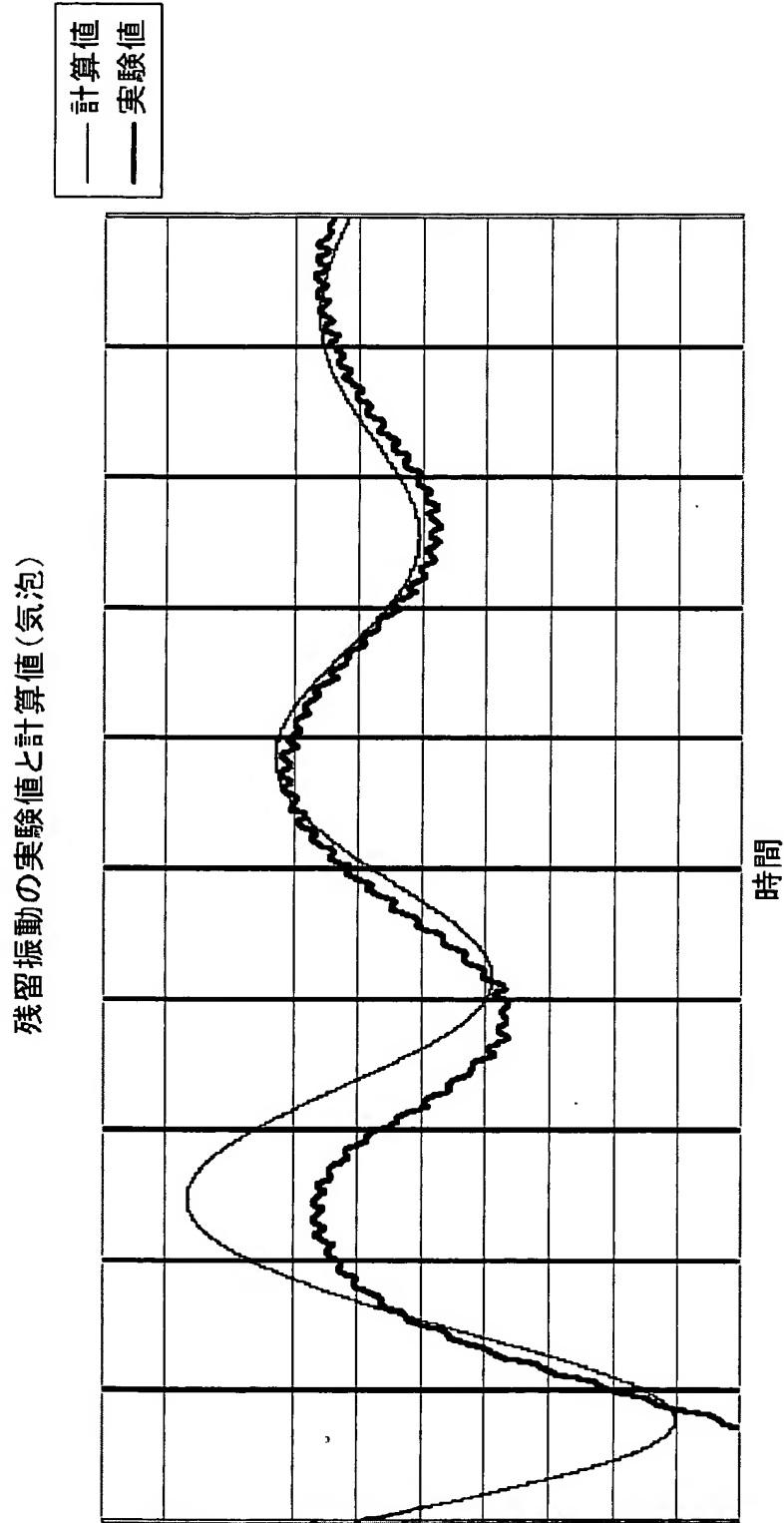
【図 8】



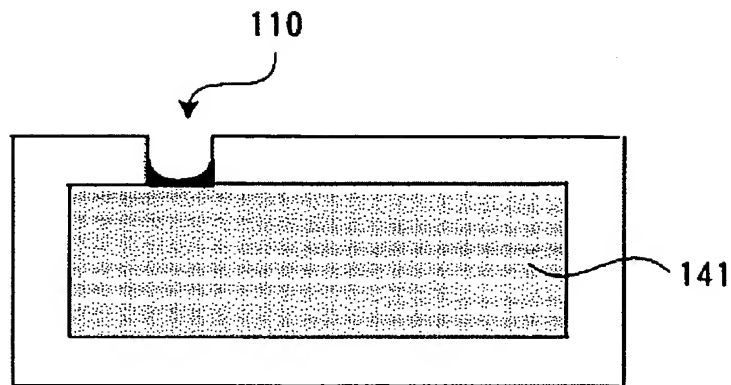
【図 9】



【図 10】

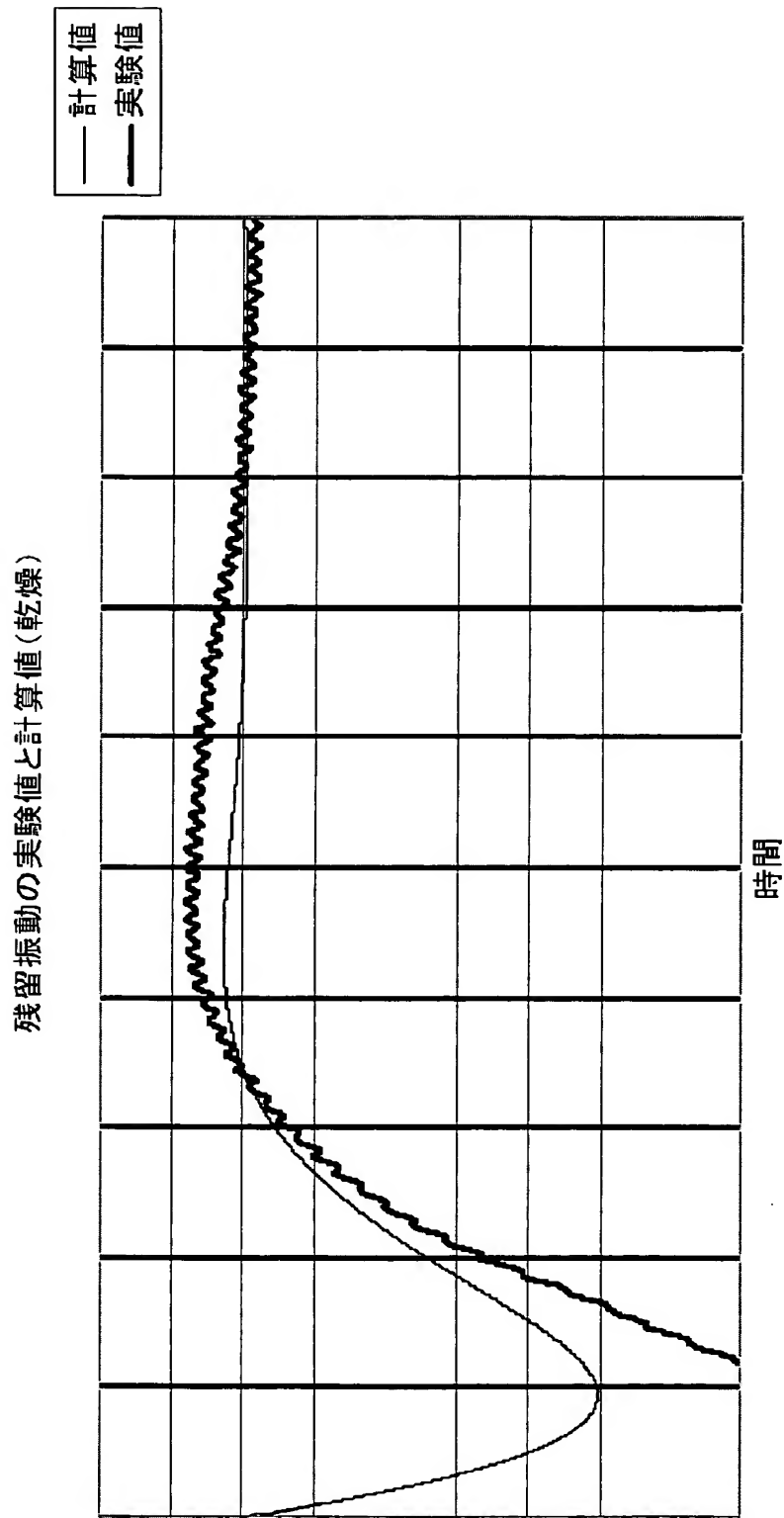


【図 11】

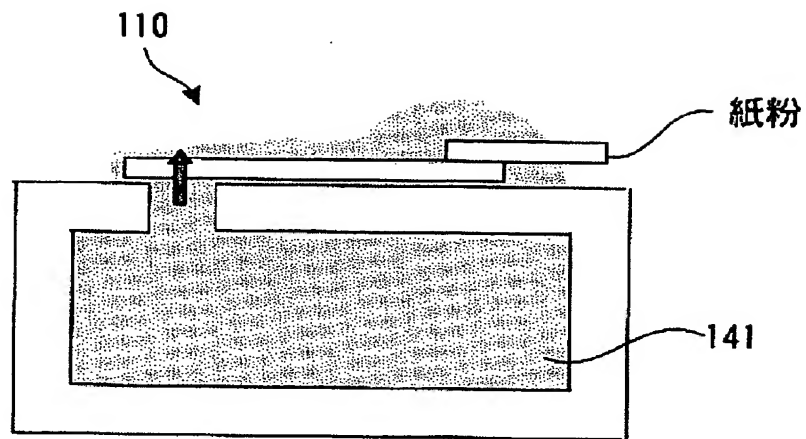




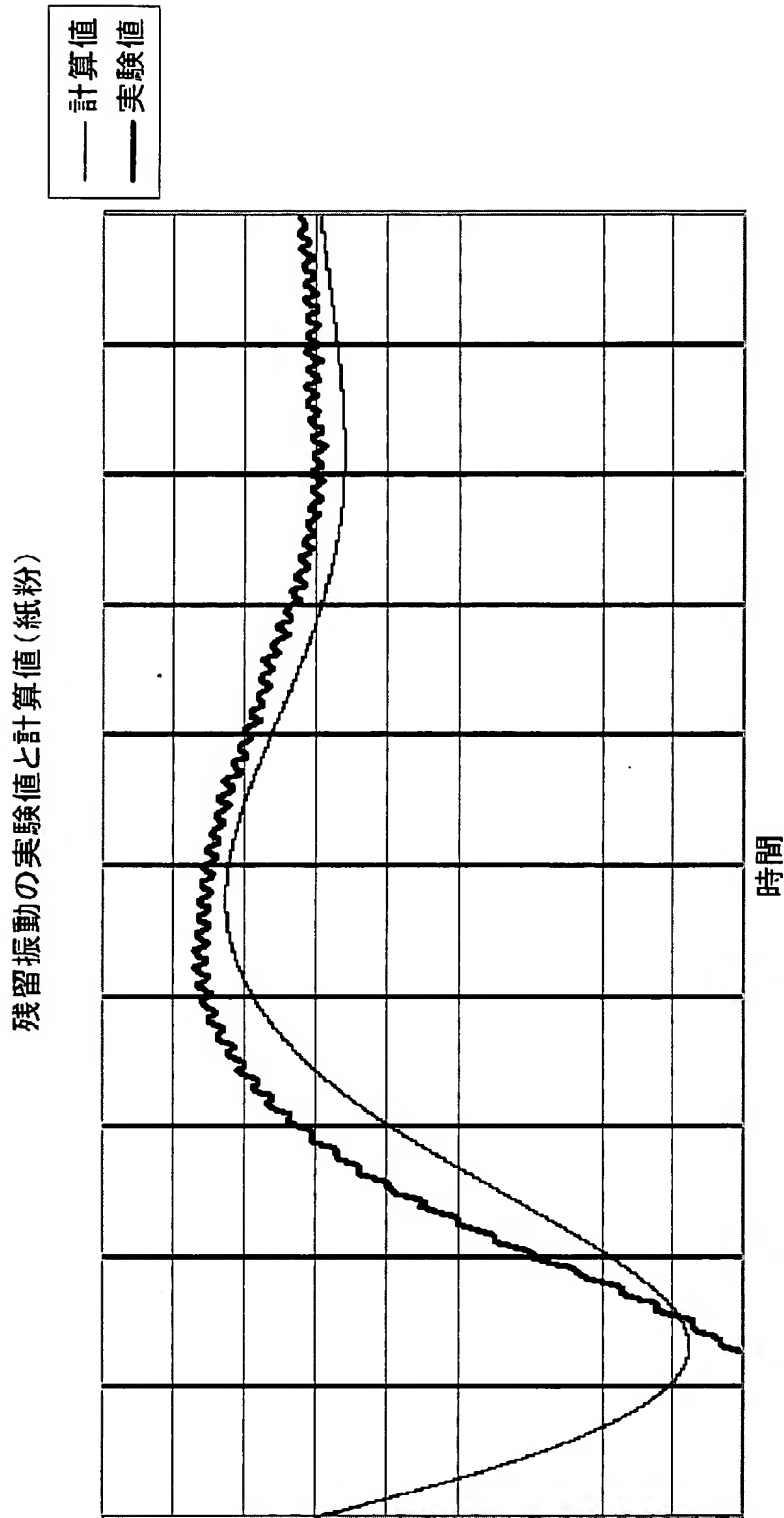
【図 12】



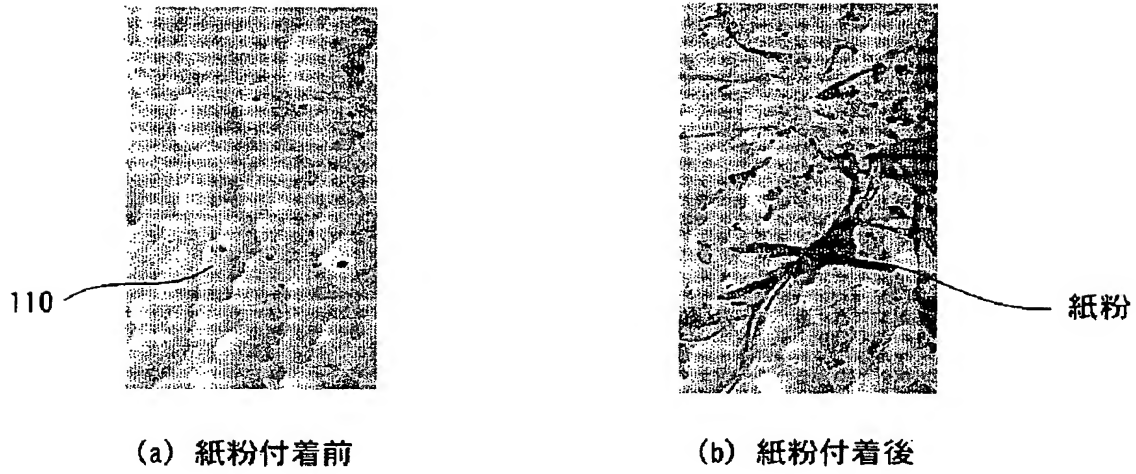
【図 13】



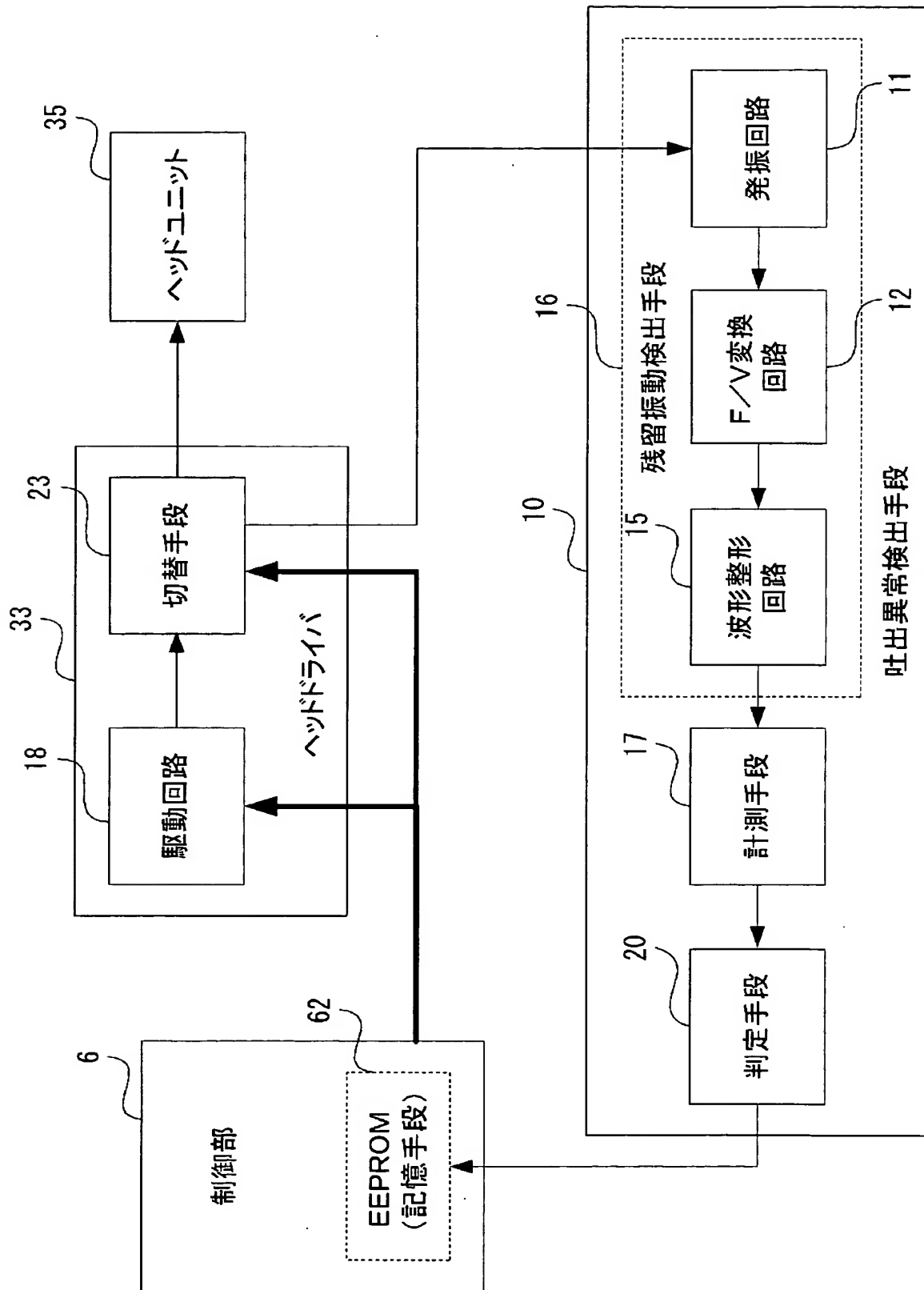
【図 14】



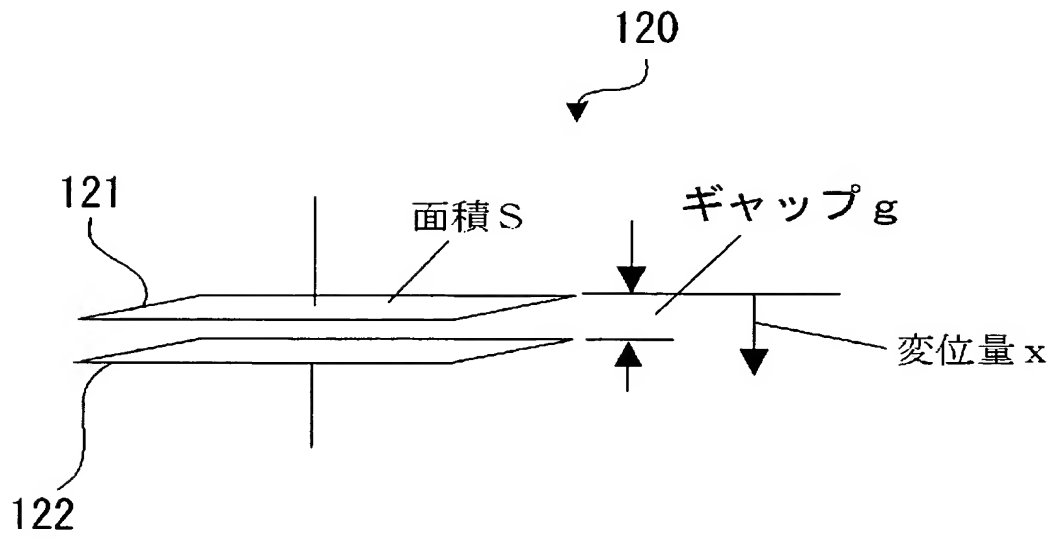
【図 15】



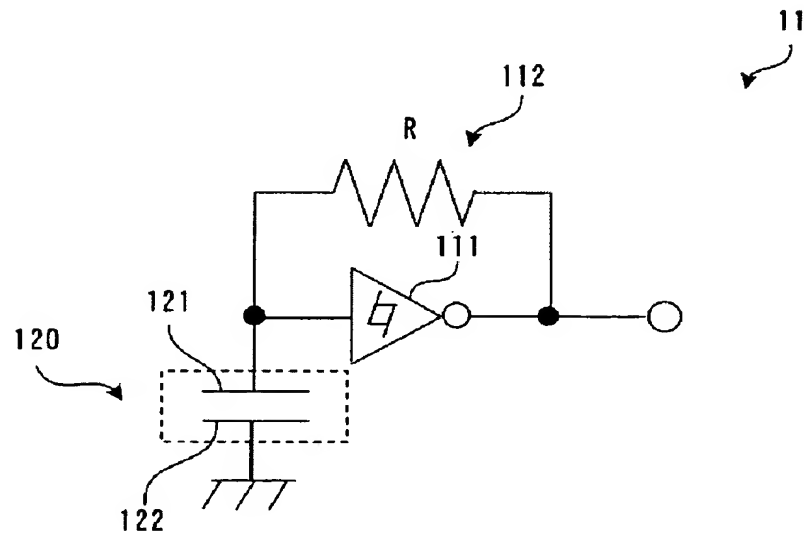
【図 16】



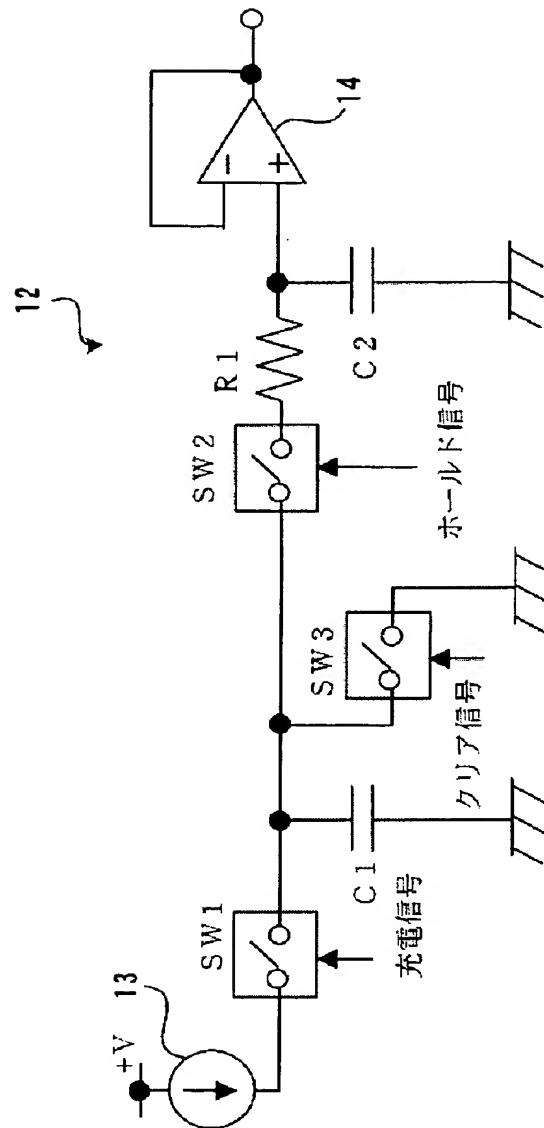
【図 17】



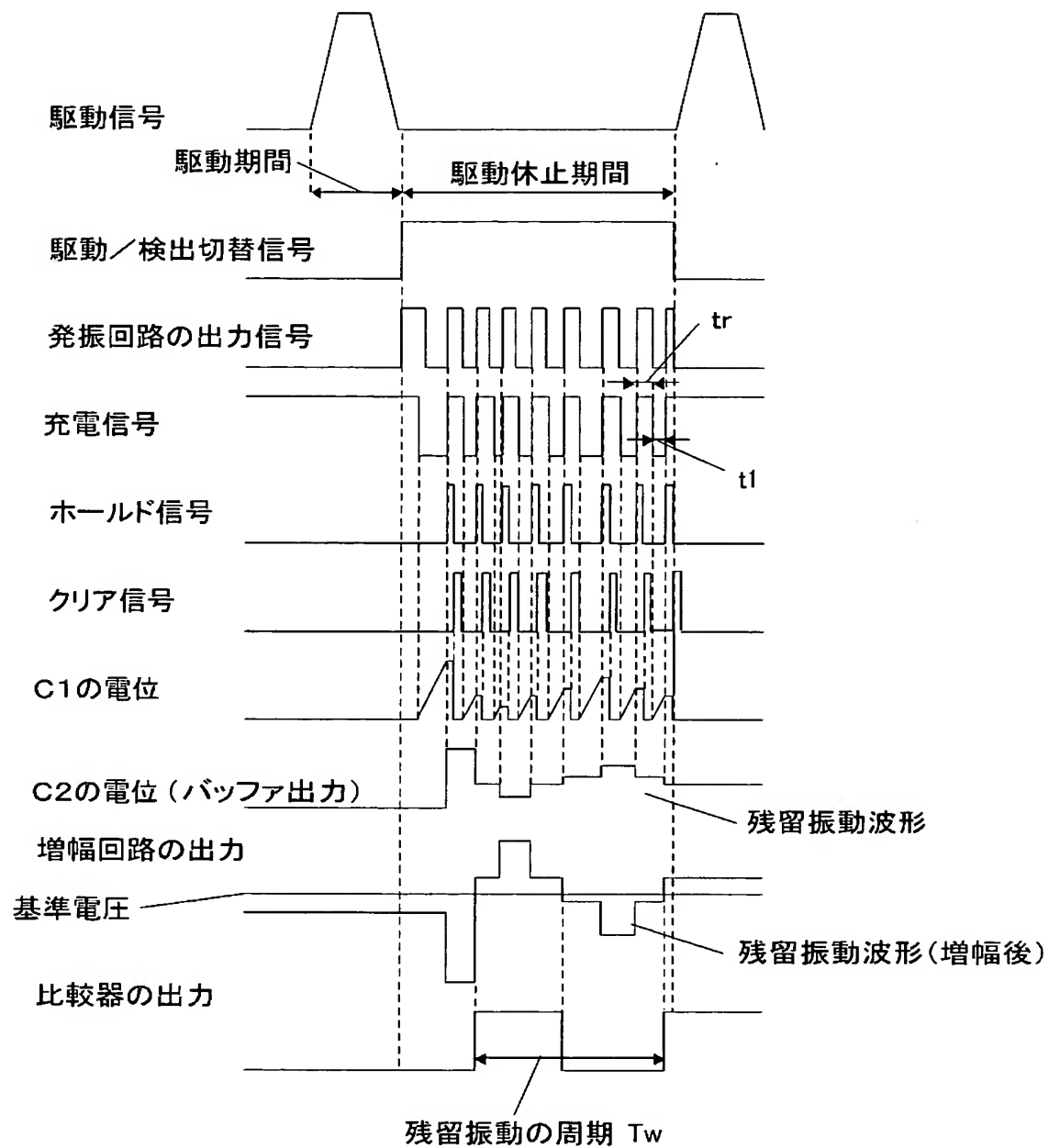
【図 18】



【図 19】

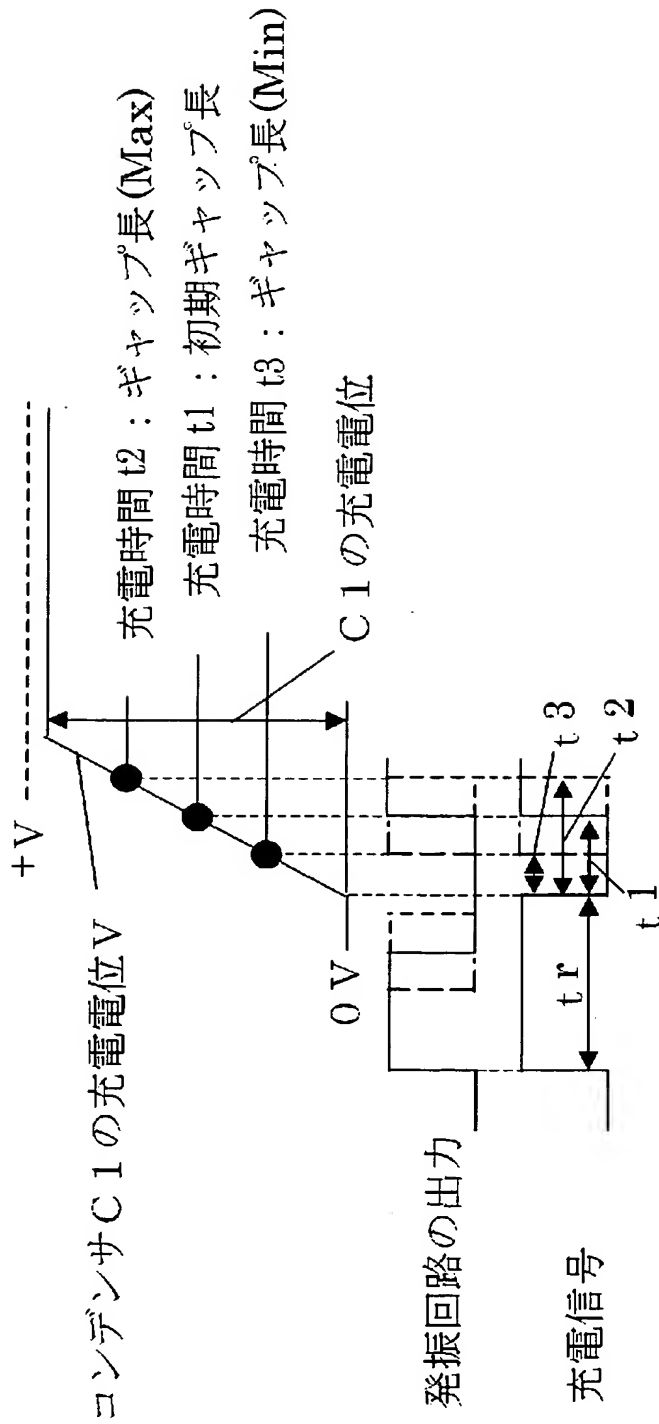


【図 20】

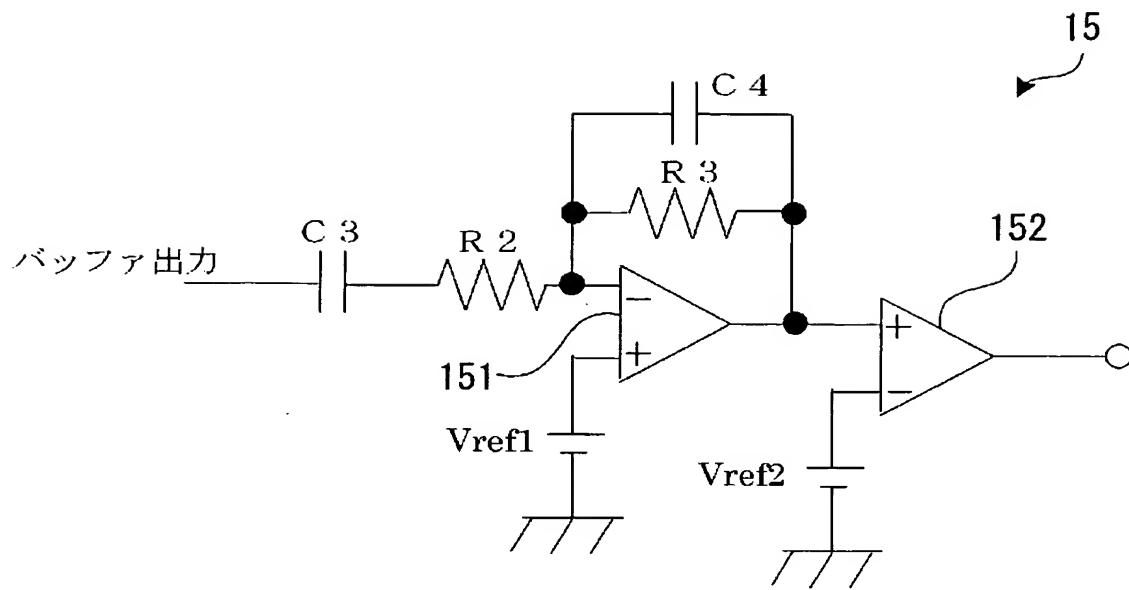




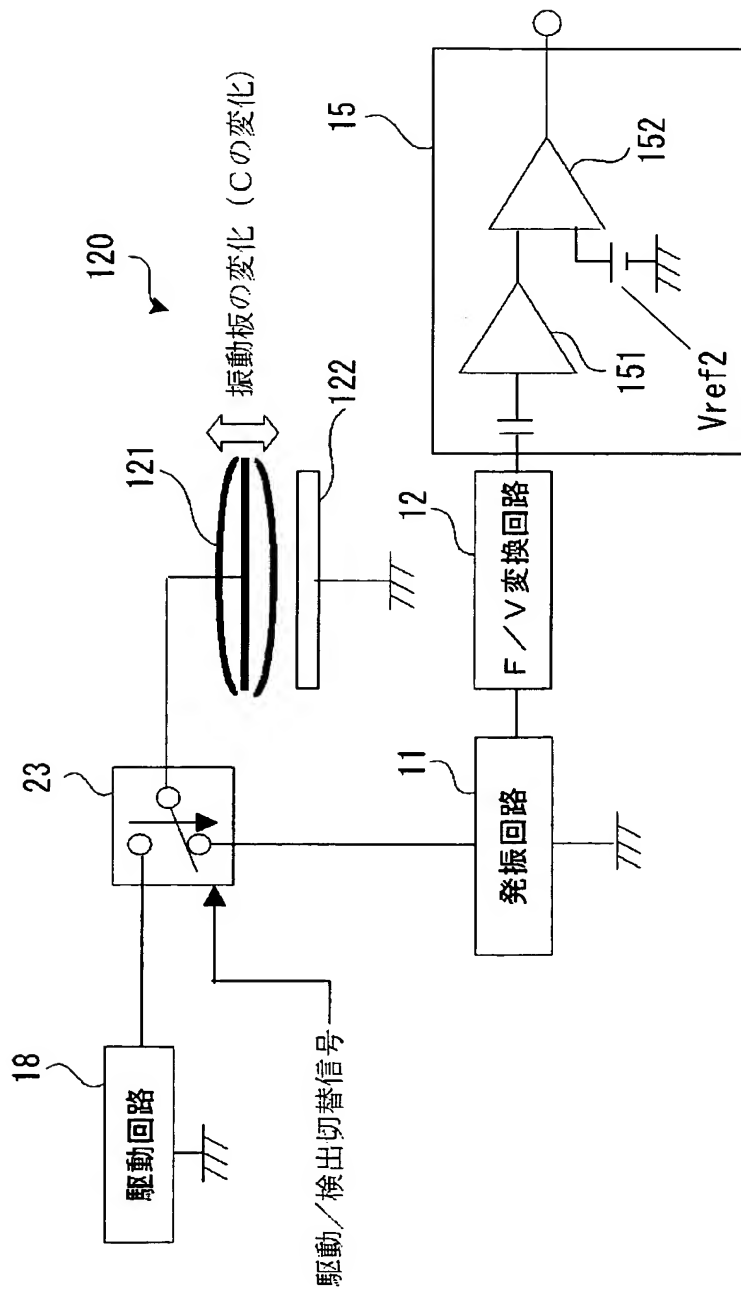
【図 21】



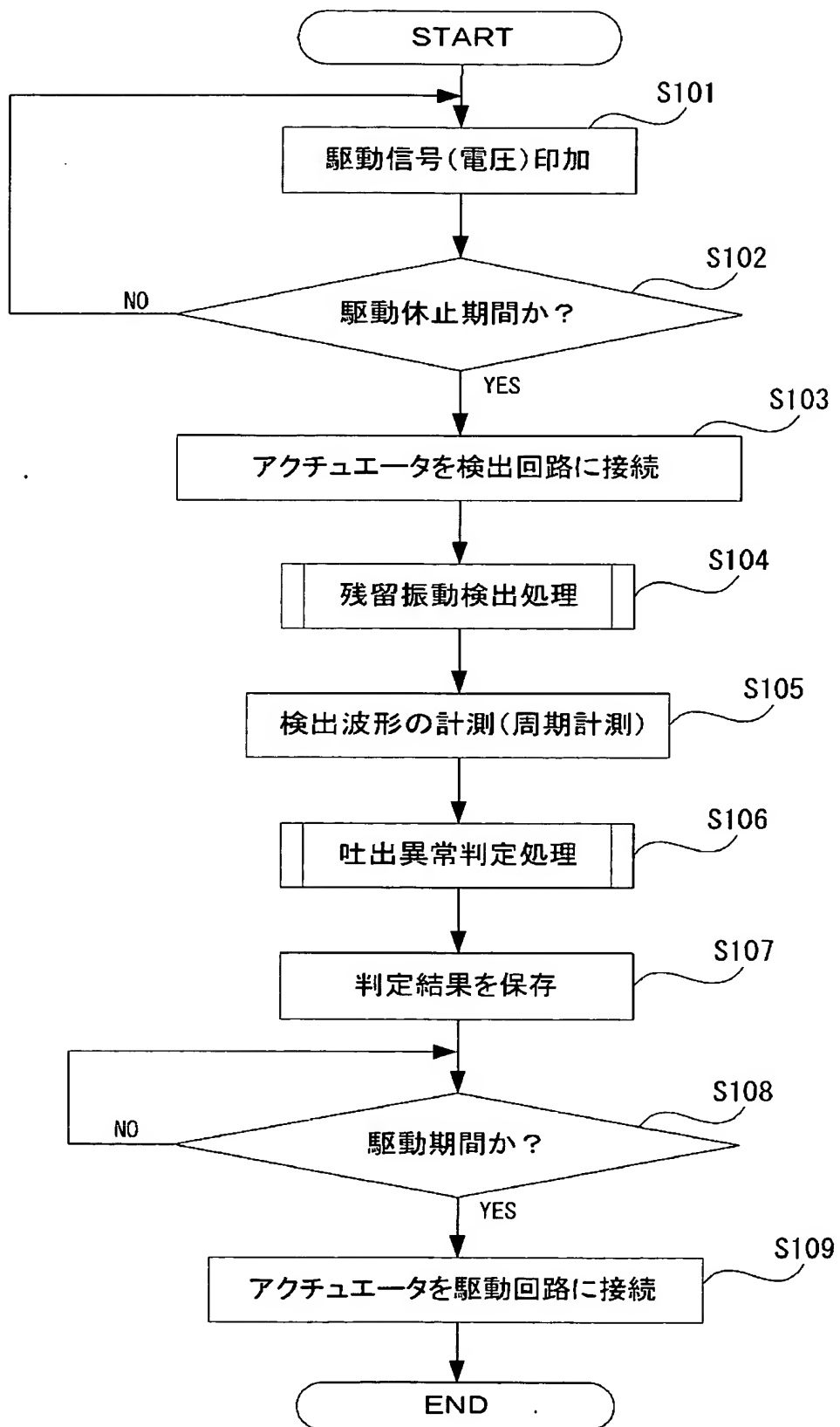
【図 22】



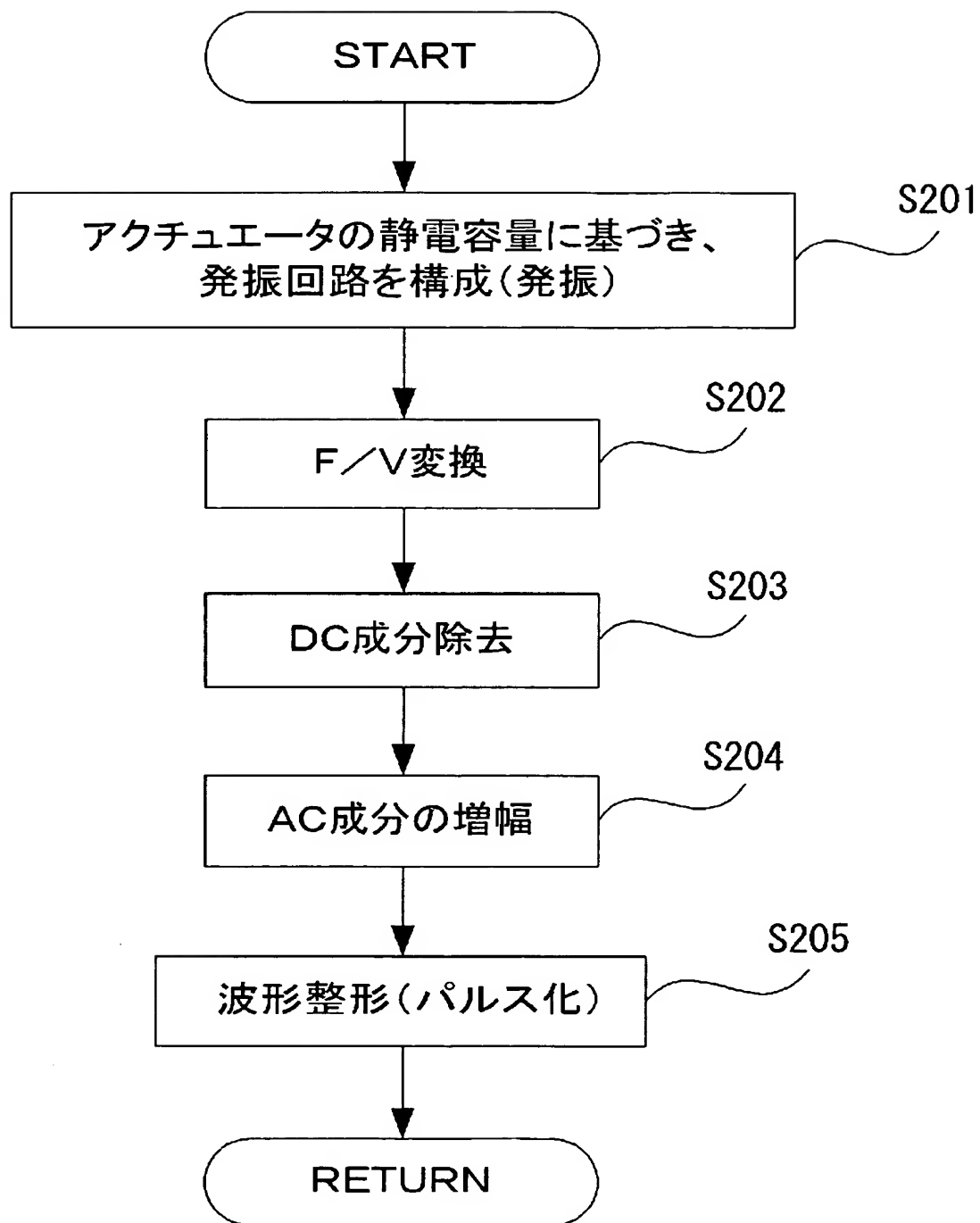
【図 23】



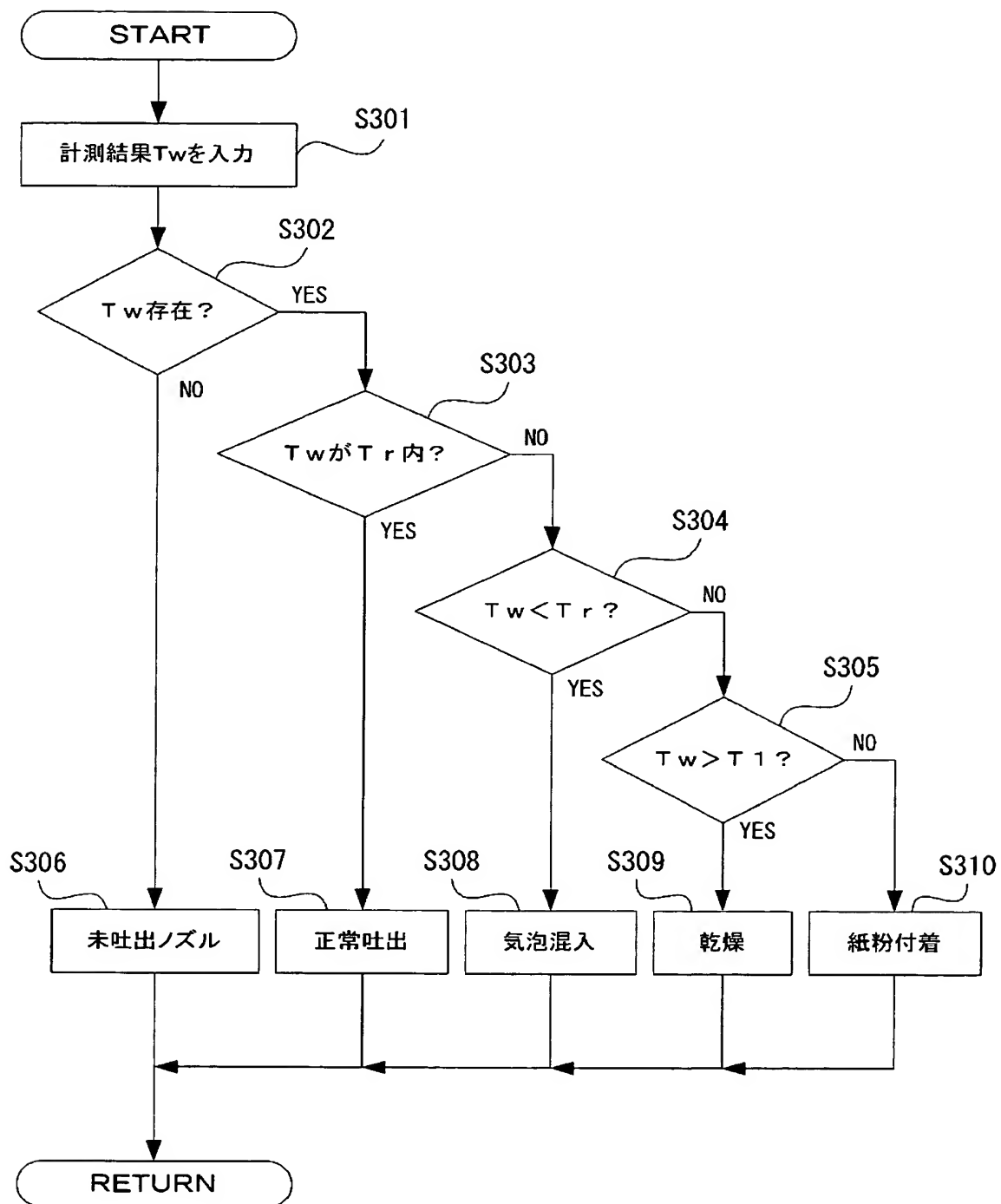
【図 24】



【図 25】

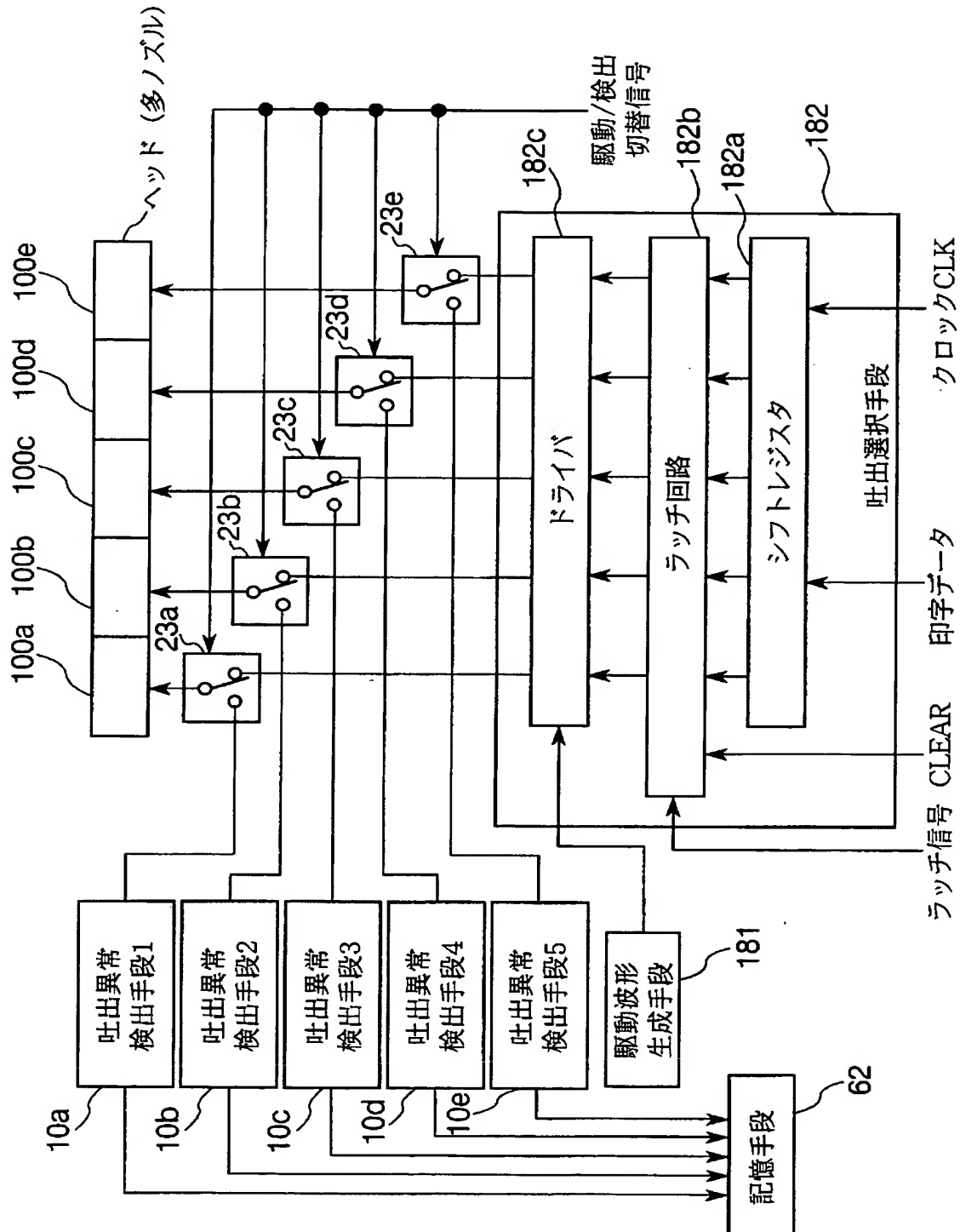


【図 26】



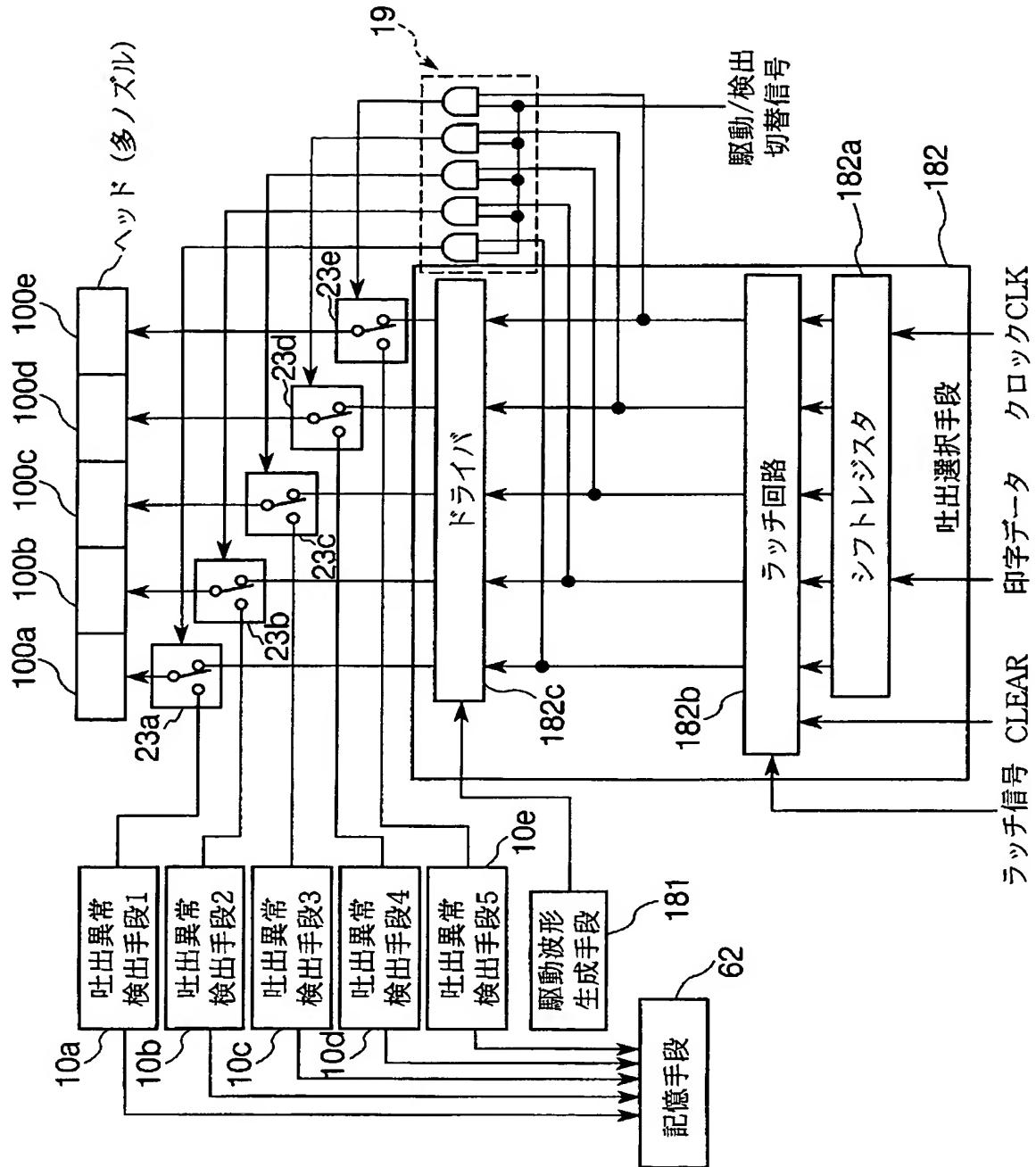


【図28】

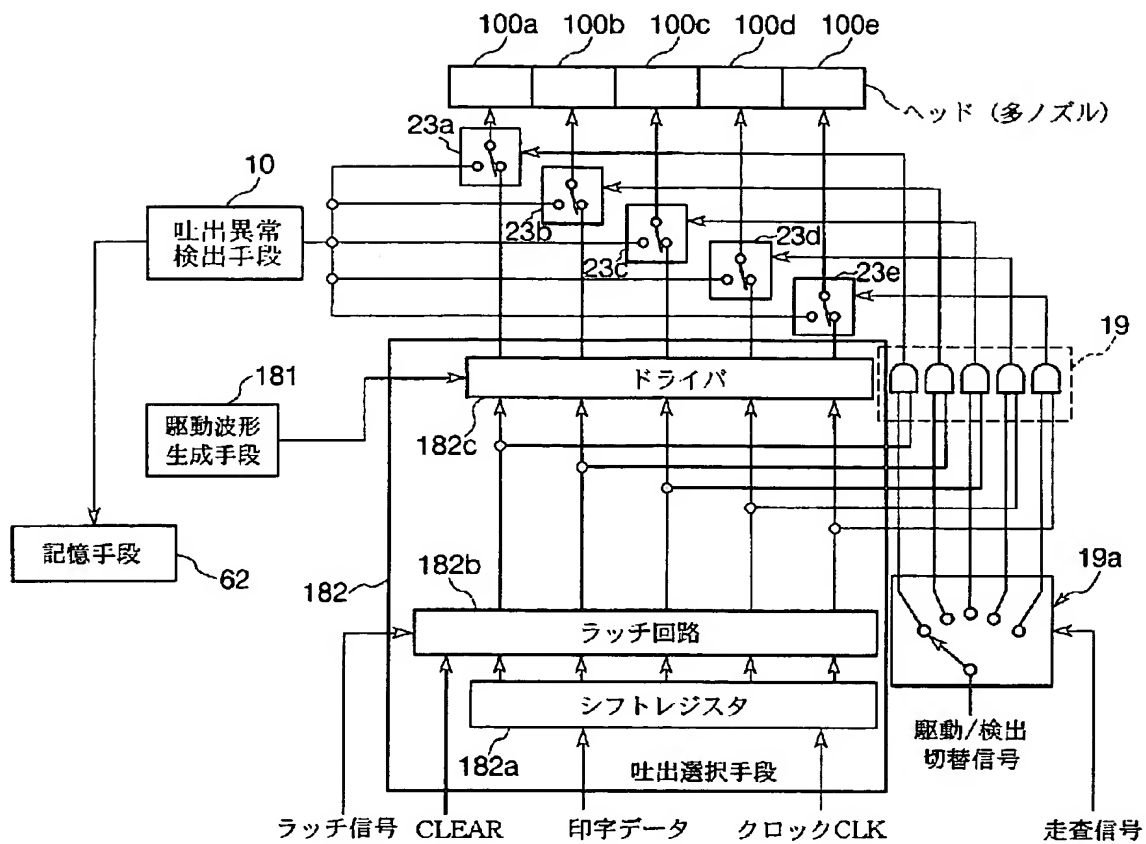




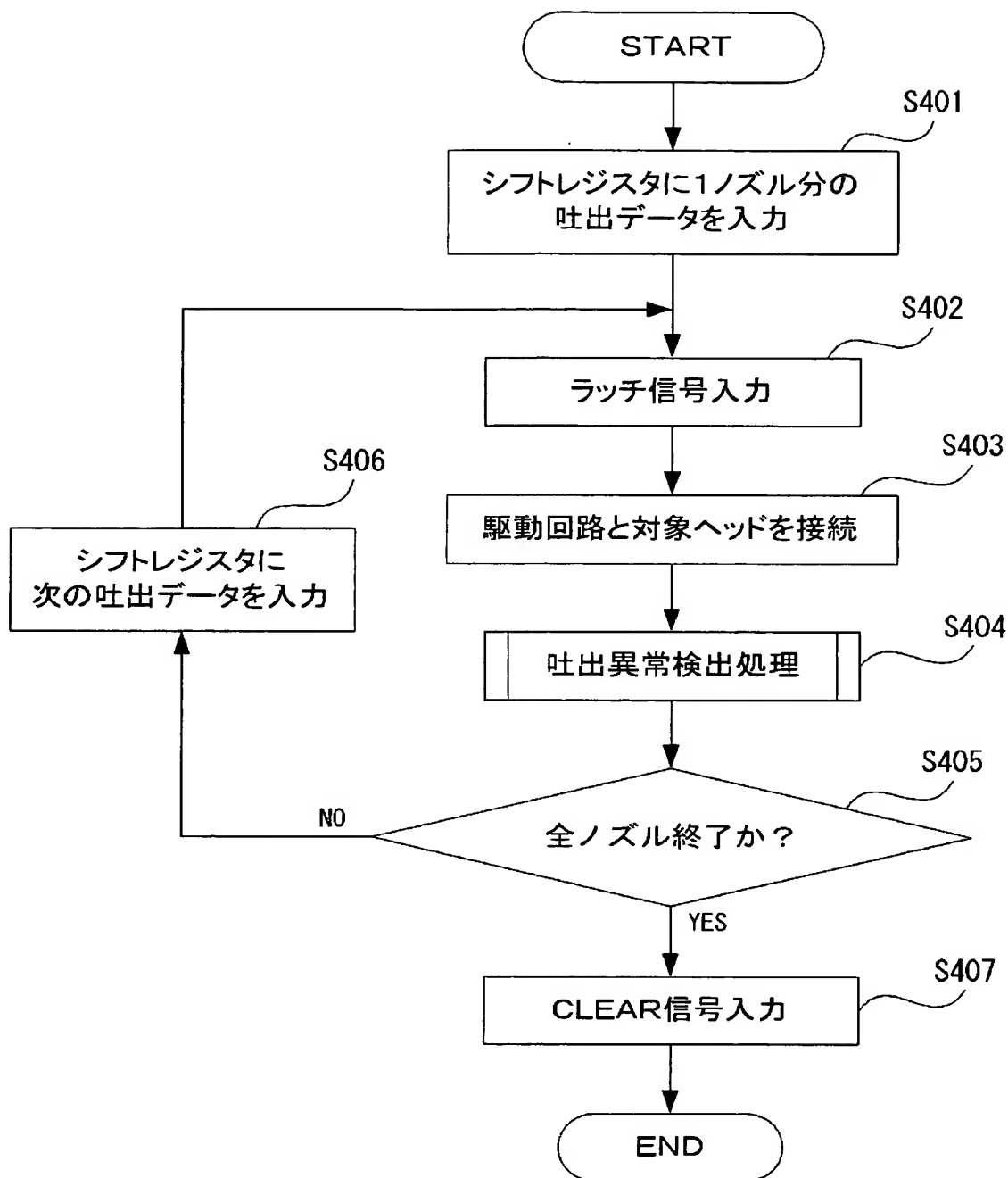
【図 29】



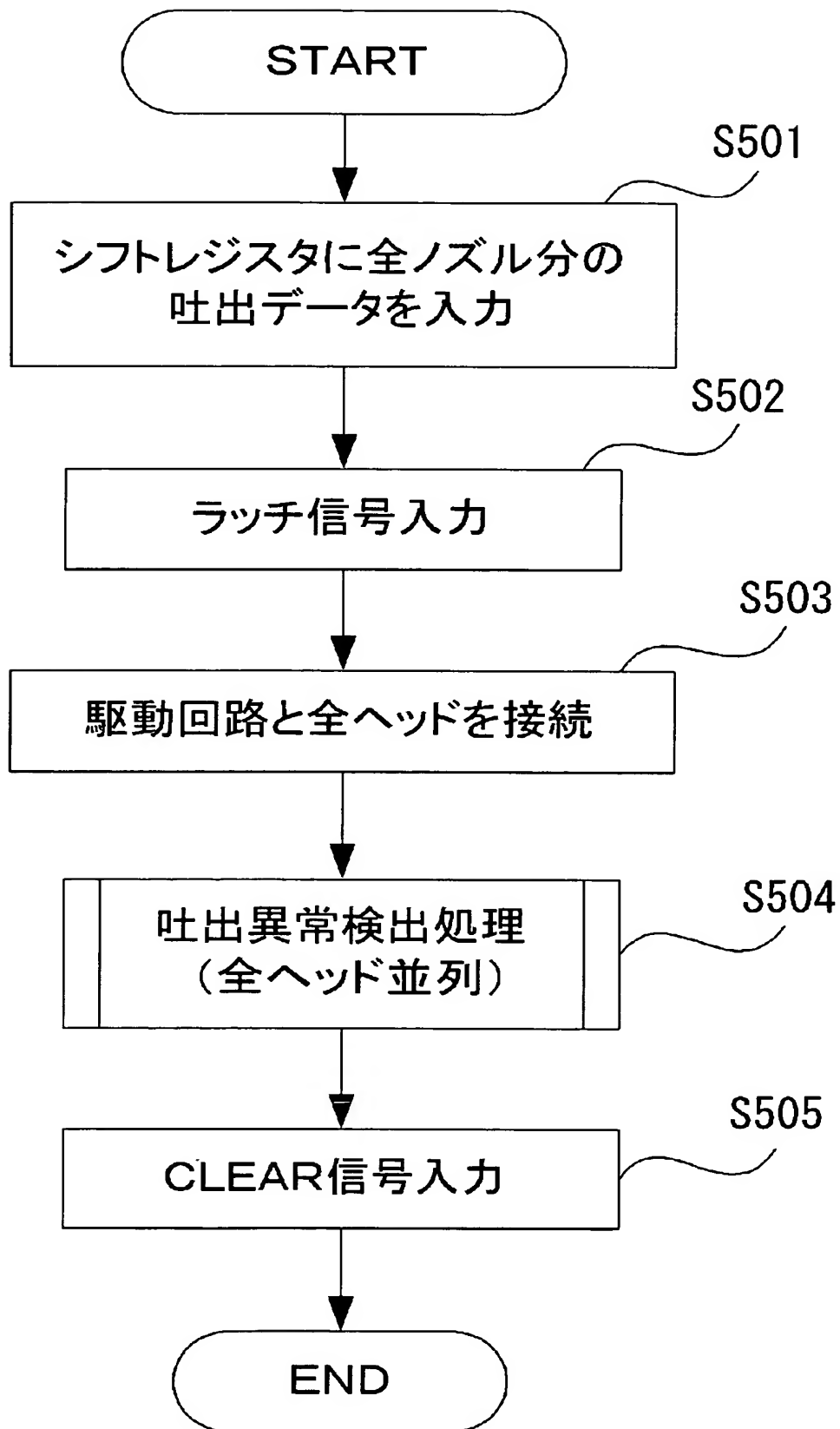
【図 30】



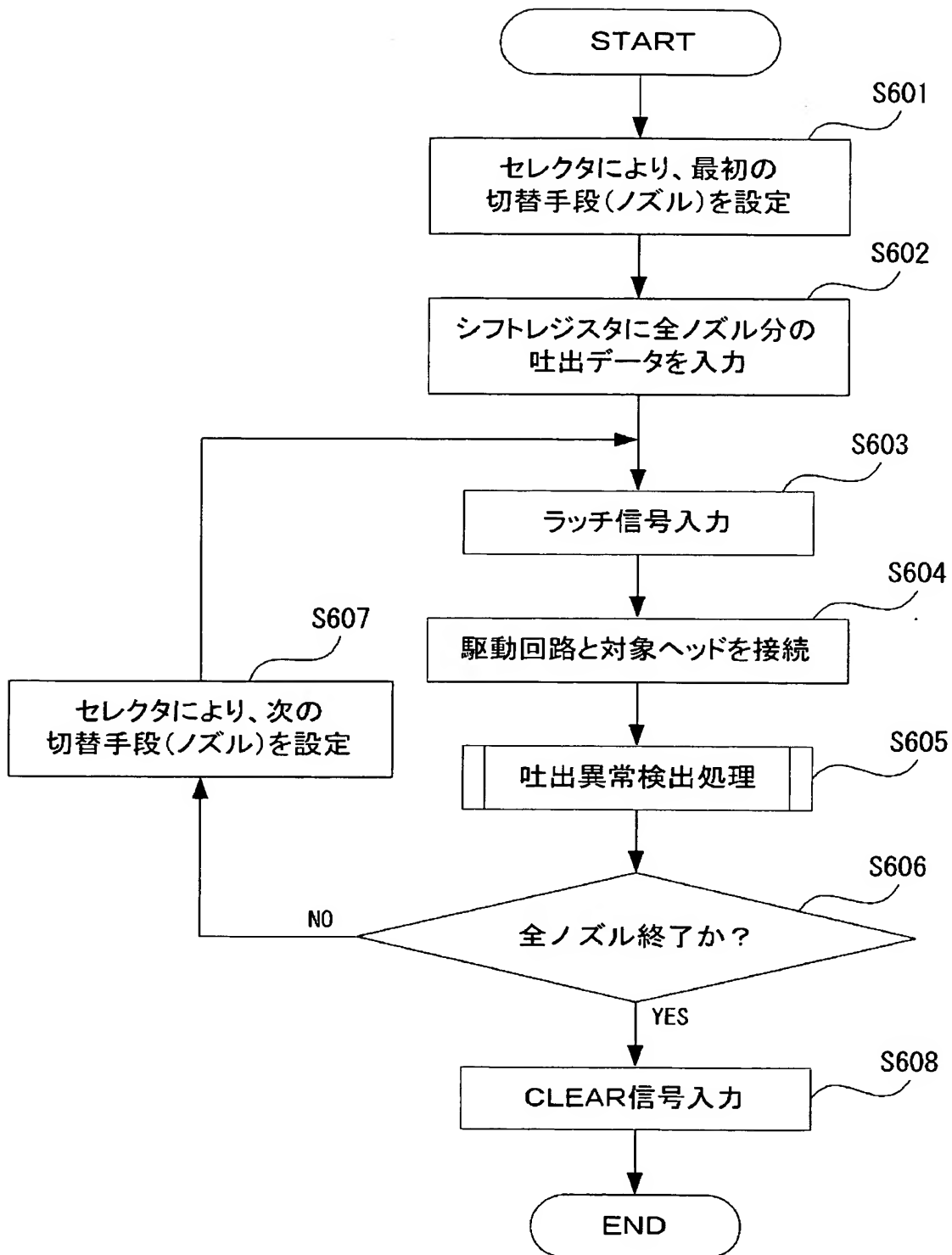
【図 31】



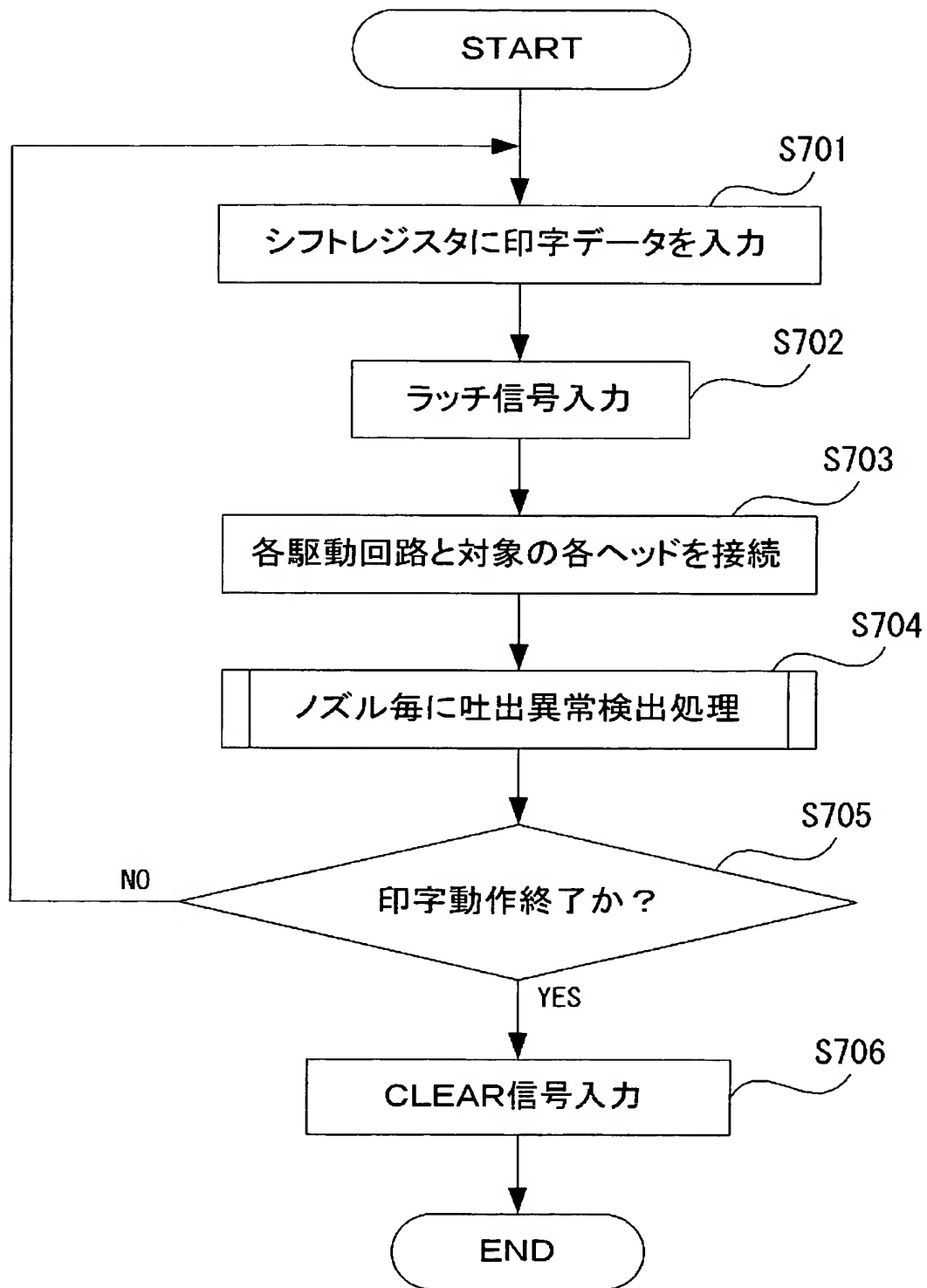
【図 32】



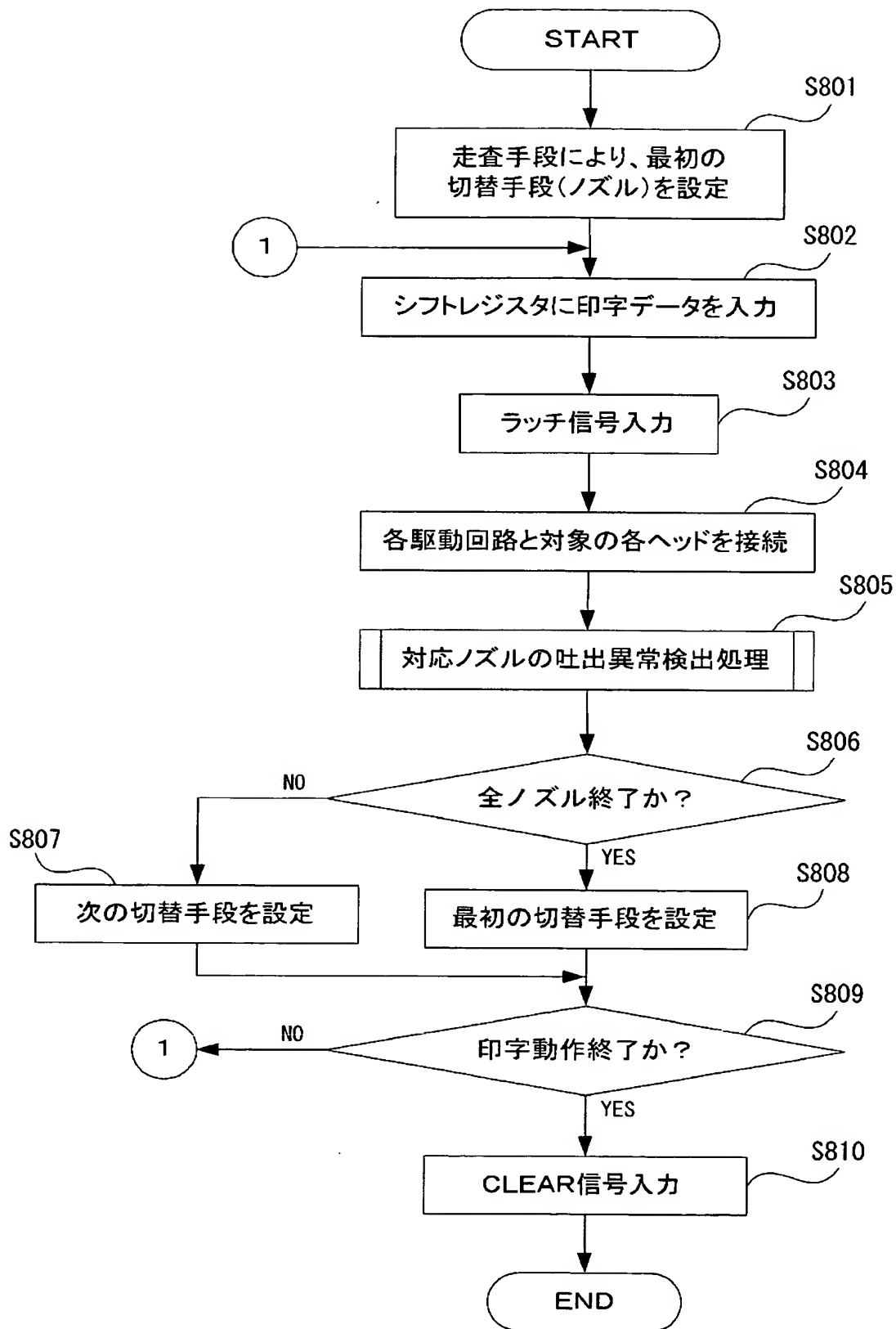
【図 33】



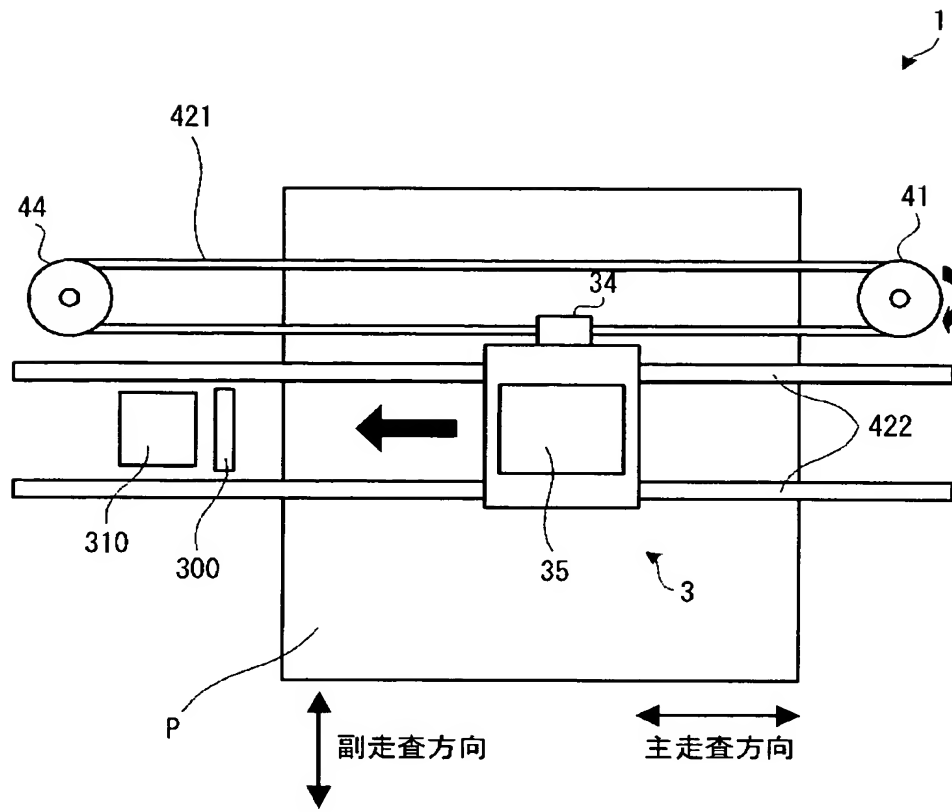
【図 34】



【図 35】

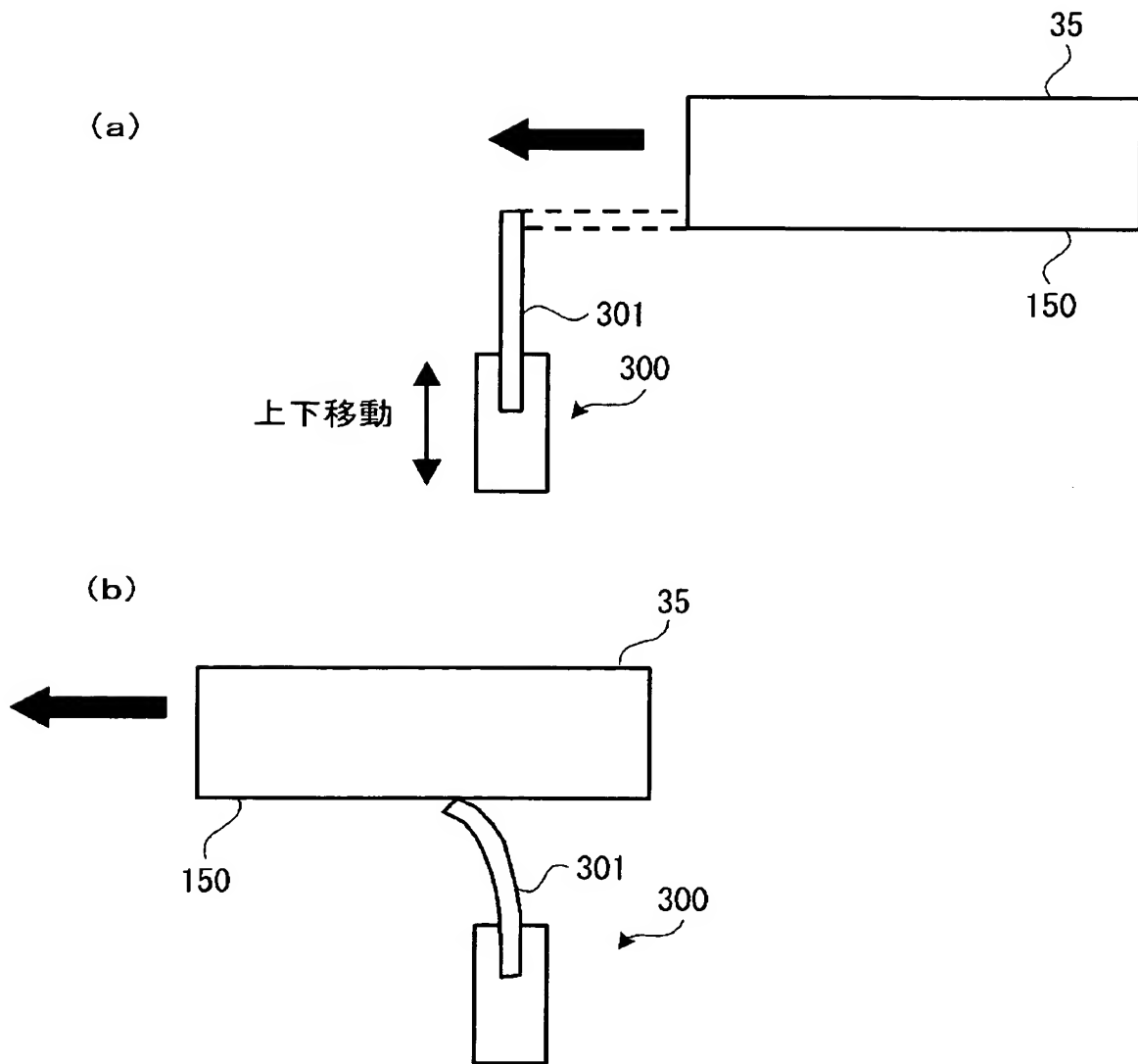


【図 36】

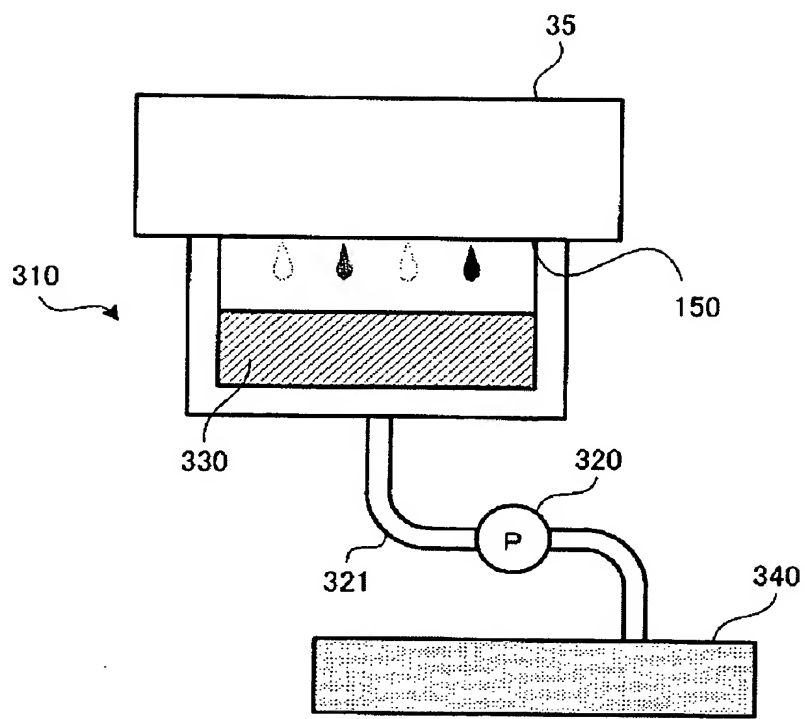




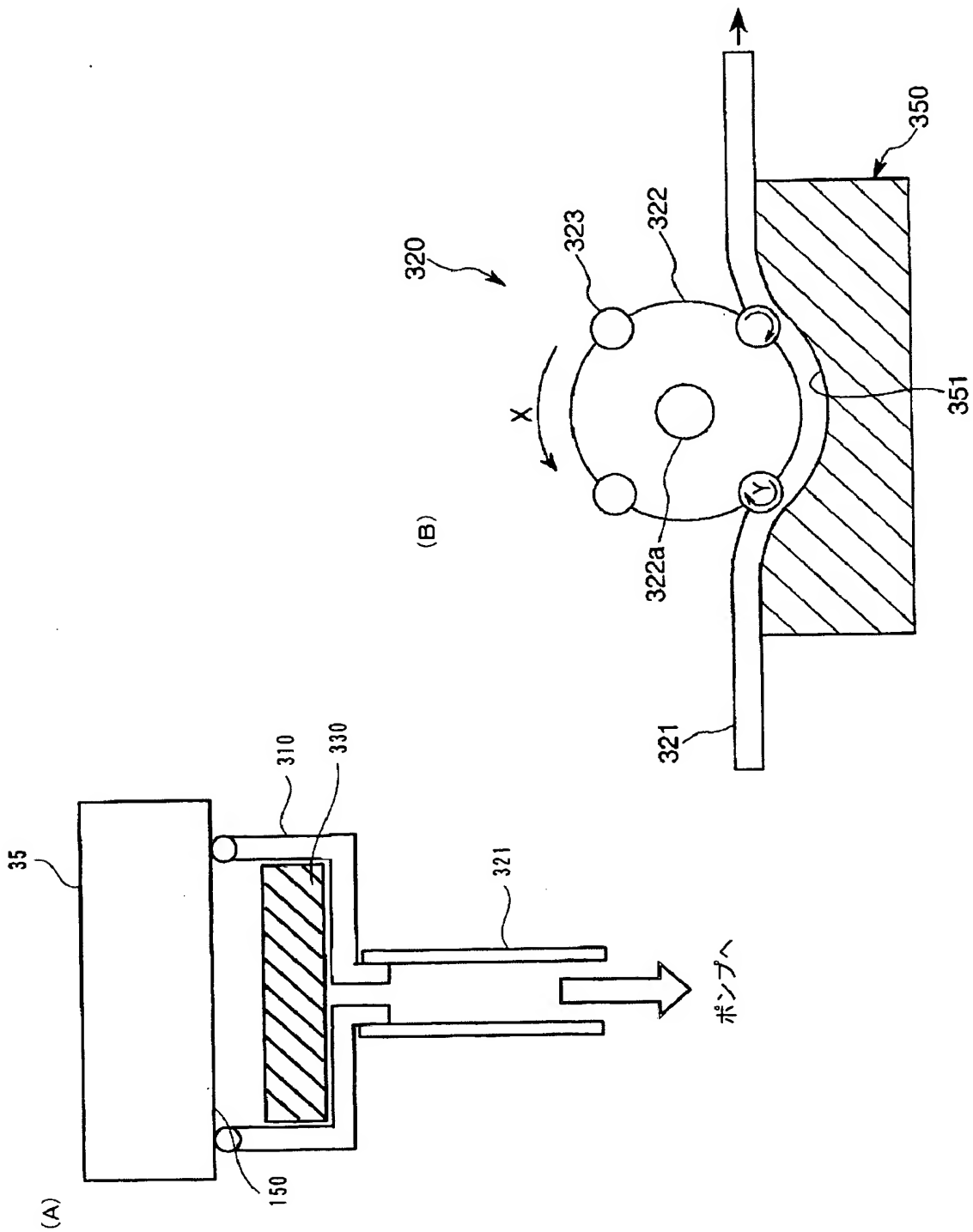
【図 37】



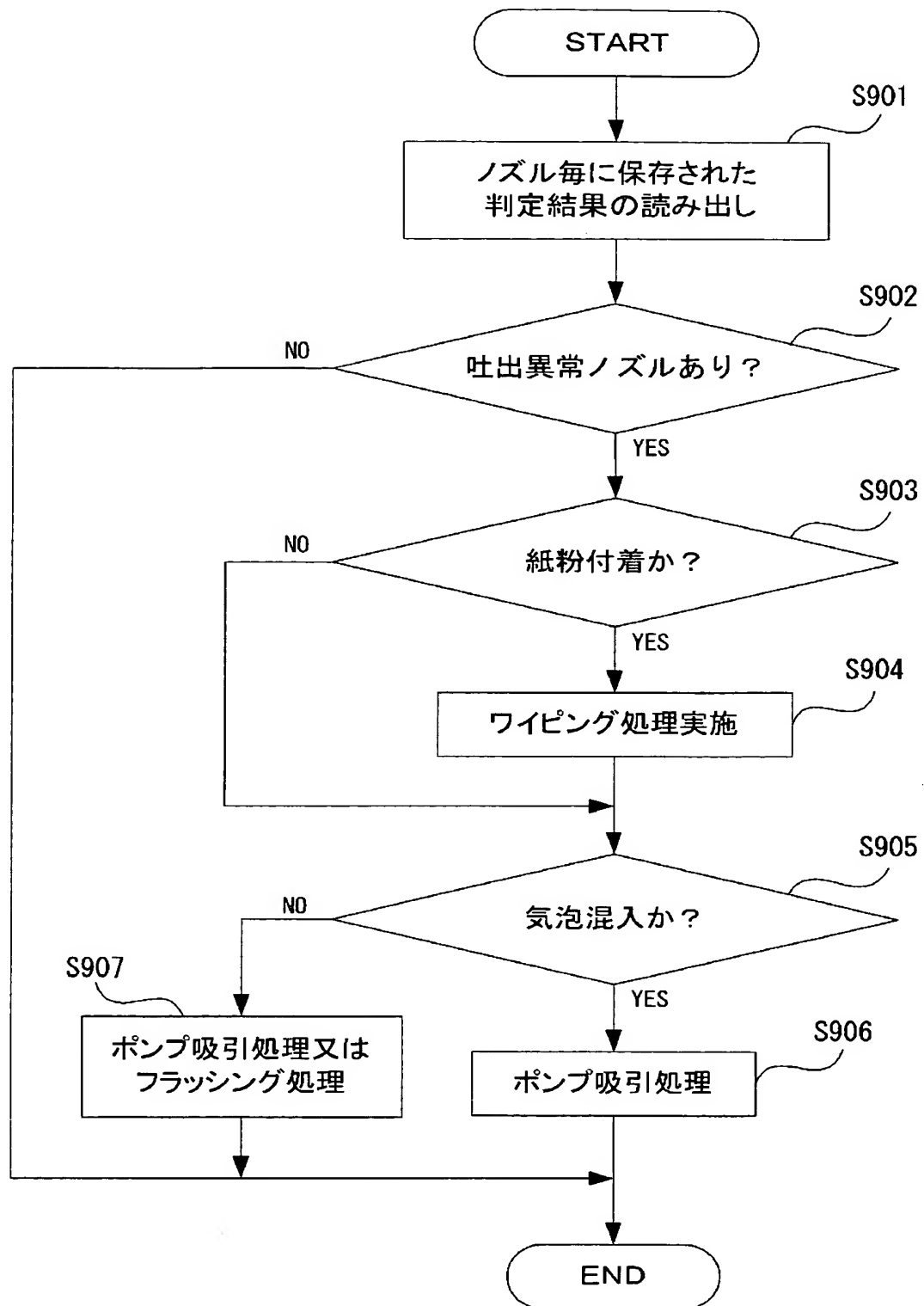
【図 38】



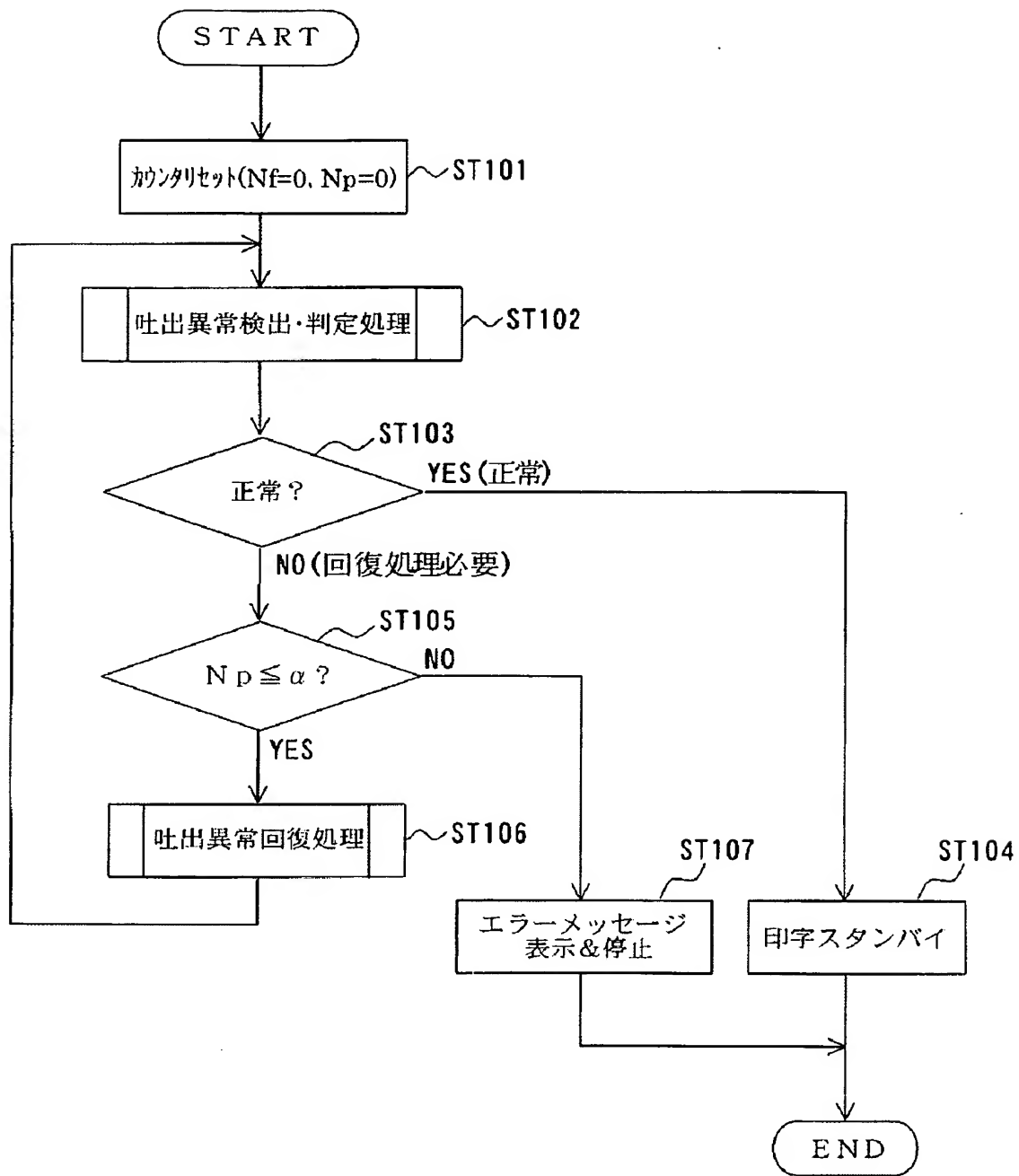
【図 39】



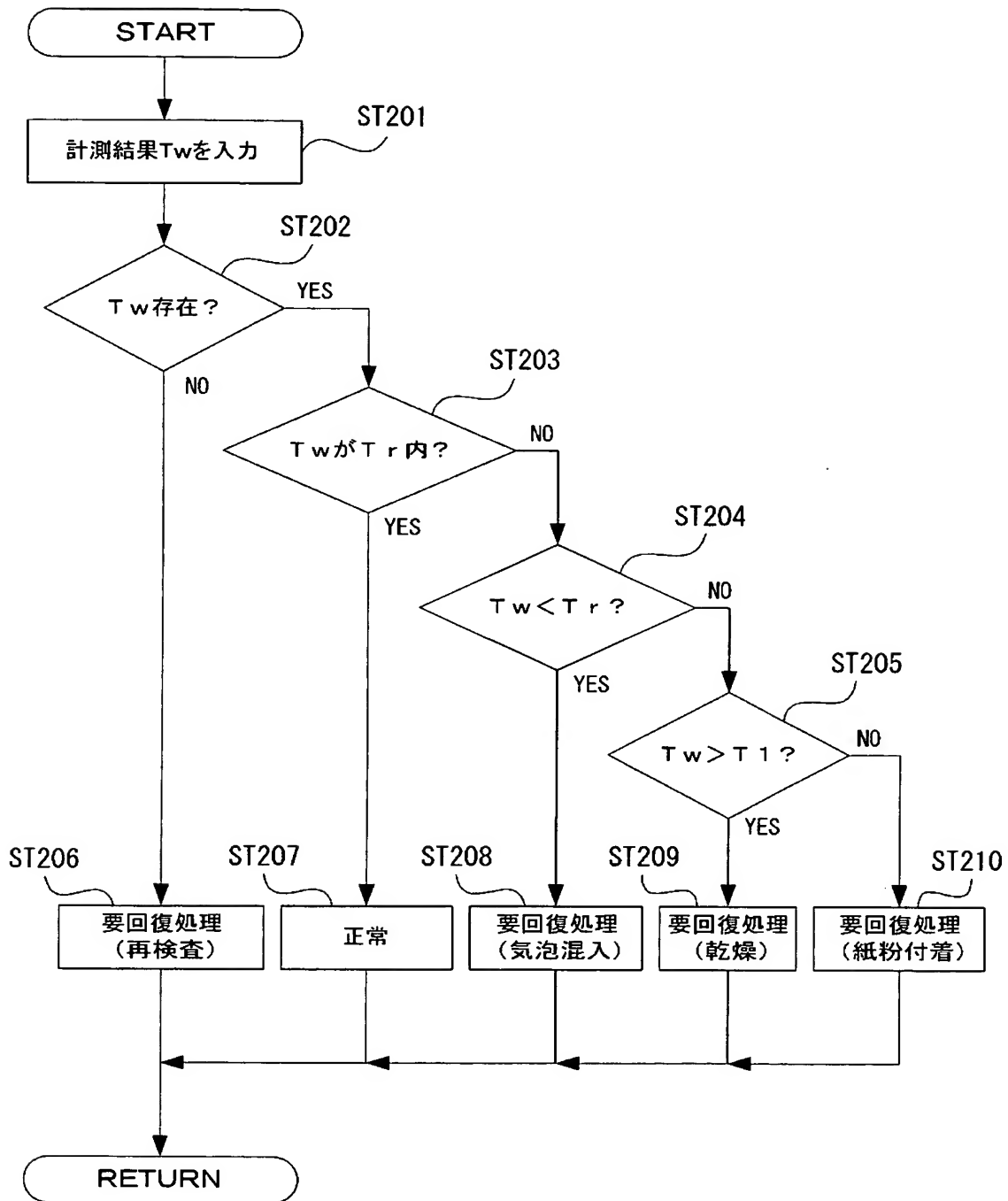
【図 40】



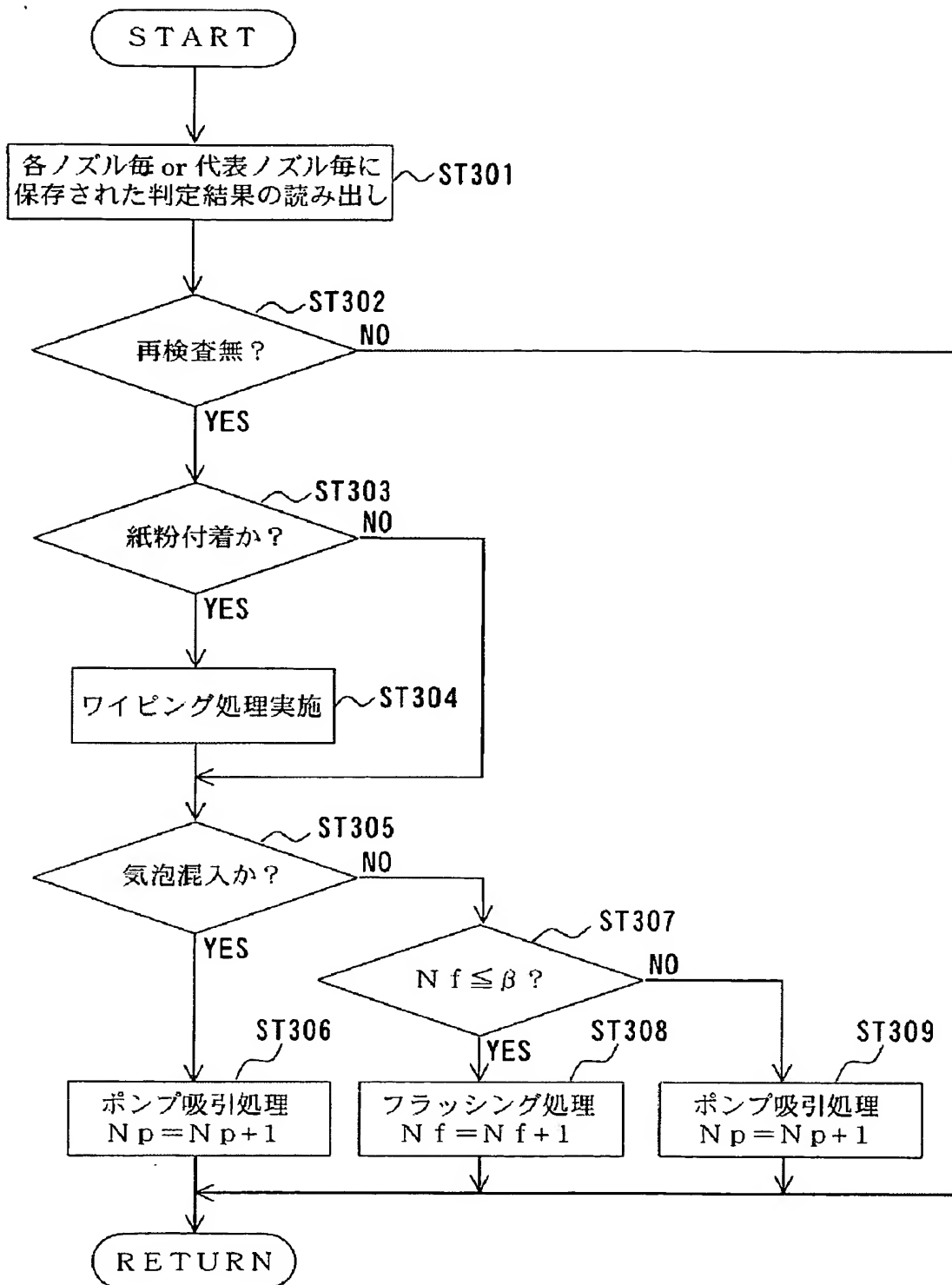
【図 41】



【図 4 2】



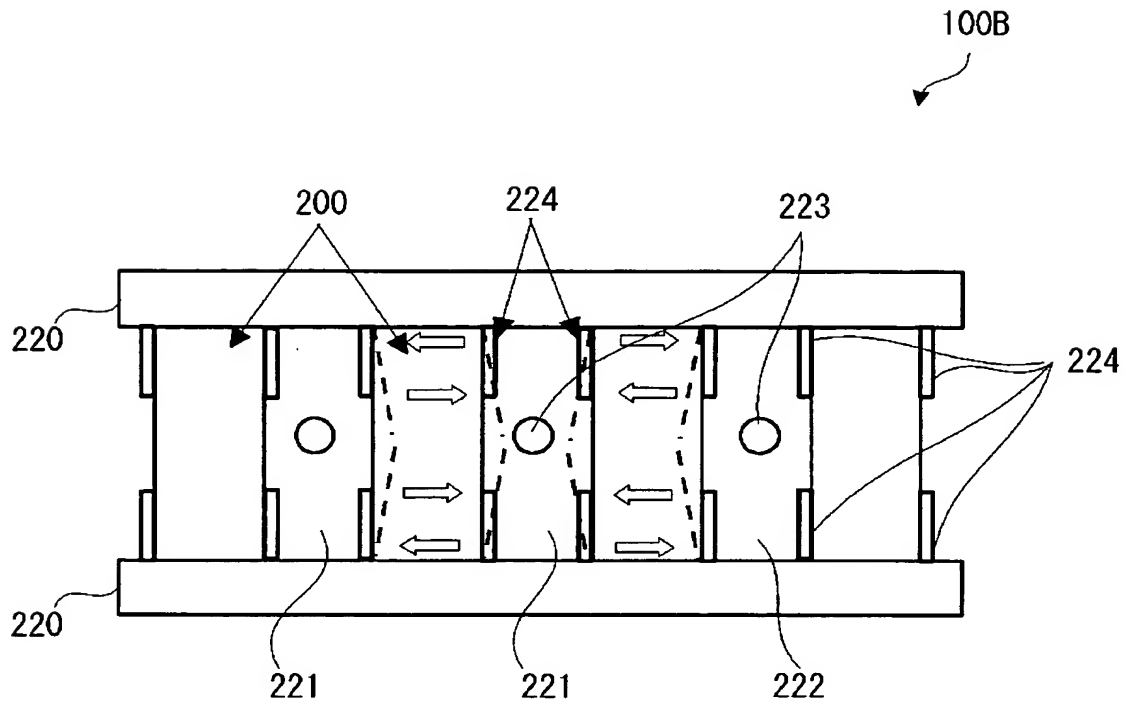
【図 4 3】



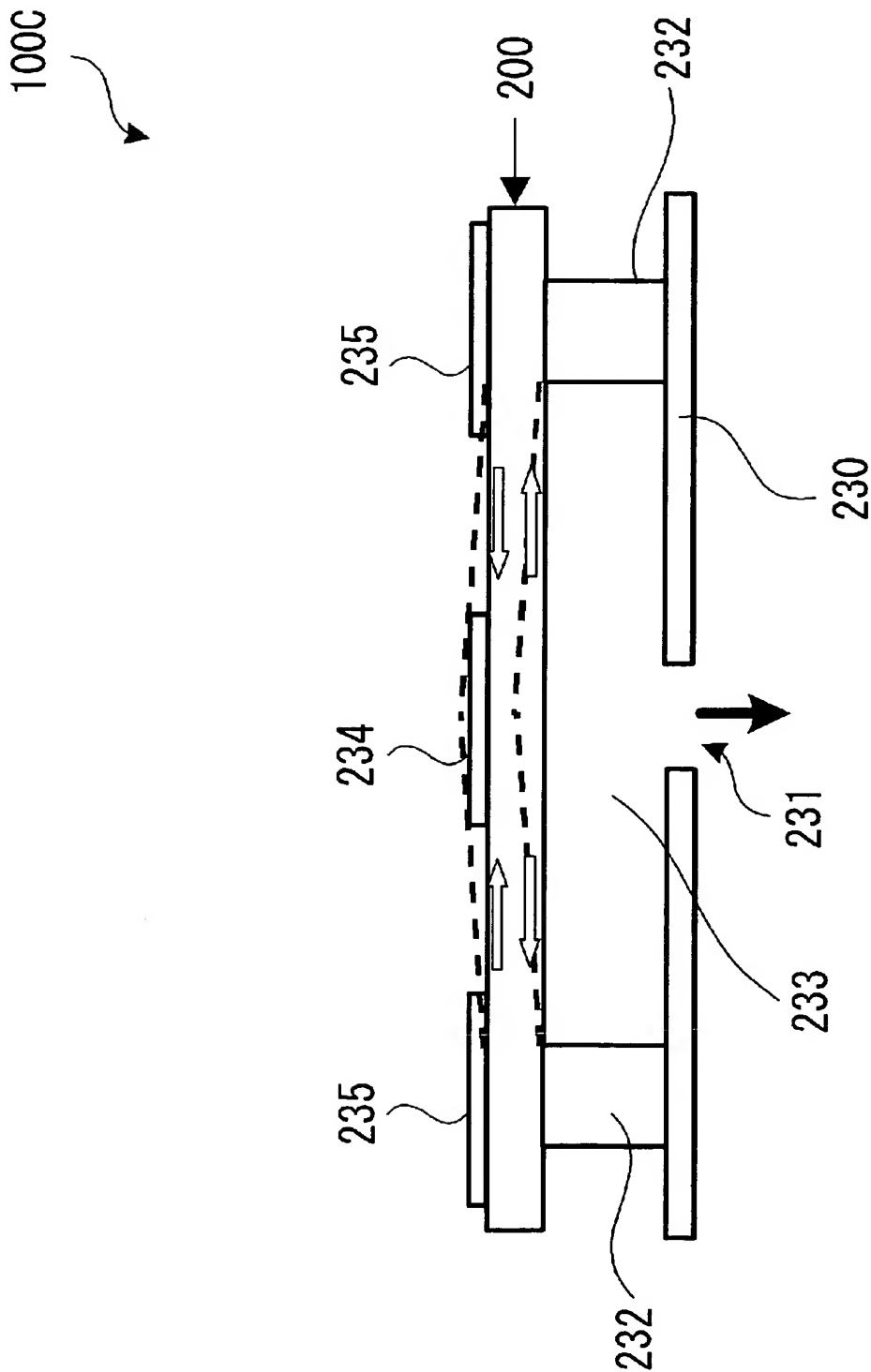




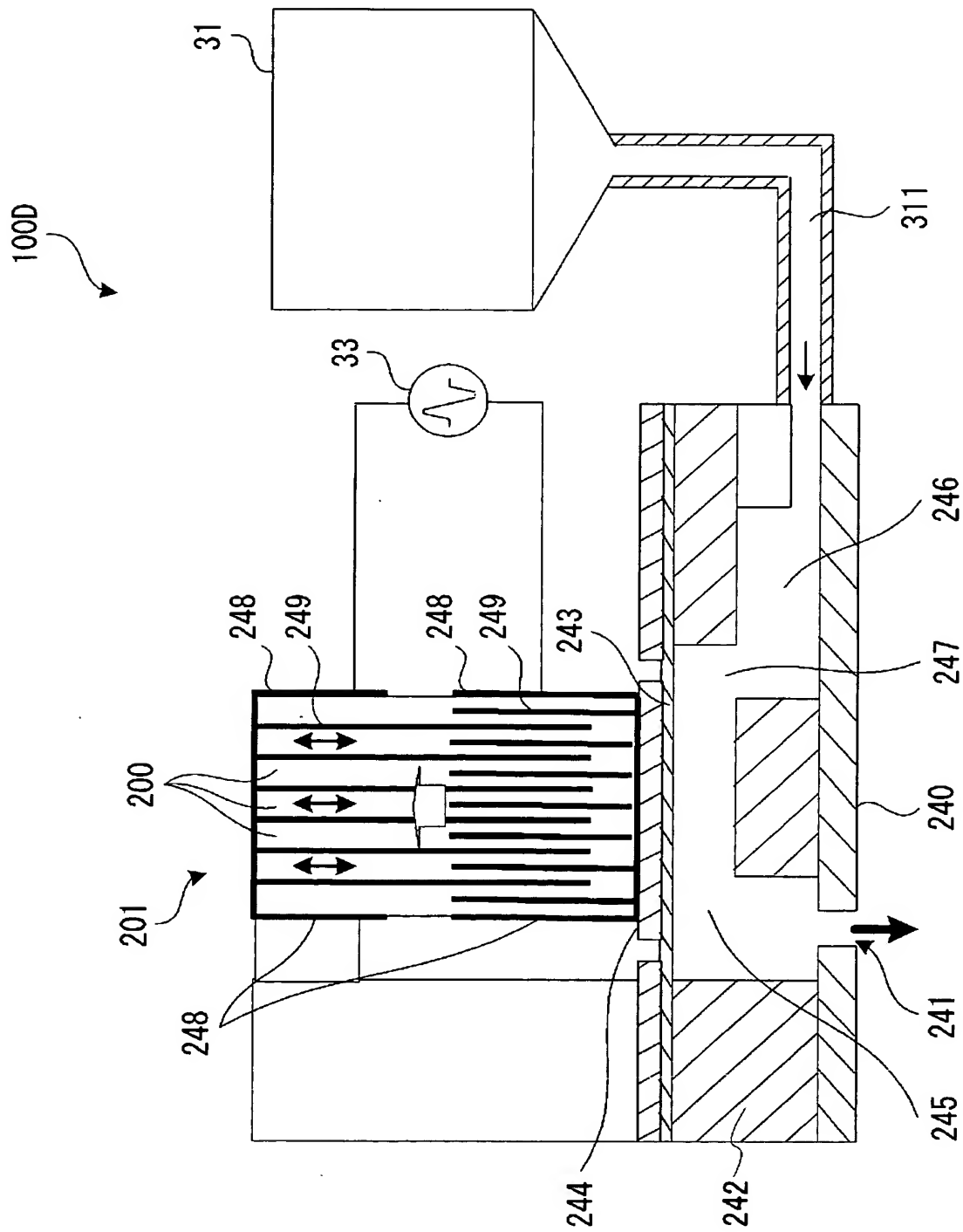
【図 45】



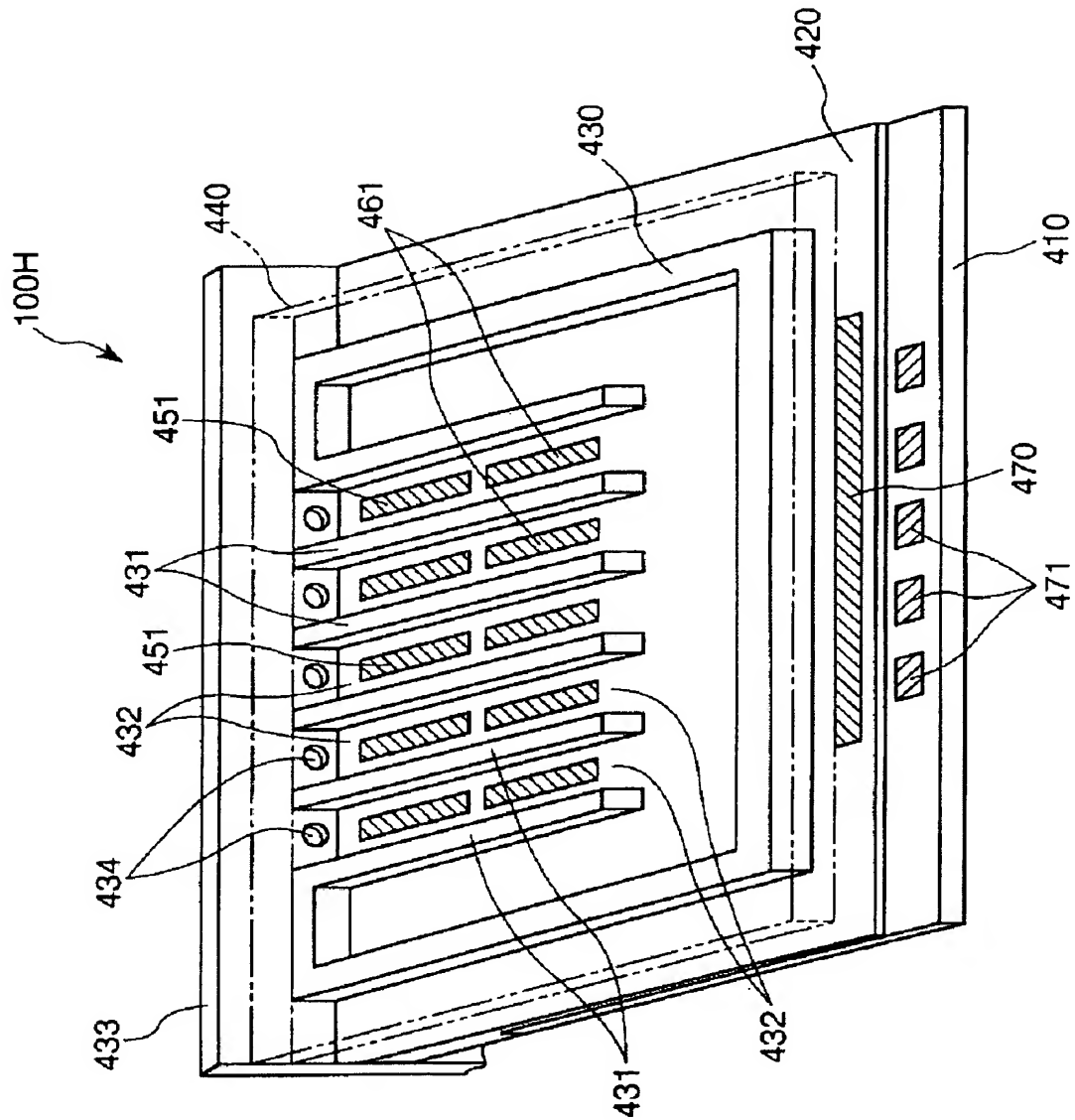
【図 46】



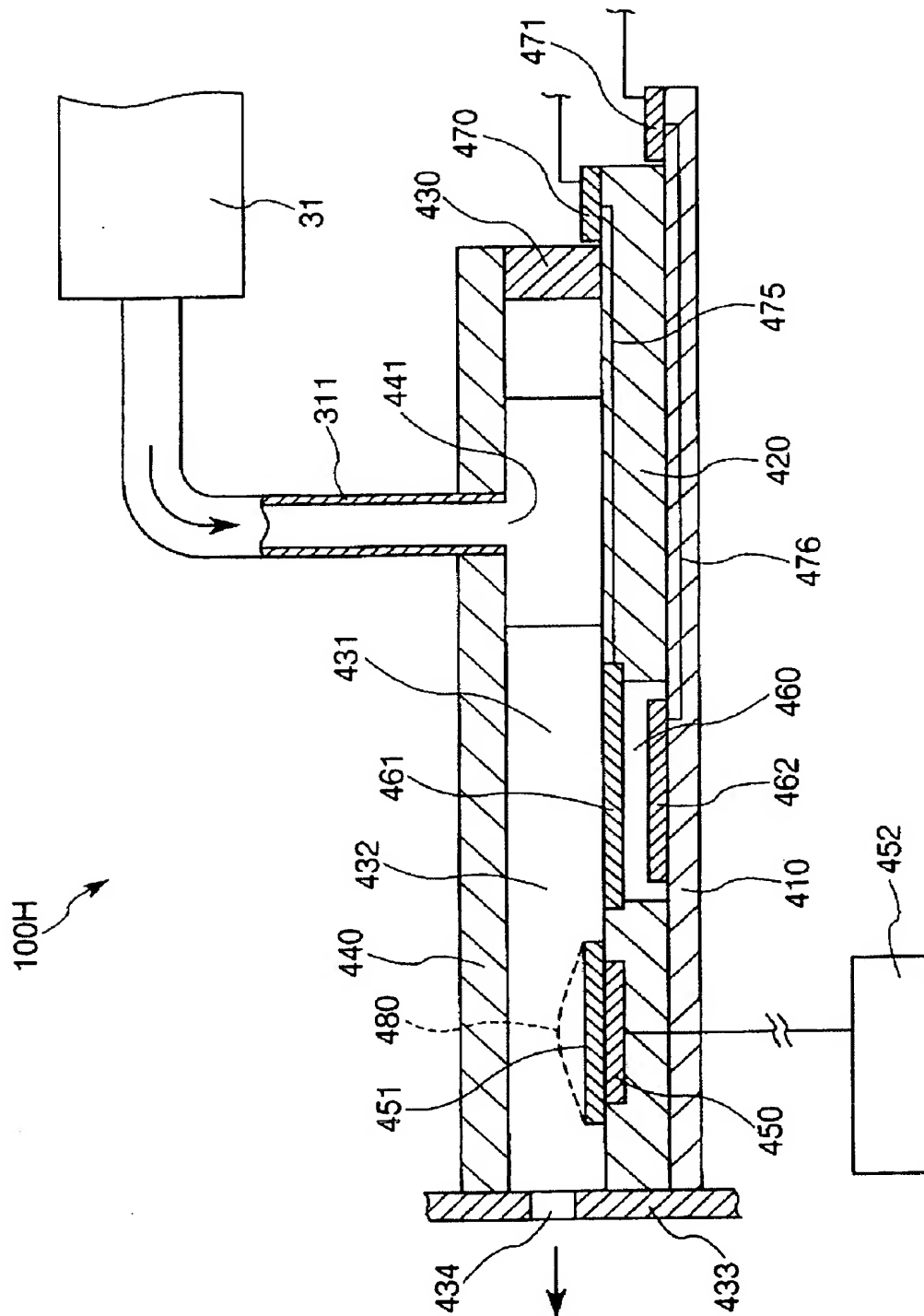
【図 47】



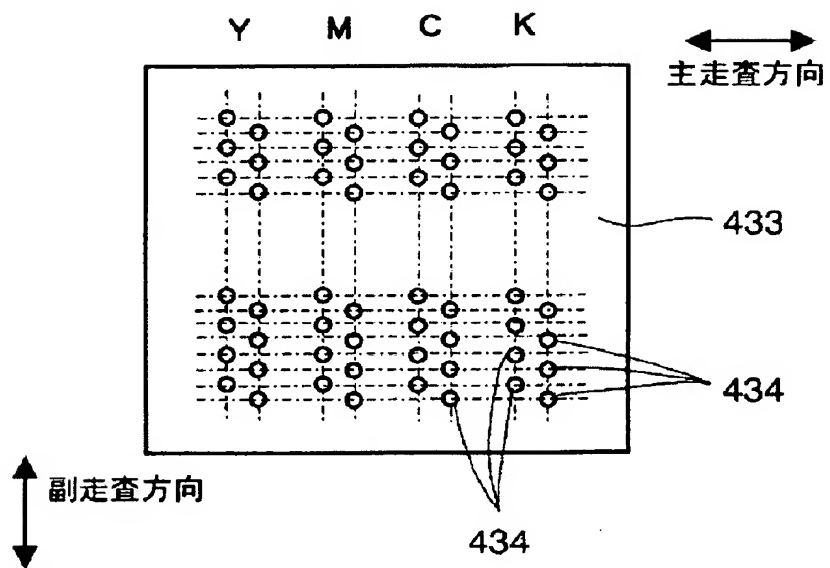
【図 48】



【図 49】



【図 50】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 電源投入の際の液滴吐出ヘッドの回復処理において、容易かつ確実に、適正な回復処理を行うことができる液滴吐出装置を提供する。

【解決手段】 本発明の液滴吐出装置は、駆動回路により駆動されるアクチュエータと、前記アクチュエータの駆動により変位する振動板とを有し、前記駆動回路によりアクチュエータを駆動し、キャビティ内の液体をノズルから液滴として吐出する複数の液滴吐出ヘッドを備える液滴吐出装置であって、少なくとも電源投入の際、前記振動板の残留振動を検出し、該検出された前記振動板の残留振動の振動パターンに基づいて、前記液滴吐出ヘッドの吐出異常を検出するとともに、その吐出異常を解消させる回復処理を決定する吐出異常検出・回復処理決定手段と、前記吐出異常検出・回復処理決定手段により決定された回復処理を実行する回復手段とを有することを特徴とする。

【選択図】 図2

認定・付加情報

特許出願の番号	特願 2003-088507
受付番号	50300506884
書類名	特許願
担当官	第二担当上席 0091
作成日	平成15年 3月28日

<認定情報・付加情報>

【提出日】	平成15年 3月27日
-------	-------------

次頁無



特願 2 0 0 3 - 0 8 8 5 0 7

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [ 0 0 0 0 0 2 3 6 9 ]

1. 変更年月日	1 9 9 0 年 8 月 2 0 日
[変更理由]	新規登録
住 所	東京都新宿区西新宿 2 丁目 4 番 1 号
氏 名	セイコーエプソン株式会社